

大間原子力発電所審査資料	
資料番号	OM1－CA100－R00
提出年月日	2020 年 5 月 11 日

大間原子力発電所
基準津波の策定について
(コメント回答)
(津波堆積物調査 リカバリー孔について)

2020 年 5 月
電源開発株式会社

大間原子力発電所 基準津波の策定について

(コメント回答)

(津波堆積物調査 リカバリー孔について)

2020年5月11日

電源開発株式会社

1. リカバリー孔について（概要）（1／2）

コメントNo.S5-39



1

○ 本資料で回答する指摘事項：津波堆積物に関わる現地調査における指摘事項

No.	項目	指摘時期	コメント内容	掲載箇所
S5-39	津波堆積物	現地調査 (H30.11.15)	津波堆積物ボーリングコアに関して、OM5のリカバリー孔の深度1.5m付近の砂状の堆積物について、堆積物中の礫の状況など再度確認し、イベント堆積物等であるか否か再度検討し説明すること。 また、リカバリー孔についても審査会合資料として説明するとともに、補足説明資料等で該当データを提示すること。	補足説明資料 P.53～P.77 P.1～P.73

○ 回答内容

上表の指摘事項に対する回答として、OM5-3孔のリカバリー孔の深度1.5m付近の砂状の堆積物について、他のリカバリー孔を含めて統合柱状図を再度確認した結果、盛土であったことを示す（補足説明資料P.61参照）。

また、分布するイベント堆積物が津波堆積物である可能性が低いと判断する大間平地点及び奥戸地点を対象にリカバリー孔掘削を実施した全地点について、リカバリー孔から統合柱状図を作成した考え方とデータを、下表に示すとおり、補足説明資料及び机上配布資料に示す。

リカバリー孔の掲載資料

地点	補足説明資料	机上配布資料	備考
大間平	OM5地点	OM1地点, OM2地点, OM4地点	連続性のあるイベント堆積物は認められないが、コメント回答として現地調査で指摘を受けたOM5地点を補足説明資料に示す。
奥戸	OK1地点	OK4地点, OK6地点, OK8地点, OK15地点, OK18地点	連続性のあるイベント堆積物が認められるOK1地点を補足説明資料に示す。

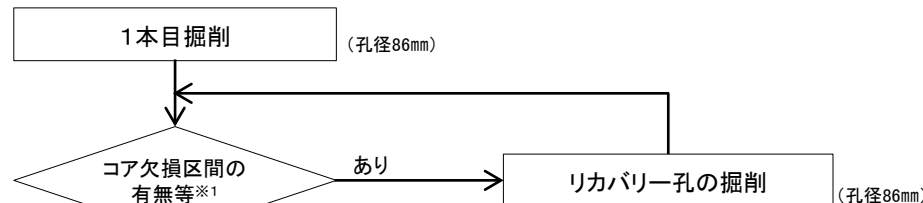


現地調査：リカバリー孔の掘削フロー及び重複区間の選定フロー

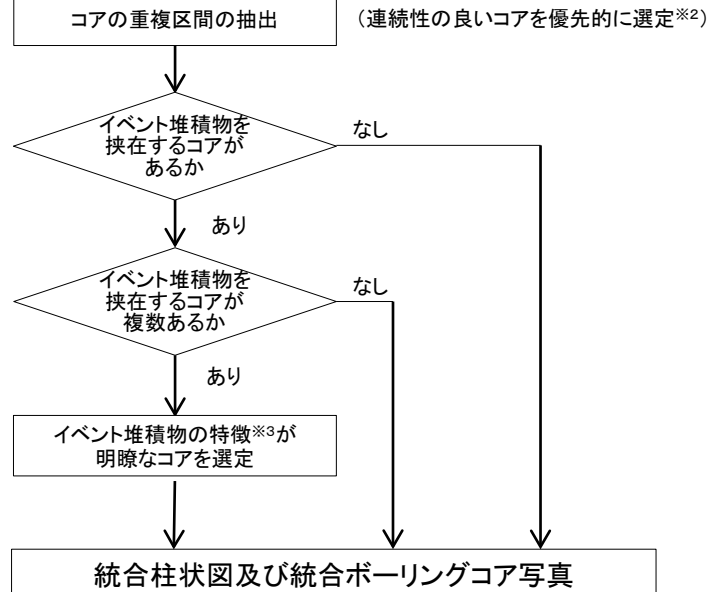
津波堆積物調査（ボーリング調査）の基本的な考え方

- リカバリー孔は、コア欠損区間が認められる場合や、イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層を十分確認できない場合に掘削した。
- コアの重複区間における選定は、イベント堆積物及びイベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮した。
- ボーリング孔の掘止めは、おおむね現海水準と同じ海水準であった時代の堆積物に達するか、基盤に達する場合とした。

（リカバリー孔の掘削フロー）



（重複区間の選定フロー）



※1 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層を見落とさないことに留意。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。

リカバリー孔の掘削及び統合柱状図等の作成は基本的に以下のとおり実施した。

- ✓ イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層を見落とさないことに留意して、コアに欠損区間が生じた場合に掘削し、欠損区間がなくなるまで掘削を繰り返す。
- ✓ コアの重複区間がある場合は、フローに示すとおり、イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮しつつ、連続性の良いコアを優先的に選定した上で、イベント堆積物の特徴が明瞭なコアを選定し、統合柱状図及び統合ボーリングコア写真を作成する。
- ✓ ここで、大間平地点及び奥戸地点においては、イベント堆積物を検討する場合には、平常時に静穏な環境で堆積したと考えられる腐植土層、シルト層等の細粒層中に挟む砂層や礫層等に注目する。

2-1. OM1地点(1／10): ボーリング調査位置



大間平地点の調査位置図

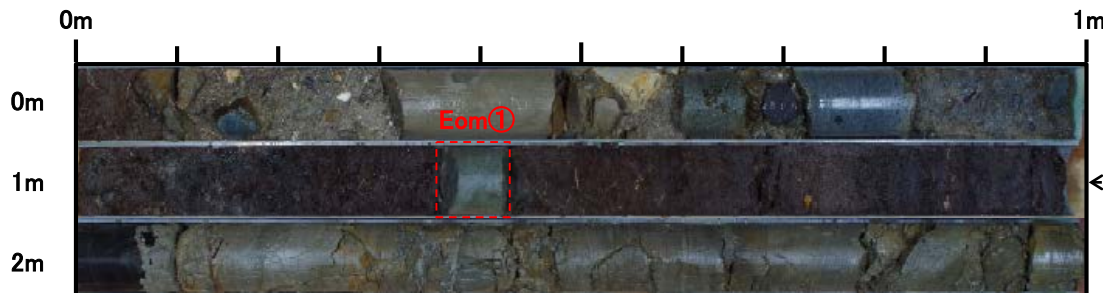
凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	後背湿地
ボーリング地点名及び位置	
● OM1	イベント堆積物が認められた地点
○ OM1	イベント堆積物が認められなかった地点
OM1	リカバリー孔を掘削したボーリング地点名

- OM1地点ではボーリング孔を5孔掘削した。
- OM1地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.4～P.12に示す。

コメントNo.S5-39

2-1. OM1地点(2/10): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

統合ボーリングコア写真

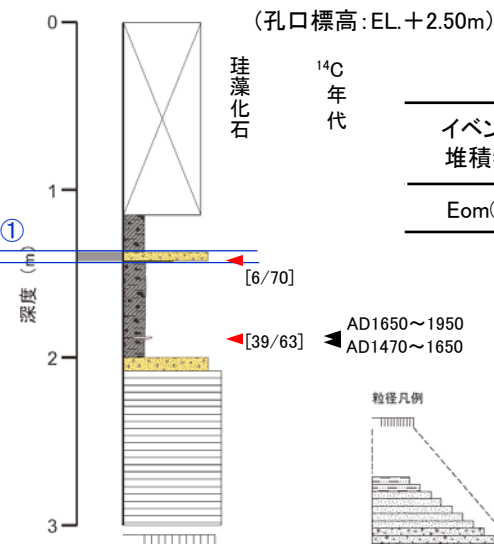


統合X線CTスキャン画像

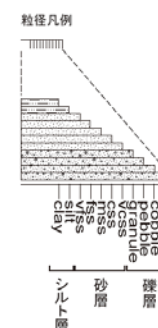
(イベント堆積物を含む区間)



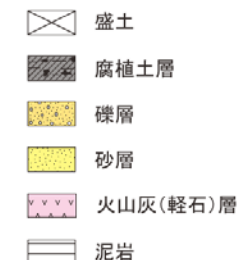
統合柱状図



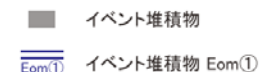
イベント堆積物	層厚(cm)	層相
Eom①	6	砂～礫層



柱状図 凡例



凡例



珪藻化石分析

微量の現世の海水～汽水生種を含むもの
[1/200] 現世の海水～汽水生種の個数/総個体数

放射性炭素年代測定 (14C年代測定)
(暦年代 2σ(±1σ))

測定結果例 AD820~920

- 主に、盛土、腐植土層、砂層及び礫層からなり、深度1.4m付近の細粒層(腐植土層)中に1層準のイベント堆積物(Eom①層)が認められる。
- イベント堆積物Eom①層は、細粒層(腐植土層)に挟在する礫層であり、下端部には砂粒子を伴う。礫層の下面境界は明瞭であり、下端部の砂粒子中に微量の現世の海水～汽水生種の珪藻化石を含む。
- ボーリング孔の掘止めは、基盤の泥岩に達するまでとした。

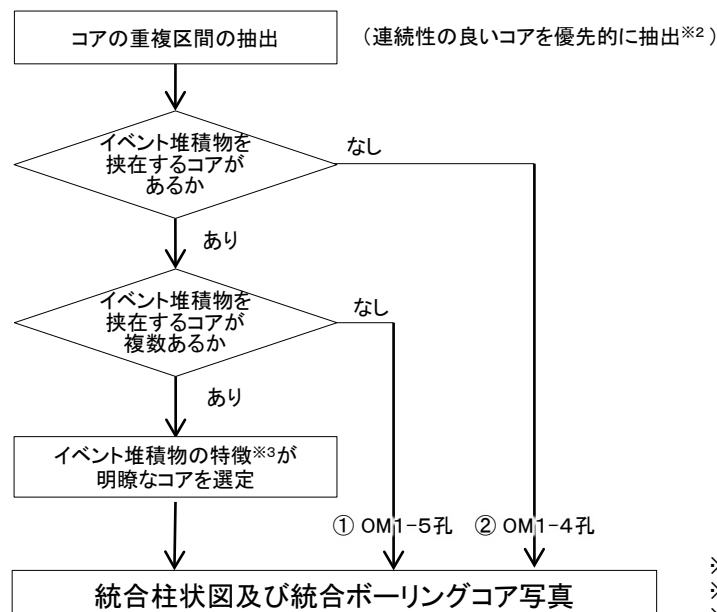


2-1. OM1地点(3／10): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考		
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名※ ¹	深度区間 (m)								
			0	1	2	3	4	5		6	
OM1	0 ~ 3	OM1-1								P.8を参照。	
		OM1-2								P.9を参照。	
		OM1-3								P.10を参照。	
		OM1-4									P.11を参照。
		OM1-5								P.12を参照。	

統合ボーリングコア選定区間
 重複区間
 イベント堆積物

重複区間の選定フロー



- OM1地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度0.00m～2.00mについては、唯一、イベント堆積物Eom①層を挟むOM1-5孔を選定した。
- 選定区間②の深度2.00m～3.00mについては、唯一、堆積層(礫層)が確認できるOM1-4孔を選定した。

※1 OM1地点の5孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。

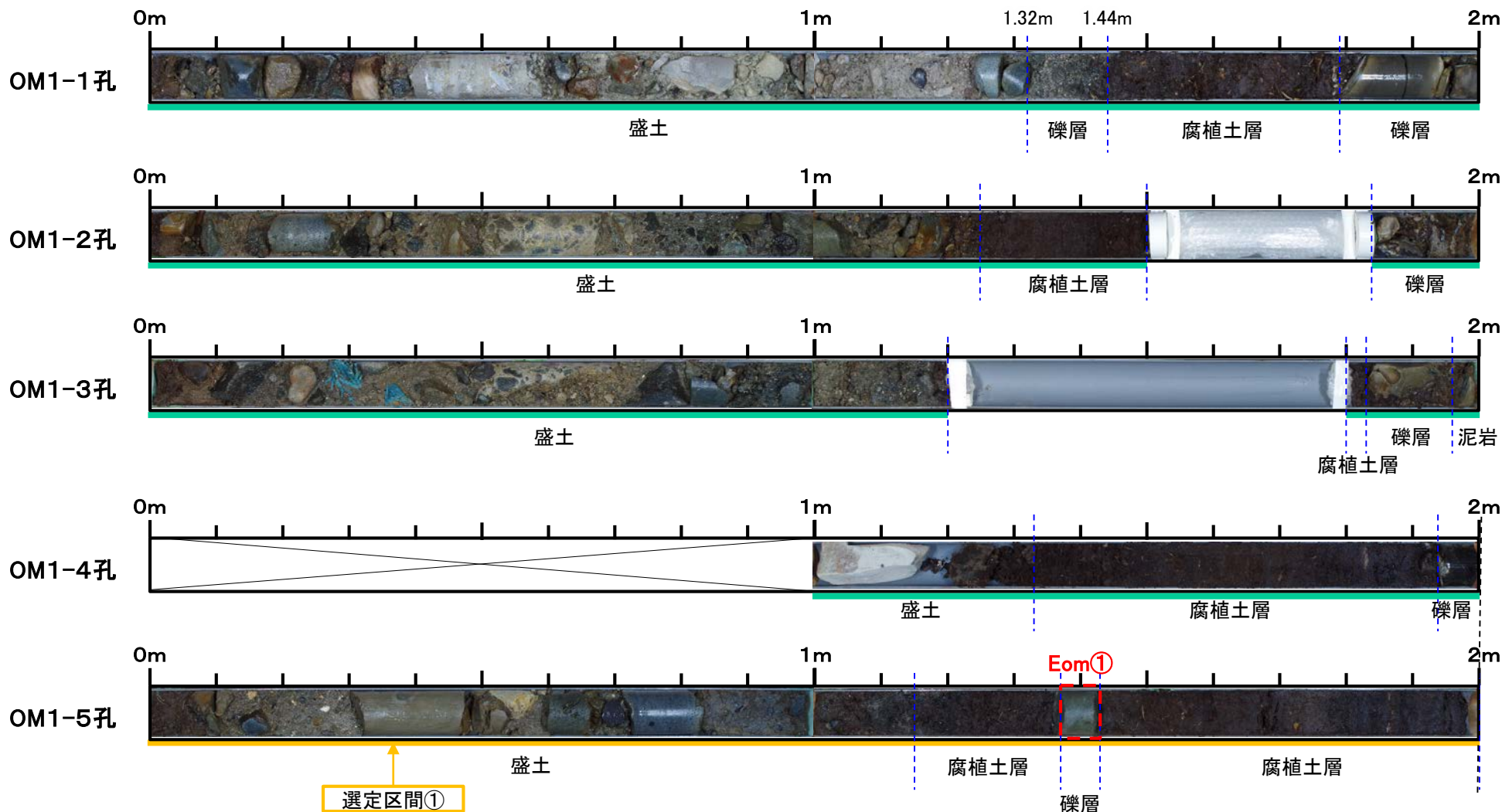
2. リカバリー孔について 大間平地点（4／28）

コメントNo.S5-39

6



2-1. OM1地点(4／10): OM1-1～OM1-5孔のボーリングコア対比写真(1／2): 深度0m～2m



統合ボーリングコア選定区間
重複区間

- 選定区間①の深度0.00m～2.00mについては、唯一、細粒層（腐植土層）中にイベント堆積物Eom①層の礫層を挟在するOM1-5孔を選定した。
- なお、OM1-1孔では、盛土の下位の深度1.32m～1.44mの礫層が、イベント堆積物か盛土かの判断が付かないため、リカバリー孔（OM1-2孔～OM1-5孔）を掘削した※1。

※1 盛土の下位の深度1.32m～1.44mの礫層は、OM1-5孔の同層準にイベント堆積物Eom①が認められるため、イベント堆積物の可能性がある。

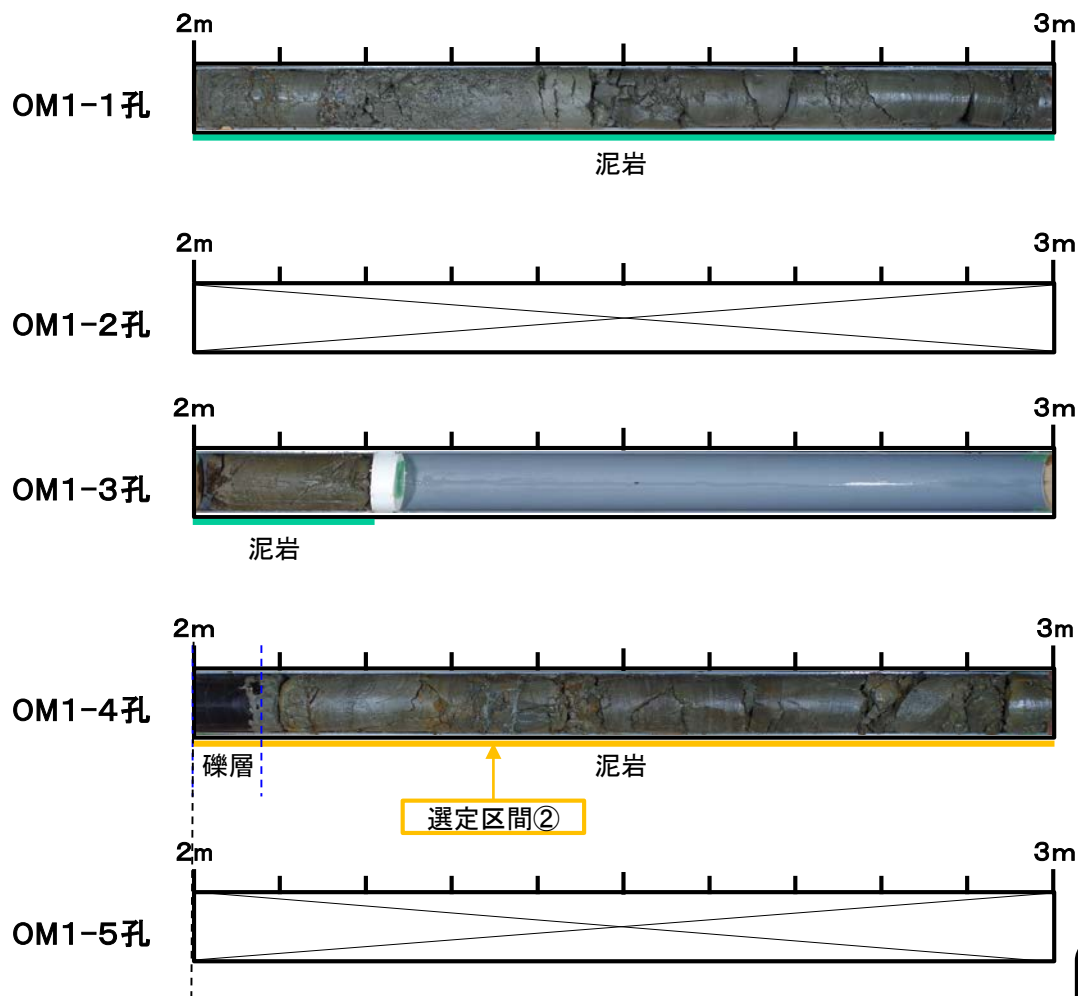
2. リカバリー孔について 大間平地点（5／28）

コメントNo.S5-39

7



2-1. OM1地点(5／10): OM1-1～OM1-5孔のボーリングコア対比写真(2／2): 深度2m～3m



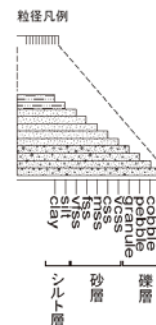
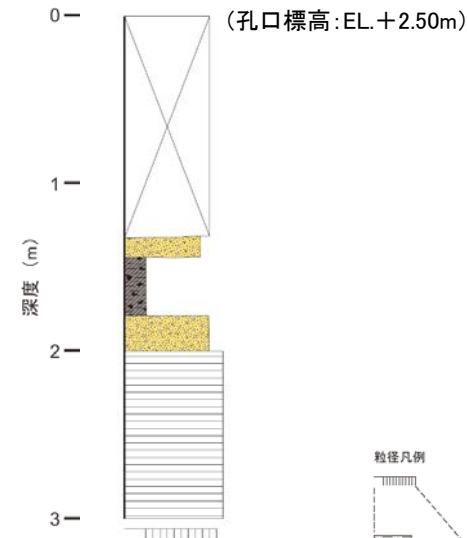
• 深度2.00m～3.00mの選定区間②については、唯一、堆積層(礫層)を確認できるOM1-4孔を選定した。

統合ボーリングコア選定区間
重複区間

2-1. OM1地点(6／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OM1-1孔)

柱状図

ボーリングコア写真



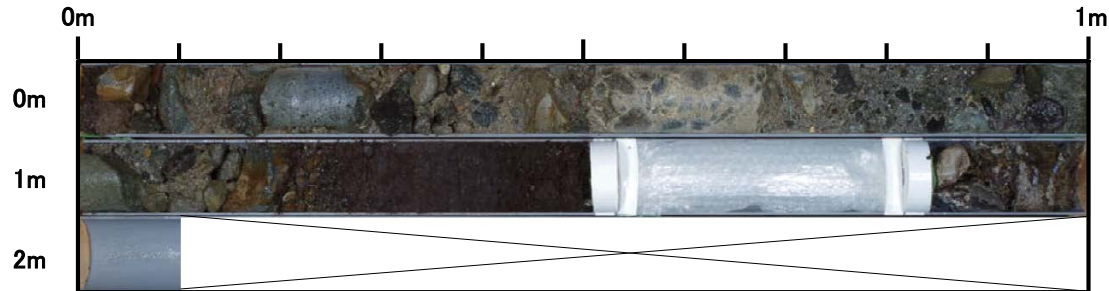
柱状図 凡例

- 盛土
- 腐植土層
- 礫層
- 泥岩

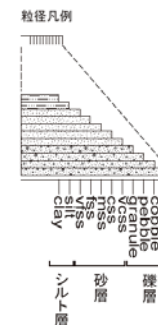
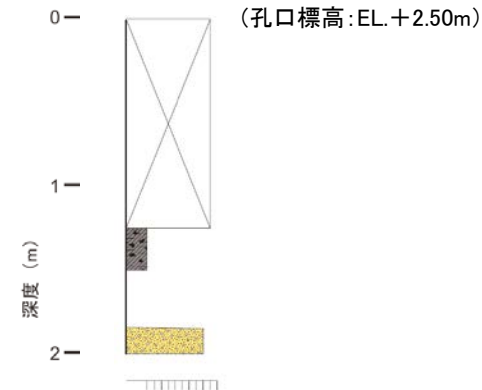
- OM1-1孔では、深度1.44m～1.79mに細粒層（腐植土層）を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

2-1. OM1地点(7／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OM1-2孔)

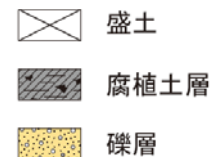
ボーリングコア写真



柱状図



柱状図 凡例



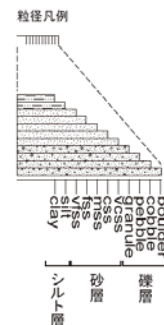
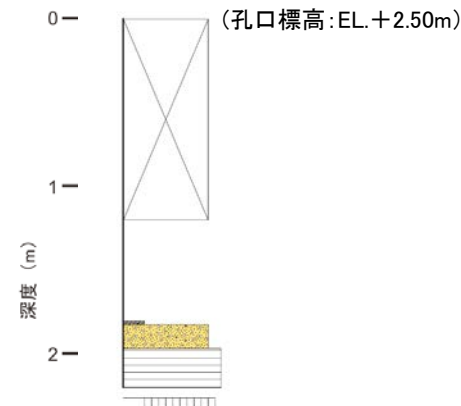
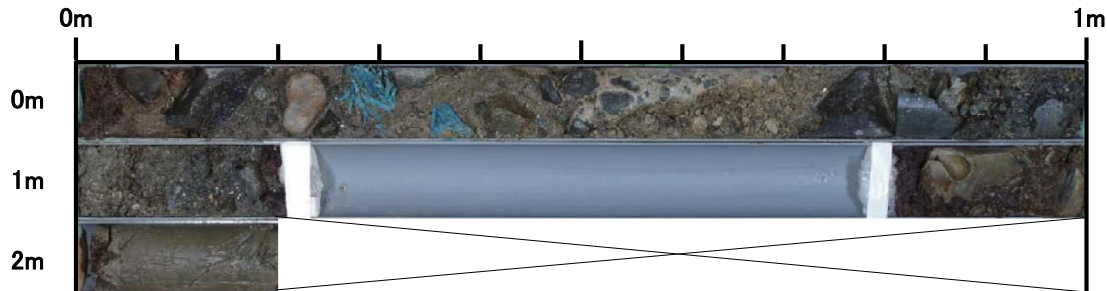
- OM1-2孔※1では、深度1.25m～1.50mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OM1-2孔は、OM1-1孔の盛土の下位の礫層がイベント堆積物か盛土かの判断が付かないため掘削した。

2-1. OM1地点(8／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OM1-3孔)

柱状図

ボーリングコア写真



柱状図 凡例

- 盛土
- 腐植土層
- 礫層
- 泥岩

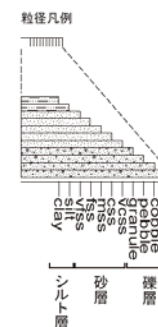
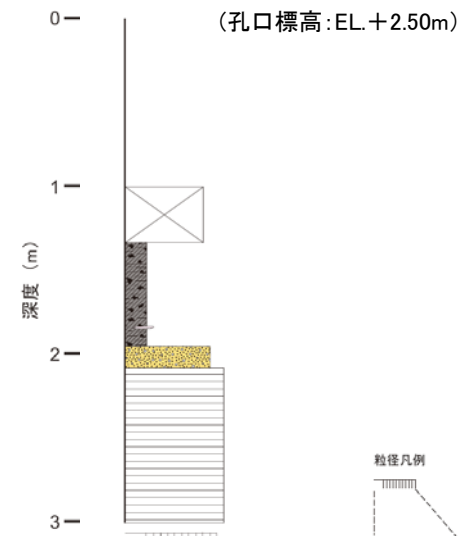
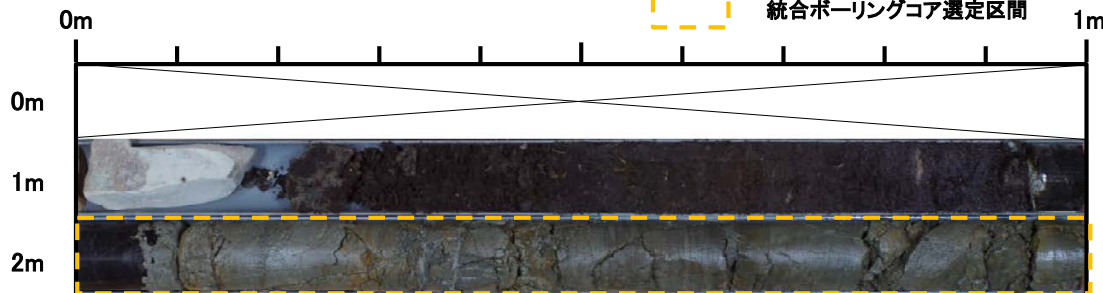
- OM1-3孔※1では, コア欠損のため, 他のボーリング孔で認められる細粒層(腐植土層)が認められない。

※1 OM1-3孔は, OM1-2孔で細粒層(腐植土層)のコアの連続性が悪いいため掘削した。

2-1. OM1地点(9／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OM1-4孔)

柱状図

ボーリングコア写真



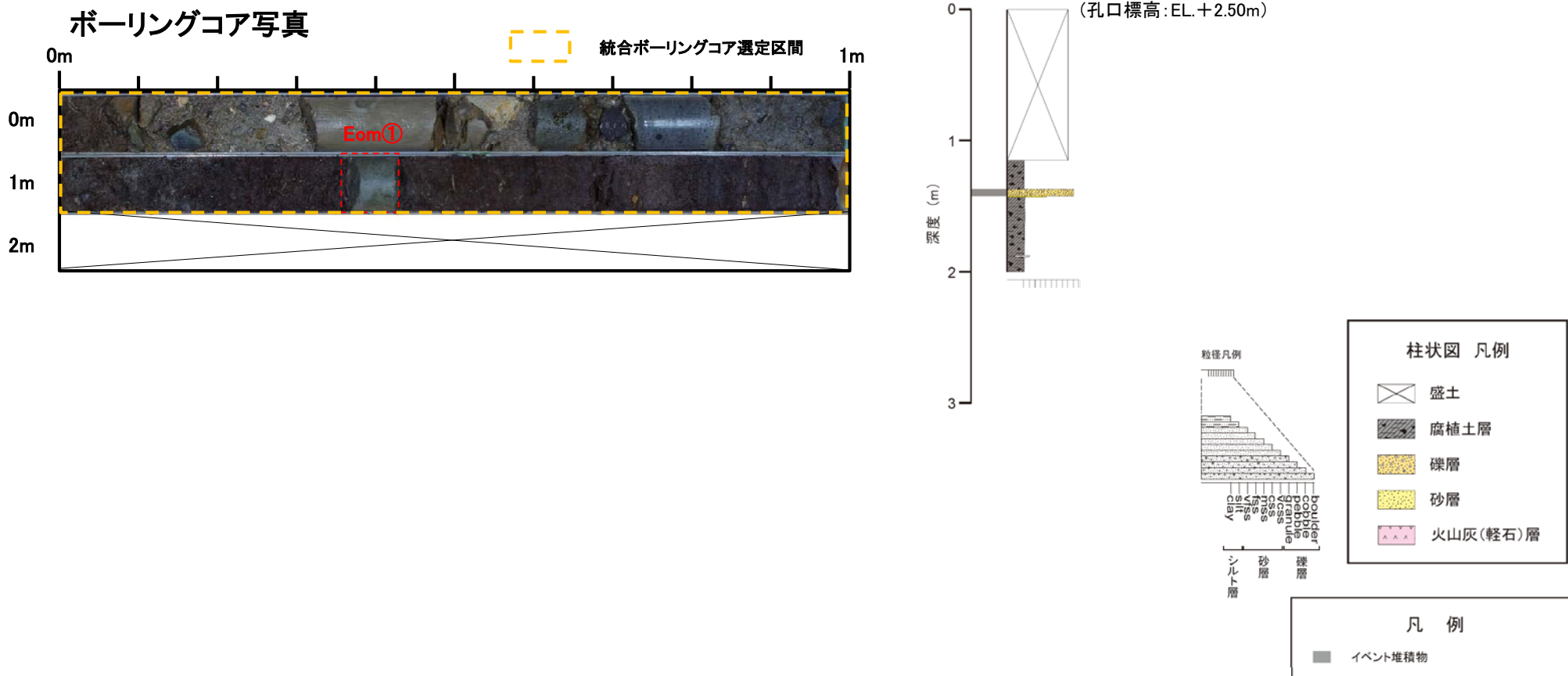
柱状図 凡例



- OM1-4孔※1では、深度1.33m～1.94mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OM1-4孔は、OM1-2孔及びOM1-3孔で細粒層(腐植土層)のコアの連続性が悪いため掘削した。

2-1. OM1地点(10／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OM1-5孔) 柱状図



- OM1-5孔※1では、深度1.15m～2.00mに細粒層(腐植土層)の一部が確認され、イベント堆積物の礫層が認められる。

※1 OM1-5孔は、OM1-4孔の細粒層(腐植土層)の上端付近のコアの連続性が悪いため掘削した。

2-2. OM2地点(1/7): ボーリング調査位置



凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	後背湿地
ボーリング地点名及び位置	
● OM1	イベント堆積物が認められた地点
○ OM1	イベント堆積物が認められなかった地点
OM1	リカバリー孔を掘削したボーリング地点名

- OM2地点ではボーリング孔を2孔掘削した。
- OM2地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.14～P.19に示す。

大間平地点の調査位置図

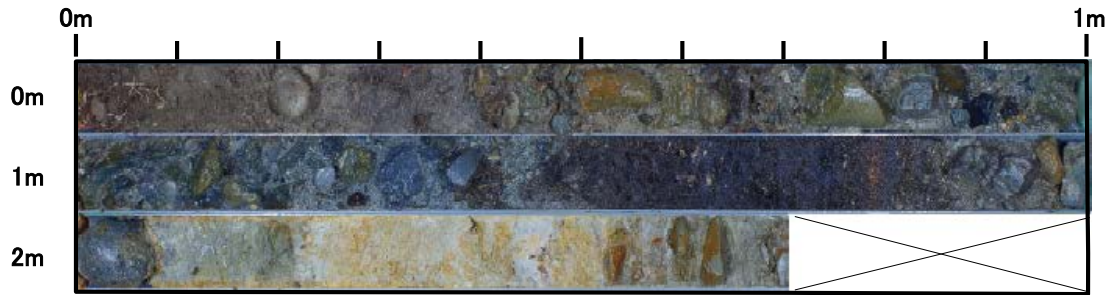
2. リカバリー孔について 大間平地点（12／28）



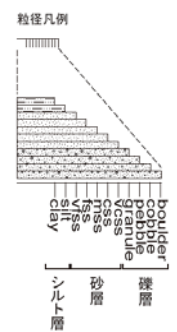
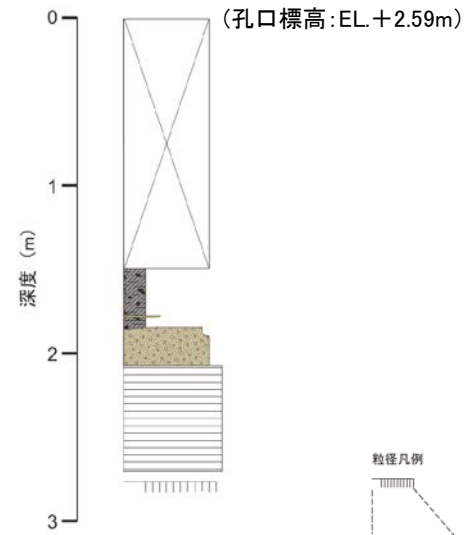
2-2. OM2地点(2／7): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

コメントNo.S5-39

統合ボーリングコア写真



統合柱状図



柱状図 凡例	
	盛土
	腐植土層
	有機質礫層
	砂層
	泥岩

- 主に、盛土、腐植土層及び有機質礫層が認められ、イベント堆積物は認められない。
- ボーリング孔の掘止めは、基盤の泥岩に達するまでとした。

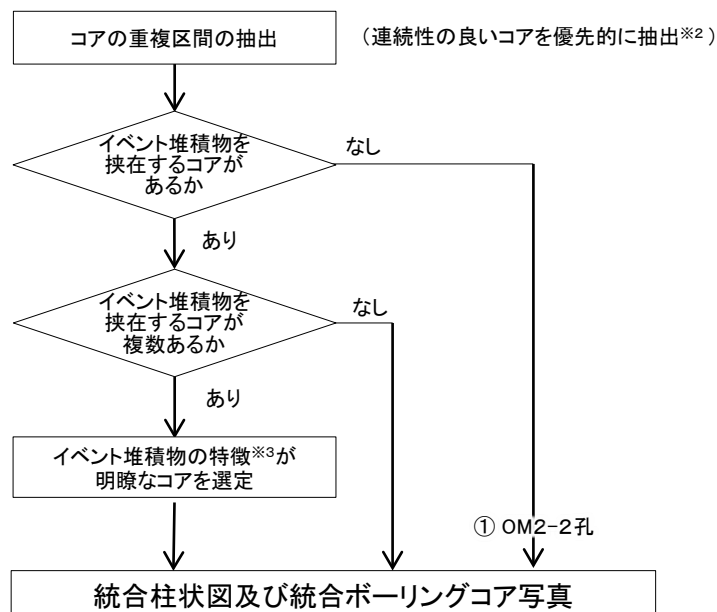


2-2. OM2地点(3／7): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番号名 ^{※1}	深度区間 (m)							
			0	1	2	3	4	5		6
OM2	0 ~ 2.7	OM2-1	■		■					P.18を参照。
		OM2-2	■①							P.19を参照。

統合ボーリングコア選定区間
 重複区間

重複区間の選定フロー



- OM2地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度0.00m～2.70mについては、細粒層(腐植土層)が欠損なく採取されているOM2-2孔を選定した。

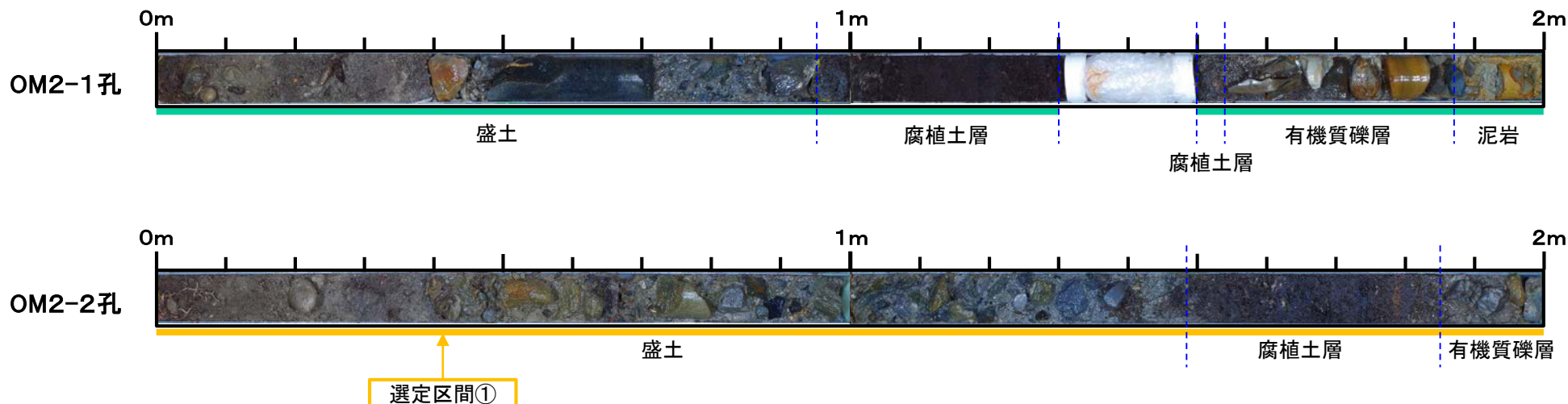
※1 OM2地点の2孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。



2-2. OM2地点(4／7): OM2-1～OM2-2孔のボーリングコア対比写真(1／2): 深度0m～2m

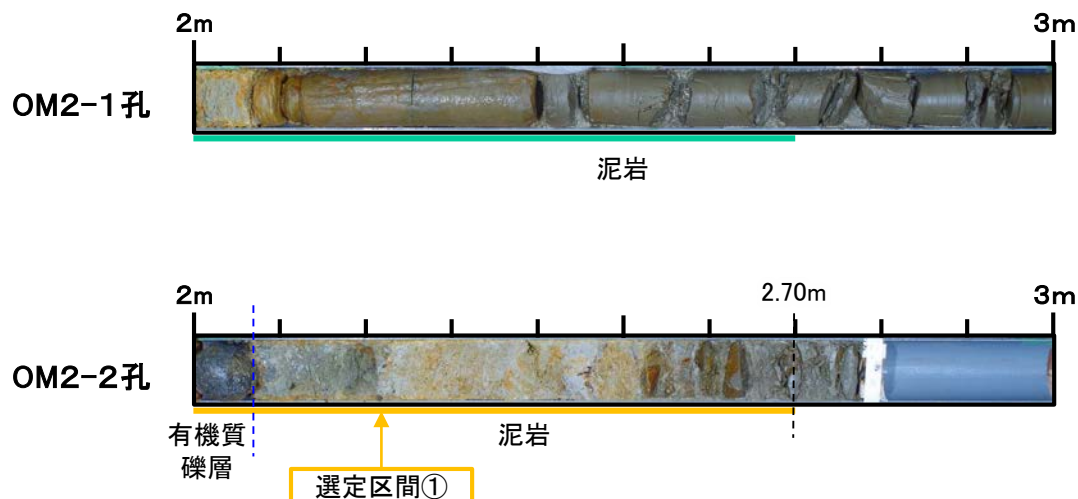


— 統合ボーリングコア選定区間
— 重複区間

• 選定区間①の深度0.00m～2.00mについては、細粒層(腐植土層)を欠損なく挟在するOM2-2孔を選定した。



2-2. OM2地点(5／7): OM2-1～OM2-2孔のボーリングコア対比写真(2／2): 深度2m～3m

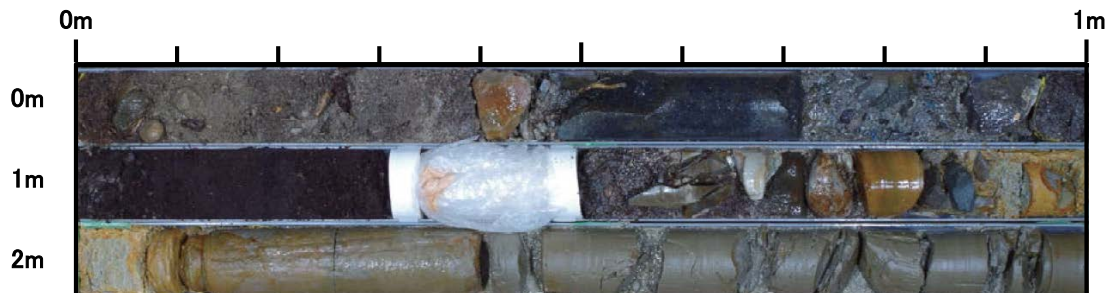


統合ボーリングコア選定区間
重複区間

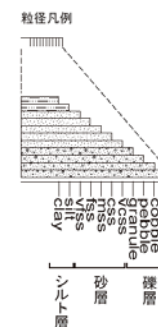
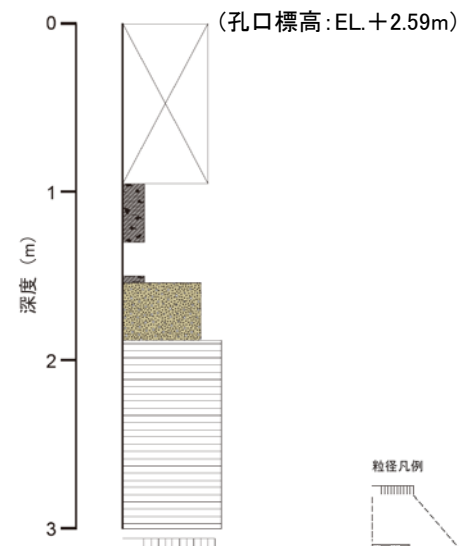
• 選定区間①の深度2.00m～2.70mについては、細粒層(腐植土層)を欠損なく挟在するOM2-2孔を選定した。

2-2. OM2地点(6／7): 柱状図及びボーリングコア写真(OM2-1孔)

ボーリングコア写真



柱状図



柱状図 凡例

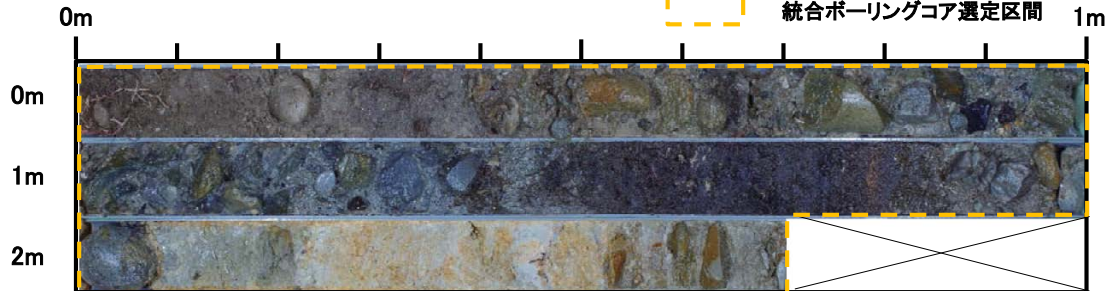
-  盛土
-  腐植土層
-  有機質礫層
-  泥岩

- OM2-1孔では、深度0.95m～1.30mに細粒層（腐植土層）の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

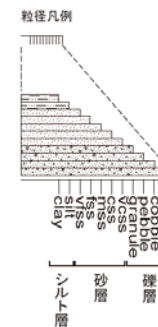
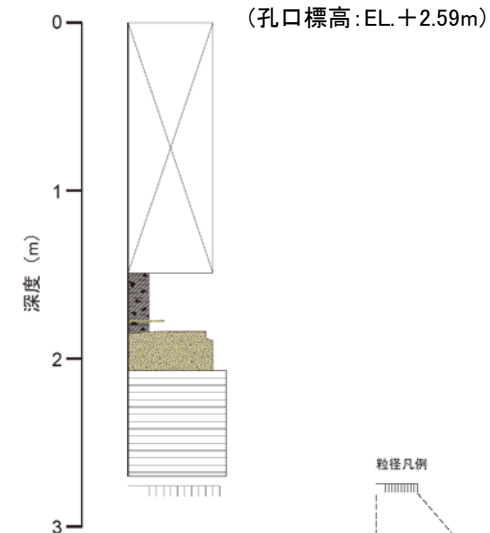


2-2. OM2地点(7／7): 柱状図及びボーリングコア写真(OM2-2孔)

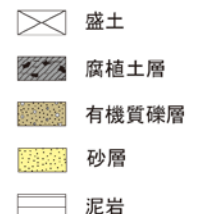
ボーリングコア写真



柱状図



柱状図 凡例



- OM2-2※1孔では、深度1.49m～1.85mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OM2-2孔は、OM2-1孔のコア欠損区間(深度1.30m～1.50m)のコアを採取するため掘削した。

2-3. OM4地点(1／11): ボーリング調査位置



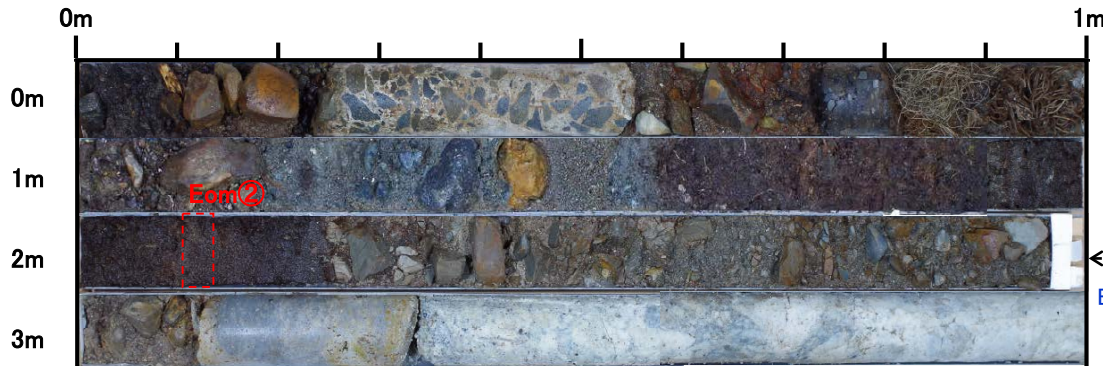
大間平地点の調査位置図

凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	後背湿地
ボーリング地点名及び位置	
● OM1	イベント堆積物が認められた地点
○ OM1	イベント堆積物が認められなかった地点
OM1	リカバリー孔を掘削したボーリング地点名

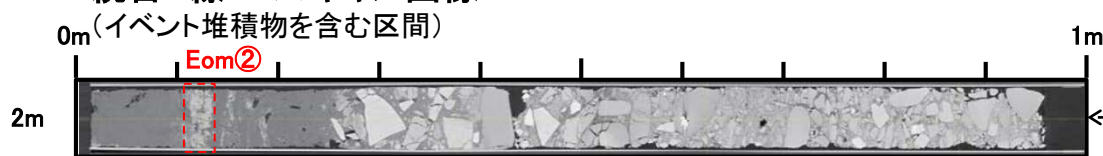
- OM4地点ではボーリング孔を6孔掘削した。
- OM4地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.21～P.30に示す。

2-3. OM4地点(2/11): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

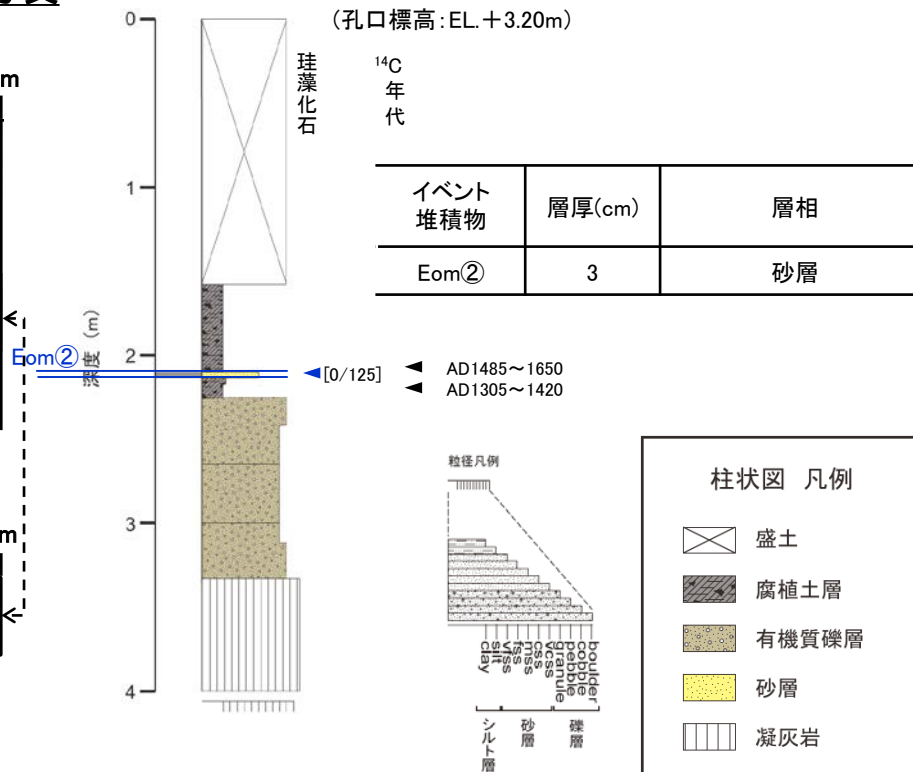
統合ボーリングコア写真



統合X線CTスキャン画像



統合柱状図



- 主に、盛土、腐植土層及び有機質礫層からなり、深度2.1m付近の細粒層（腐植土層）中に1層準のイベント堆積物(Eom②層)が認められる。
- イベント堆積物Eom②は、細粒層（腐植土層）に挟在する砂層であり、下面境界は不明瞭である。現世の海水～汽水生種の珪藻化石を含まない。
- ボーリング孔の掘止めは、基盤の凝灰岩に達するまでとした。

凡例

- イベント堆積物
- Eom② イベント堆積物(連続性のないもの)

珪藻化石分析

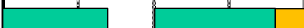
- 現世の海水～汽水生種を含まないもの
- [1/200] 現世の海水～汽水生種の個数/総個体数

放射性炭素年代測定 (^{14}C 年代測定)
(暦年代 $2\sigma(\pm 1\sigma)$)

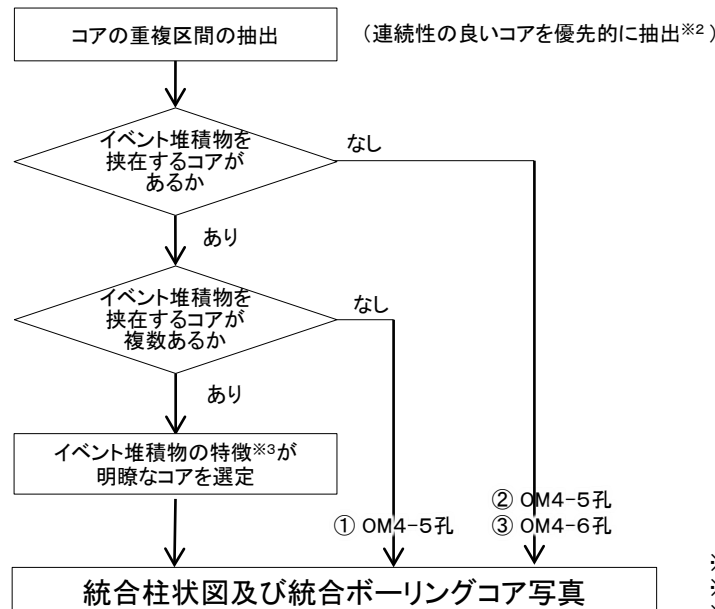
- 測定結果例 AD820~920



2-3. OM4地点(3／11): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア								備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名※1	深度区間 (m)								
			0	1	2	3	4	5	6		
OM4	0 ~ 4	OM4-1									P.25を参照。
		OM4-2									P.26を参照。
		OM4-3									P.27を参照。
		OM4-4									P.28を参照。
		OM4-5									P.29を参照。
		OM4-6									P.30を参照。

重複区間の選定フロー



- 統合ボーリングコア選定区間
- 重複区間
- イベント堆積物

- OM4地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度1.90m～3.60mについては、唯一、イベント堆積物Eom②を挟むOM4-5孔を選定した。
- 選定区間②の深度0.00m～1.00mについては、いずれも盛土のため、選定区間①と同じOM4-5孔を優先して選定した。
- 選定区間③の深度1.00m～1.90mについては、細粒層(腐植土層)が連続して確認できるOM4-6孔を選定した。

※1 OM4地点の6孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。
 ※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。
 ※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。

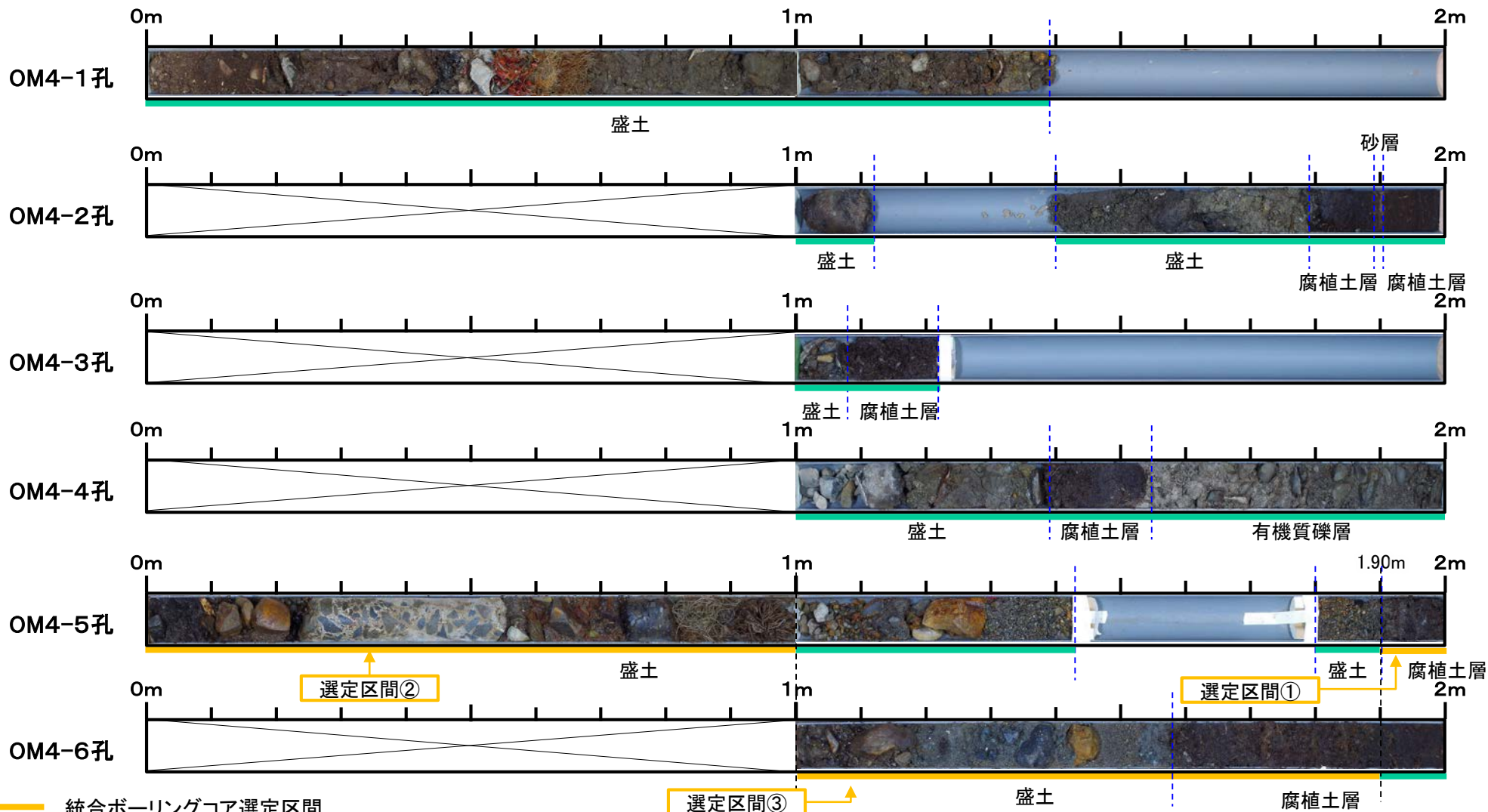
2. リカバリー孔について 大間平地点（21／28）

コメントNo.S5-39

23



2-3. OM4地点(4／11): OM4-1～OM4-6孔のボーリングコア対比写真(1／2): 深度0m～2m



統合ボーリングコア選定区間

重複区間

※1 深度約1.9mの細粒層(腐植土層)中の砂層は、OM4-6孔の同層準の細粒層(腐植土層)中にイベント堆積物が認められないため、イベント堆積物ではないと判断した。

- ・選定区間②の深度0.00m～1.00mについては、いずれも盛土のため、選定区間①と同じOM4-5孔を優先して選定した。
- ・選定区間③の深度1.00m～1.90mについては、細粒層(腐植土層)が連続して確認できるOM4-6孔を選定した。
- ・なお、OM4-2孔では、深度約1.9mの細粒層(腐植土層)中の砂層がイベント堆積物か否かの判断が付かないため、リカバリー孔(OM4-3～OM4-6孔)を掘削した※1。

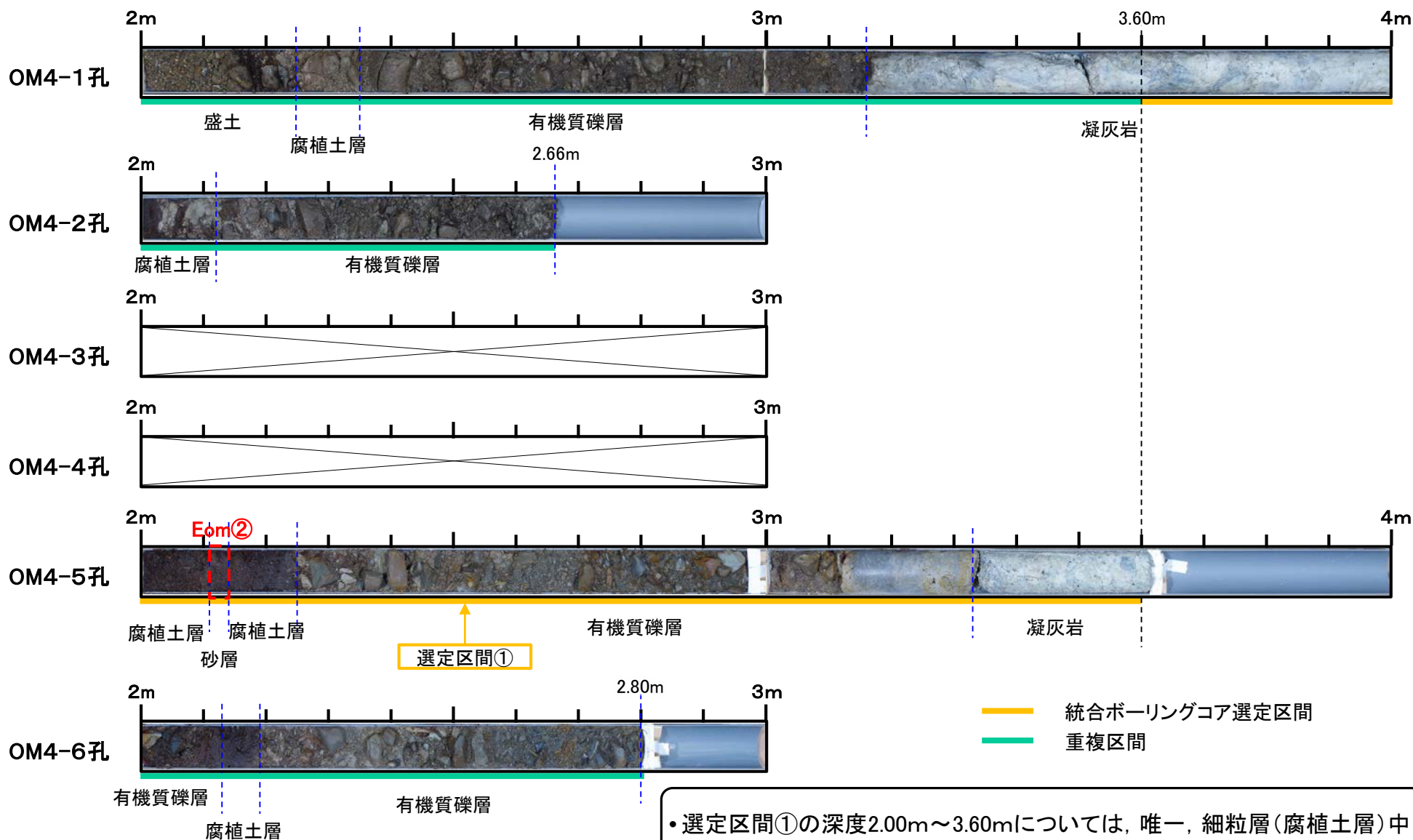
2. リカバリー孔について 大間平地点（22／28）

コメントNo.S5-39

24



2-3. OM4地点(5／11): OM4-1～OM4-6孔のボーリングコア対比写真(2／2): 深度2m～4m

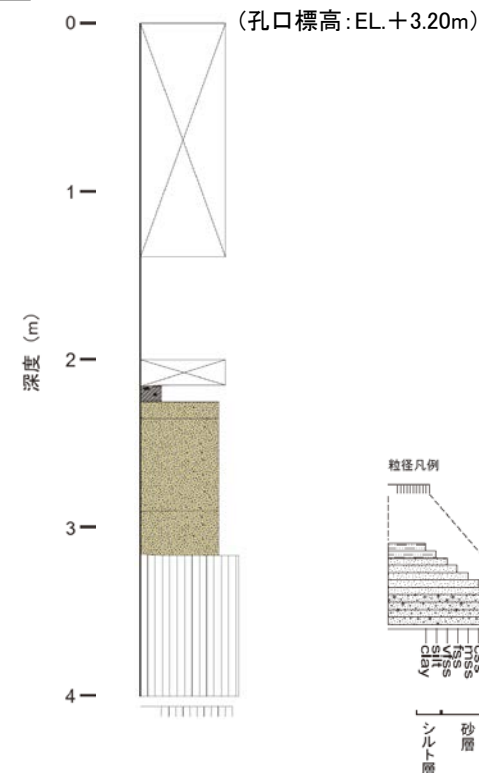
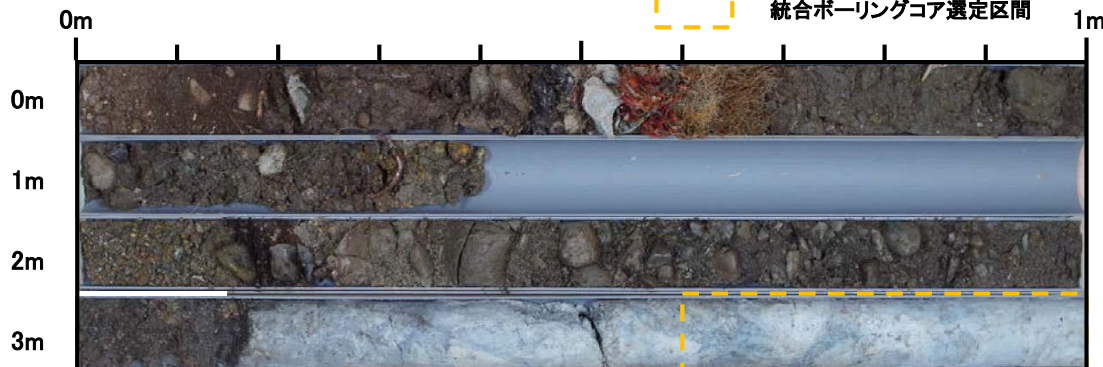


・選定区間①の深度2.00m～3.60mについては、唯一、細粒層（腐植土層）中にイベント堆積物Eom②の砂層を挟在するOM4-5孔を選定した。

2-3. OM4地点(6／11): 柱状図及びボーリングコア写真(OM4-1孔)

柱状図

ボーリングコア写真



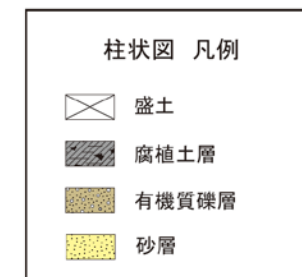
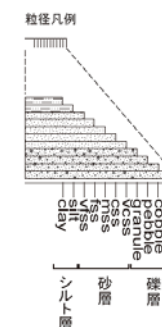
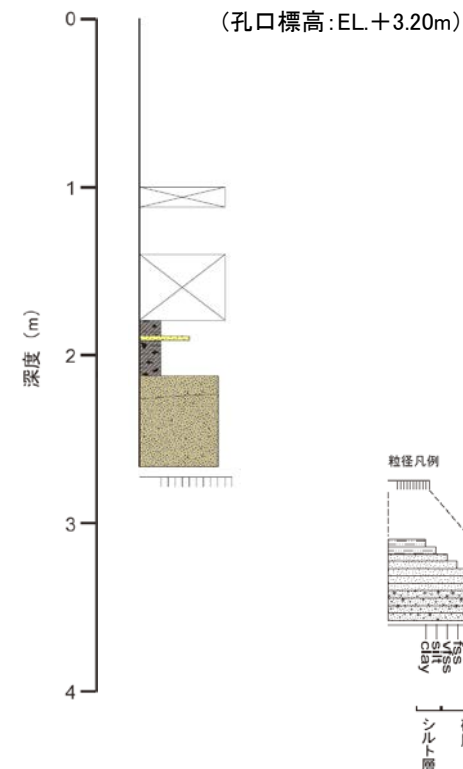
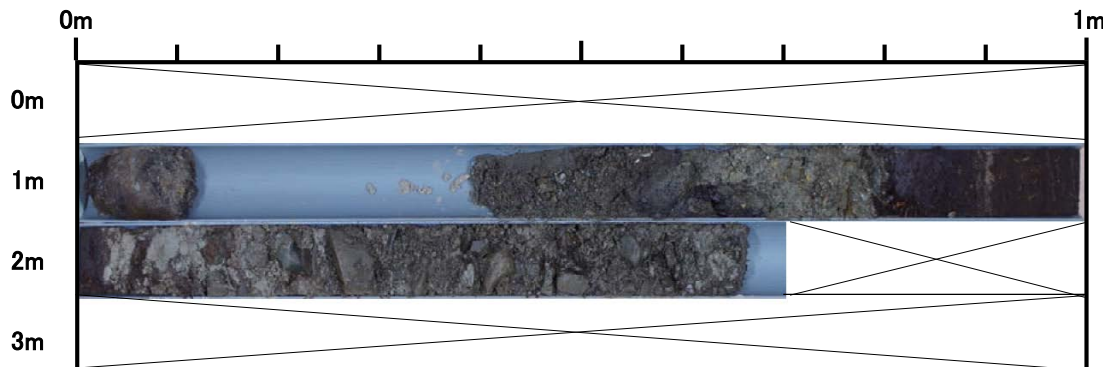
柱状図 凡例

- 盛土
- 腐植土層
- 有機質礫層
- 凝灰岩

• OM4-1孔では、深度2.15m～2.25mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

2-3. OM4地点(7／11): 柱状図及びボーリングコア写真(OM4-2孔) 柱状図

ボーリングコア写真

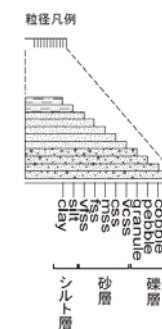
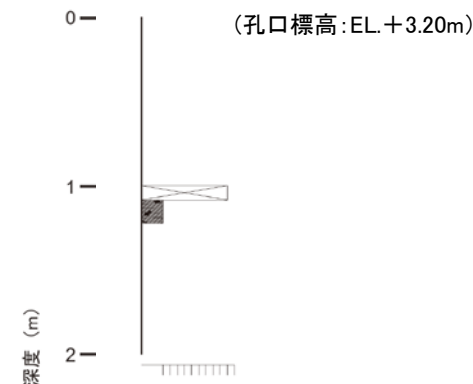
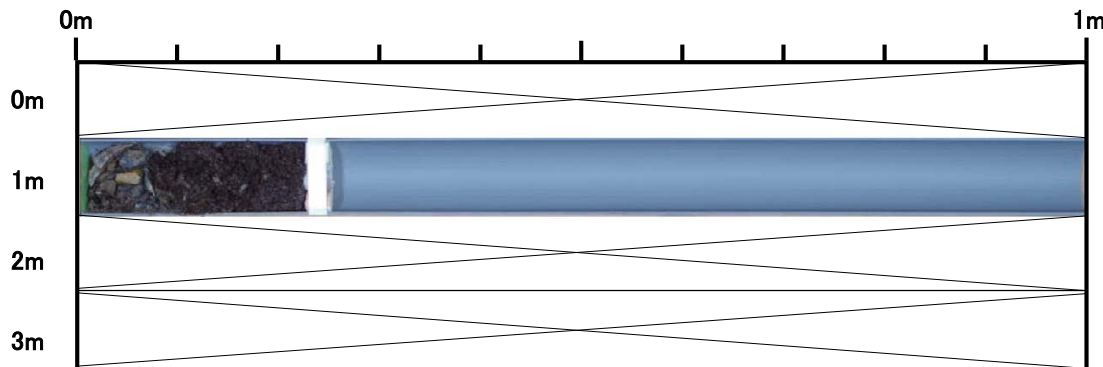


- OM4-2孔※1では、深度1.79m～2.12mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OM4-2孔は、OM4-1孔の欠損区間(深度1.39m～2.15m)のコアを採取するため掘削した。

2-3. OM4地点(8／11): 柱状図及びボーリングコア写真(OM4-3孔) 柱状図

ボーリングコア写真



柱状図 凡例



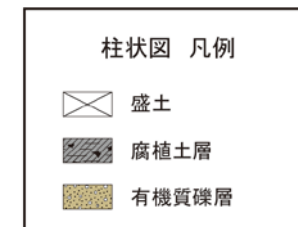
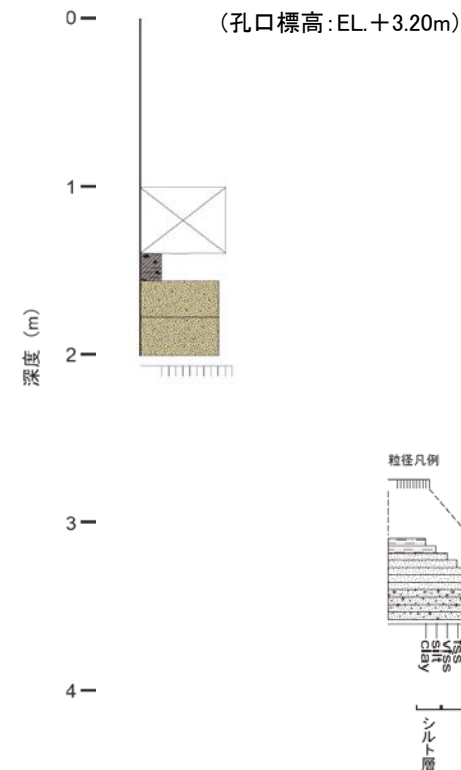
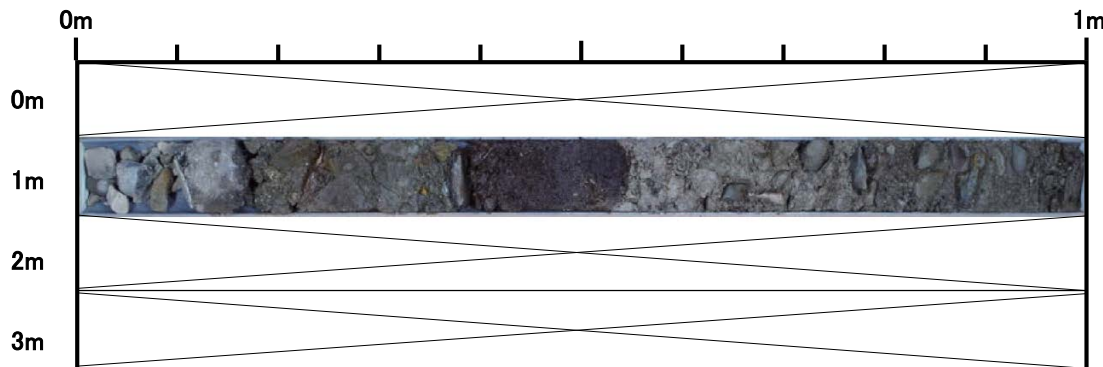
- OM4-3孔※1では、深度1.08m～1.22mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OM4-3孔は、OM4-2孔の深度約1.9mの細粒層(腐植土層)中の砂層と同層準の細粒層(腐植土層)のコアを採取するため掘削した。

2-3. OM4地点(9／11): 柱状図及びボーリングコア写真(OM4-4孔)

柱状図

ボーリングコア写真

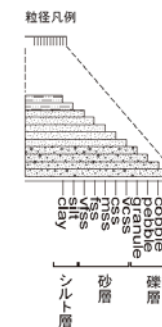
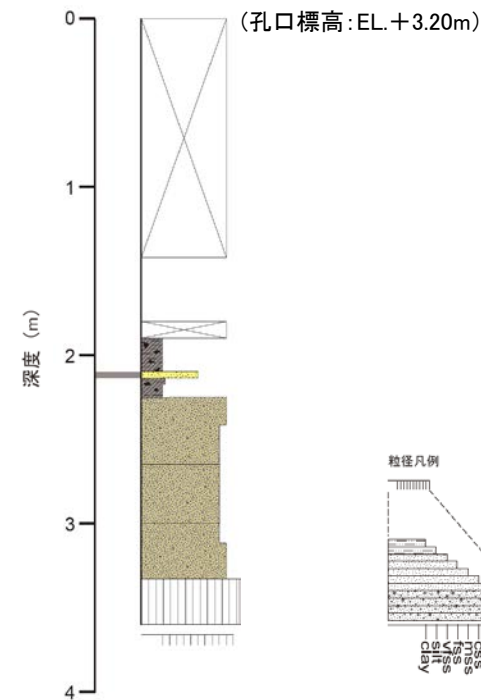
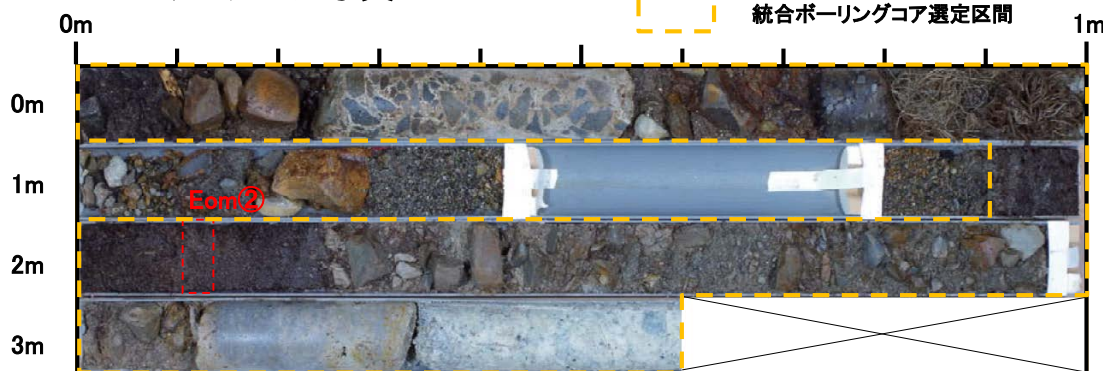


- OM4-4孔※1では、深度1.39m～1.55mに細粒層(腐植土層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

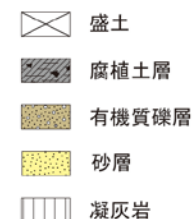
※1 OM4-4孔は、OM4-2孔の深度約1.9mの細粒層(腐植土層)中の砂層と同層準の細粒層(腐植土層)のコアを採取するため掘削した。

2-3. OM4地点(10／11): 柱状図及びボーリングコア写真(OM4-5孔) 柱状図

ボーリングコア写真



柱状図 凡例



凡 例

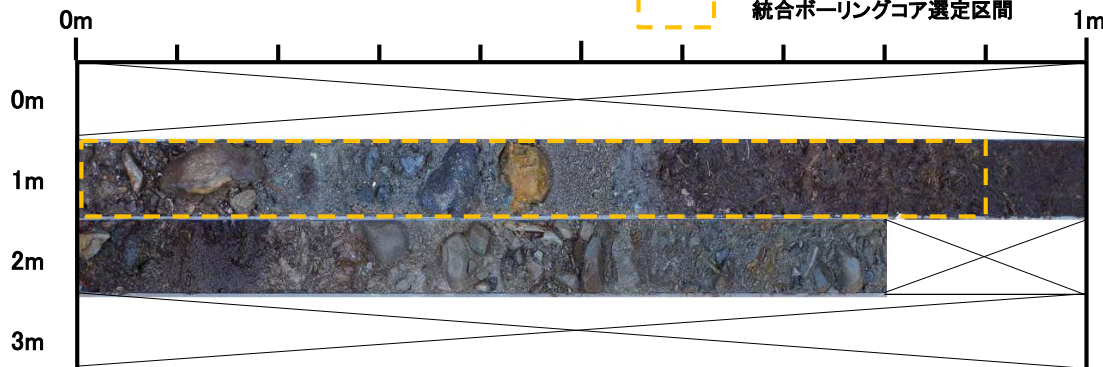


- OM4-5孔※1では、深度1.90m～2.25mに細粒層(腐植土層)の一部が確認され、イベント堆積物の砂層が認められる。

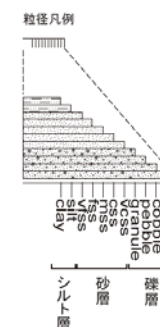
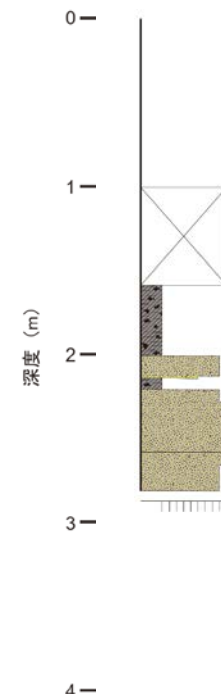
※1 OM4-5孔は、OM4-2孔の深度約1.9mの細粒層(腐植土層)中の砂層と同層準の細粒層(腐植土層)のコアを採取するため掘削した。

2-3. OM4地点(11／11): 柱状図及びボーリングコア写真(OM4-6孔) 柱状図

ボーリングコア写真



(孔口標高: EL.+3.20m)



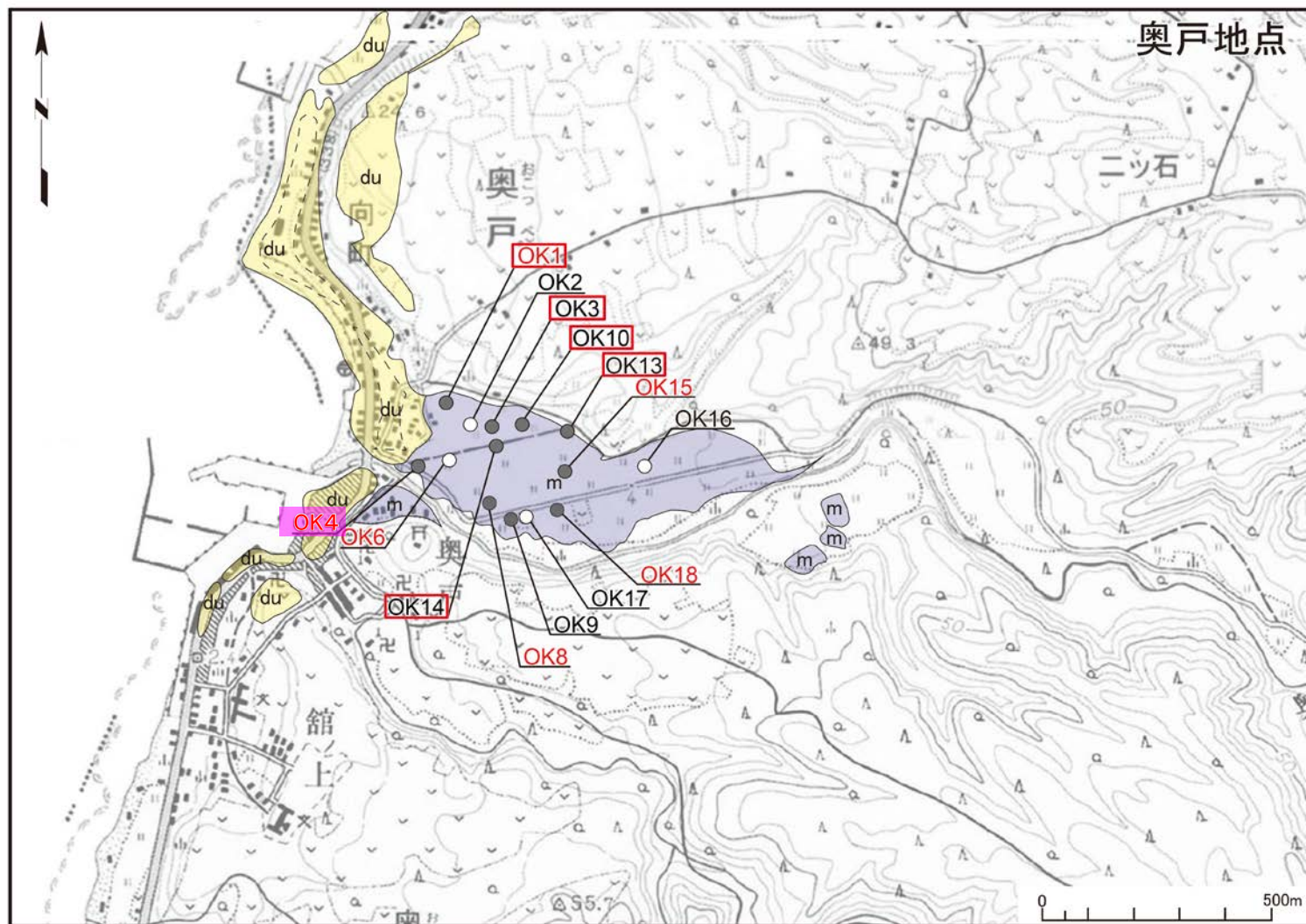
柱状図 凡例

- 盛土
- 腐植土層
- 有機質礫層
- 砂層

- OM4-6孔※¹では、深度1.58m～2.00m, 2.13m～2.19mに細粒層（腐植土層）の一部が確認されるが、イベント堆積物は認められない。

※¹ OM4-6孔は、OM4-5孔の細粒層（腐植土層）の上端付近の連続性が悪いいため掘削した。

3-1. OK4地点(1／10): ボーリング調査位置



奥戸地点の調査位置図

凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	谷底低地 後背湿地、氾濫原
ボーリング地点名及び位置	
● OK1	連続性のある イベント堆積物が 認められた地点
● OK1	イベント堆積物が 認められた地点
○ OK1	イベント堆積物が 認められなかった地点
OK1	リカバリー孔を掘削した ボーリング地点名

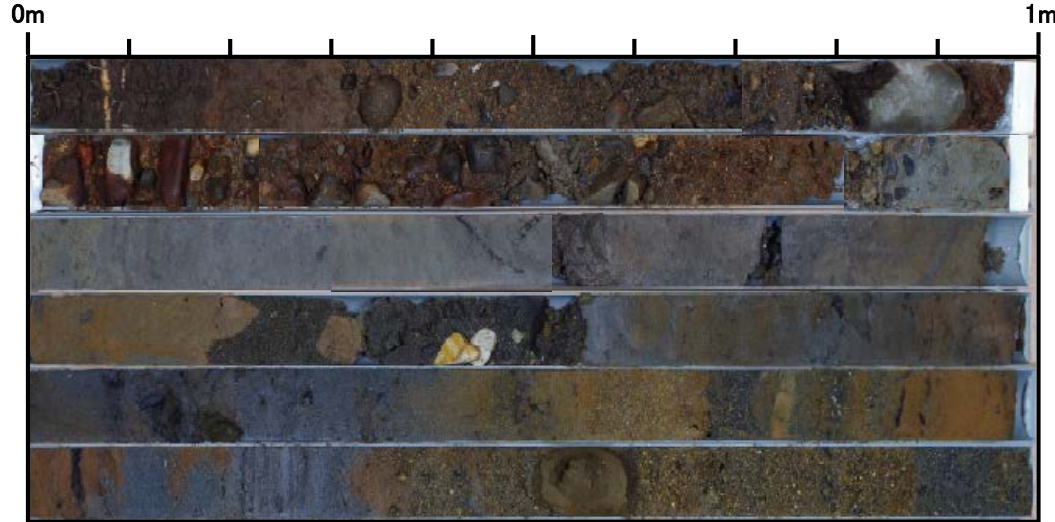
- OK4地点ではボーリング孔を4孔掘削した。
- OK4地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.32～P.40に示す。



コメントNo.S5-39

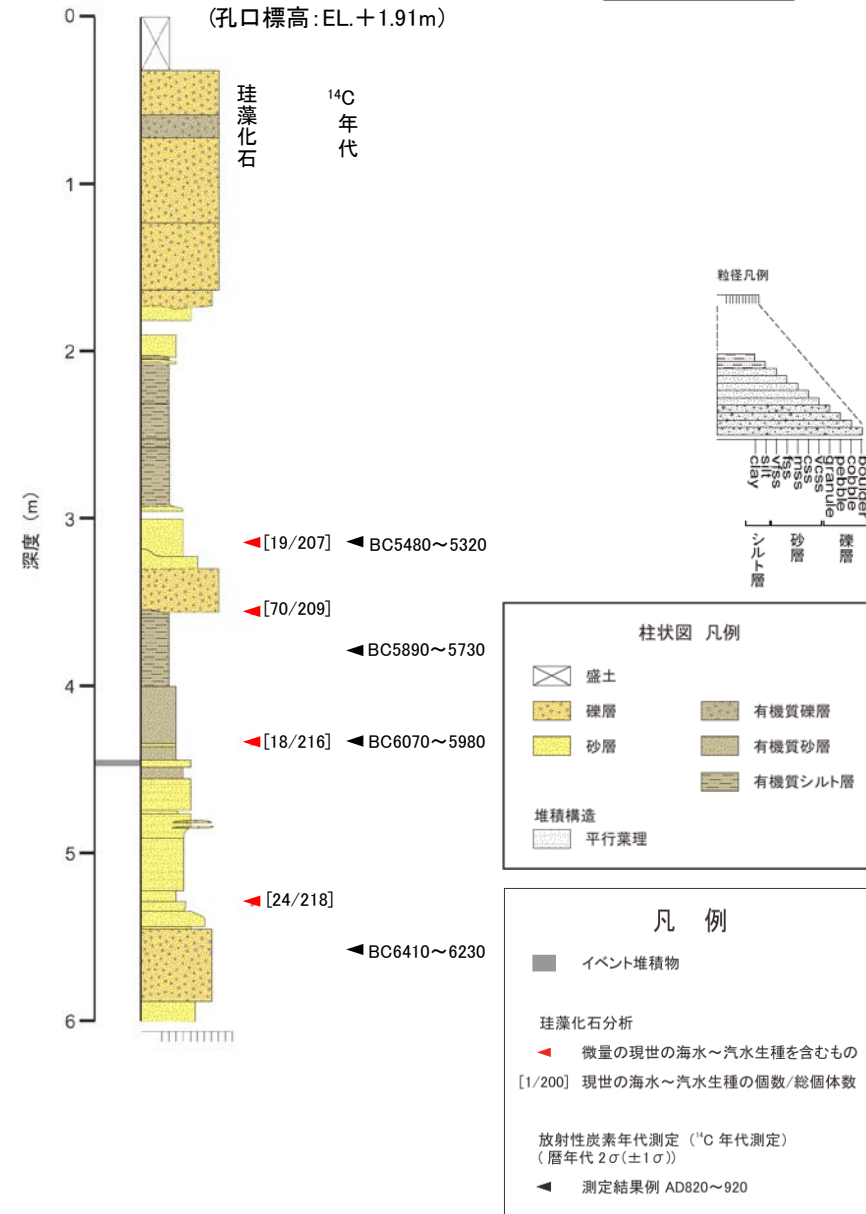
3-1. OK4地点(2/10): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

統合ボーリングコア写真



- 主に礫層、砂層及び有機質シルト層からなり、深度4.5m付近の細粒層（細粒な有機質砂層）中に1層準のイベント堆積物が認められる。
- なお、本イベント堆積物は本孔のみで認められ、付近への連続性は認められない。
- ボーリング孔の掘止めは、おおむね現海水準と同じ海水準であった時代の堆積物が分布すると想定される深度6mとした。

統合柱状図

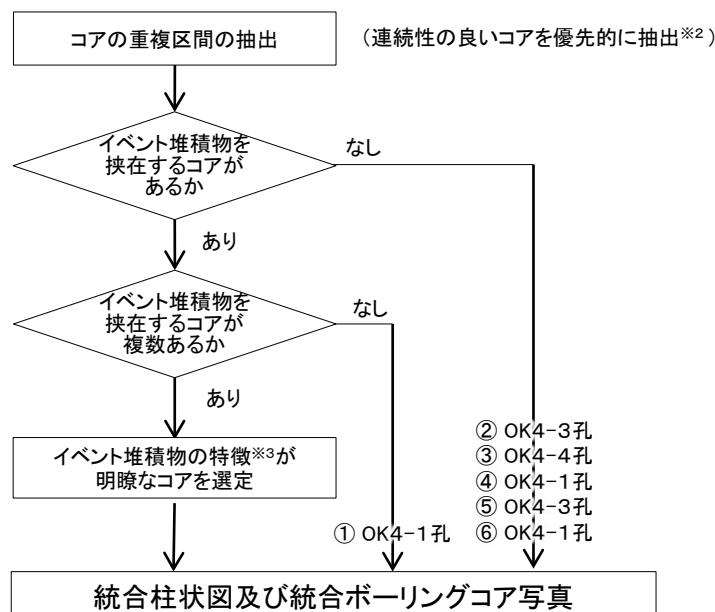




3-1. OK4地点(3／10): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名 ^{※1}	深度区間 (m)							
			0	1	2	3	4	5		6
OK4	0 ~ 6	OK4-1	⑥		④			①		P.37を参照。
		OK4-2								P.38を参照。
		OK4-3		⑤		②				P.39を参照。
		OK4-4				③				P.40を参照。

重複区間の選定フロー



- 統合ボーリングコア選定区間
- 重複区間
- イベント堆積物

- OK4地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度2.52m～6.00mについては、唯一、イベント堆積物を挟むOK4-1孔を選定した。
- 選定区間②の深度2.31m～2.52mについては、細粒層(有機質シルト層)を挟むOK4-3孔を選定した。
- 選定区間③の深度1.81m～2.31mについては、唯一、細粒層(有機質シルト層)を挟むOK4-4孔を選定した。
- 選定区間④の深度1.23m～1.81mについては、他孔とほぼ同じ堆積物の構成からなるため、選定区間①と同じOK4-1孔を選定した。
- 選定区間⑤の深度0.72m～1.23mについては、他孔と同じ堆積層(礫層)からなるが、コアの連続性が良いOK4-3孔を選定した。
- 選定区間⑥の深度0.00m～0.72mについては、他孔とほぼ同じ堆積物の構成からなるため、選定区間①と同じOK4-1孔を選定した。

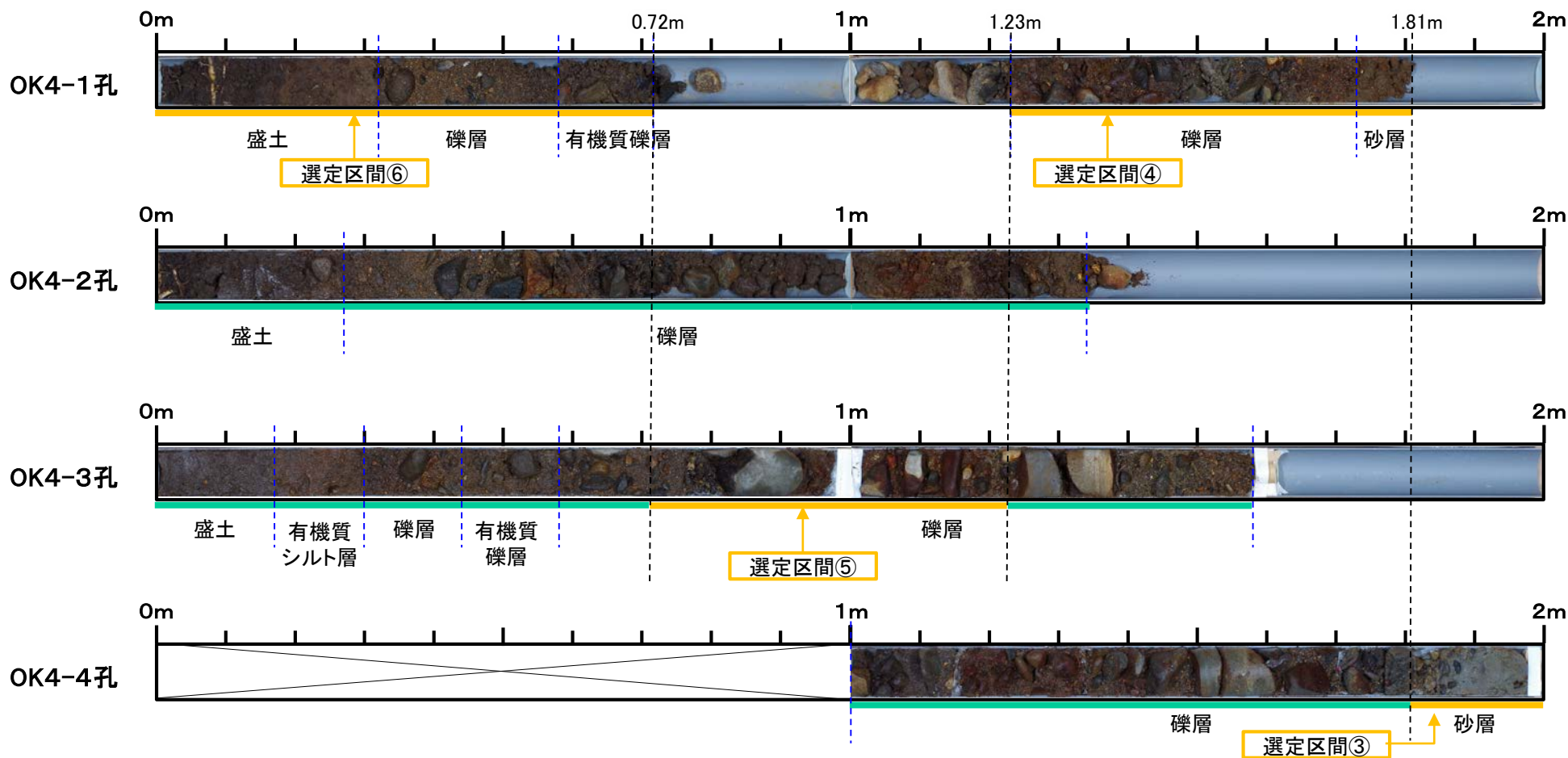
※1 OK4地点の4孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。



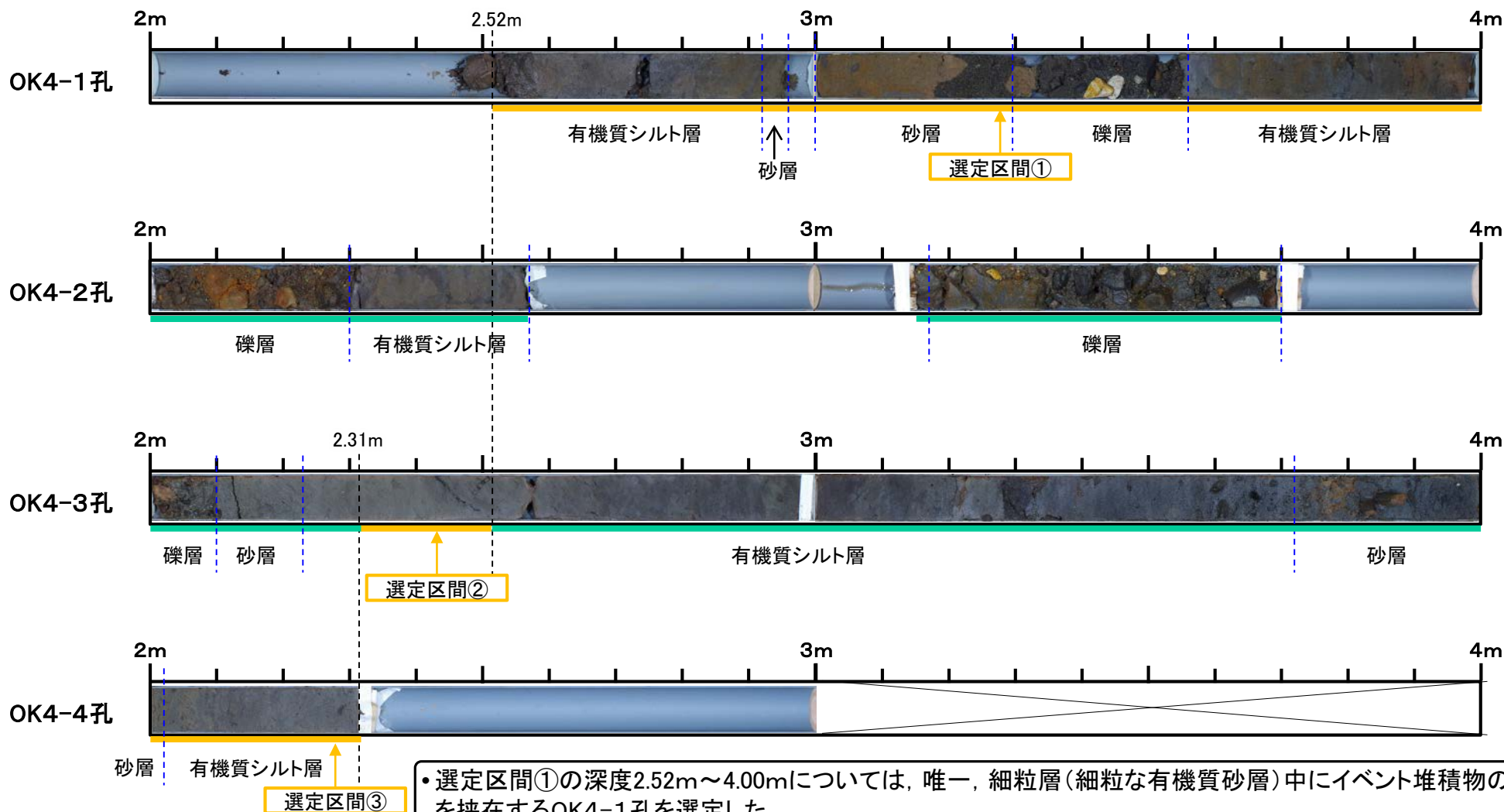
3-1. OK4地点(4／10): OK4-1～OK4-4孔のボーリングコア対比写真(1／3): 深度0m～2m



- 選定区間⑥の深度0.00m～0.72mについては、礫層、有機質礫層等、他孔とほぼ同じ堆積物の構成からなるため、選定区間①と同じOK4-1孔を選定した。
- 選定区間⑤の深度0.72m～1.23mについては、他孔と同じ礫層からなるが、コアの連続性が良いOK4-3孔を選定した。
- 選定区間④の深度1.23m～1.81mについては、礫層等、他孔とほぼ同じ堆積物の構成からなるため、選定区間①と同じOK4-1孔を選定した。
- 選定区間③の深度1.81m～2.00mについては、唯一、細粒層(有機質シルト層)を挟在するOK4-4孔を選定した。



3-1. OK4地点(5/10): OK4-1～OK4-4孔のボーリングコア対比写真(2/3): 深度2m～4m

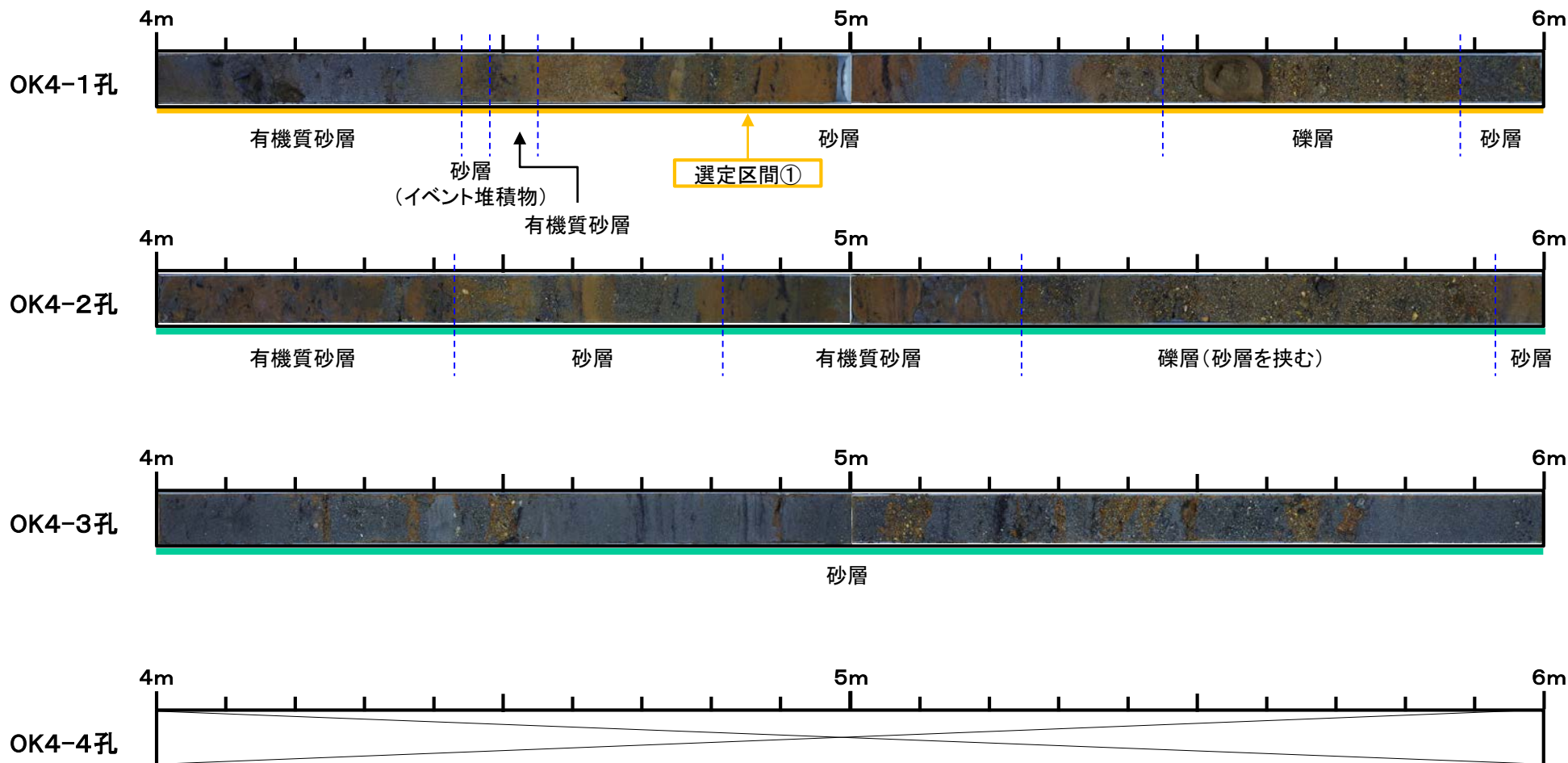


- ・選定区間①の深度2.52m～4.00mについては、唯一、細粒層(細粒な有機質砂層)中にイベント堆積物の砂層を挟在するOK4-1孔を選定した。
- ・選定区間②の深度2.31m～2.52mについては、細粒層(有機質シルト層)を挟在するOK4-3孔を選定した。
- ・選定区間③の深度2.00m～2.31mについては、唯一、細粒層(有機質シルト層)を挟在するOK4-4孔を選定した。

統合ボーリングコア選定区間
重複区間



3-1. OK4地点(6／10): OK4-1～OK4-4孔のボーリングコア対比写真(3／3): 深度4m～6m



統合ボーリングコア選定区間
重複区間

・選定区間①の深度4.00m～6.00mについては、唯一、細粒層(細粒な有機質砂層)中にイベント堆積物の砂層を挟在するOK4-1孔を選定した。

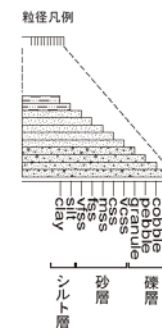
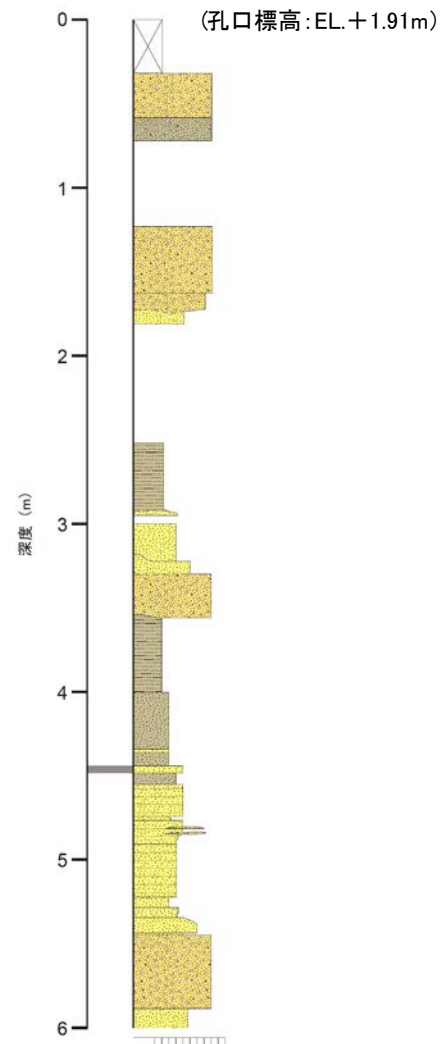
3-1. OK4地点(7／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OK4-1孔)

ボーリングコア写真



- OK4-1孔では、深度2.52m～2.93m, 3.56m～4.55mに細粒層(有機質シルト層及び細粒な有機質砂層)が確認され、このうち下部の細粒層中にイベント堆積物の砂層が認められる。

柱状図



柱状図 凡例

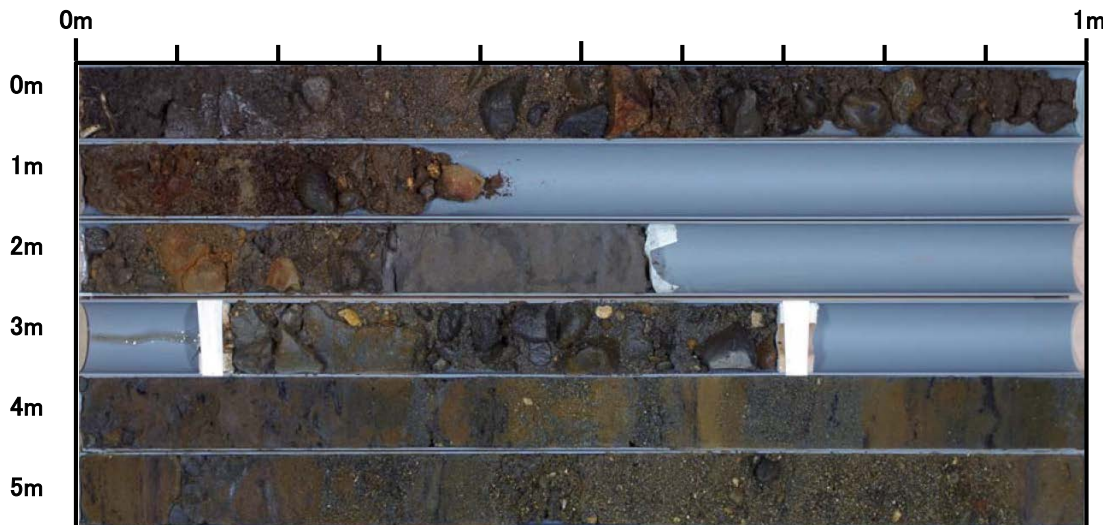
- 盛土
- 礫層
- 砂層
- 有機質礫層
- 有機質砂層
- 有機質シルト層
- 堆積構造
- 平行葉理

凡 例

- イベント堆積物

3-1. OK4地点(8／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OK4-2孔)

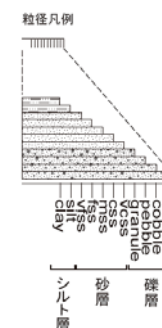
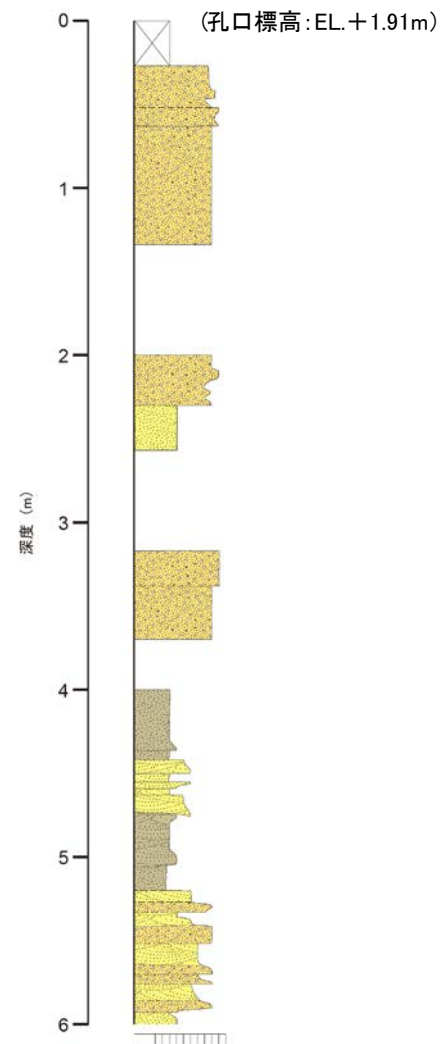
ボーリングコア写真



- OK4-2孔※1では、深度4.00m～5.24mに細粒層（細粒な有機質砂層）の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OK4-2孔は、OK4-1孔のコア欠損区間（深度0.72m～1.23m, 1.81m～2.52m）のコアを採取するため掘削した。

柱状図

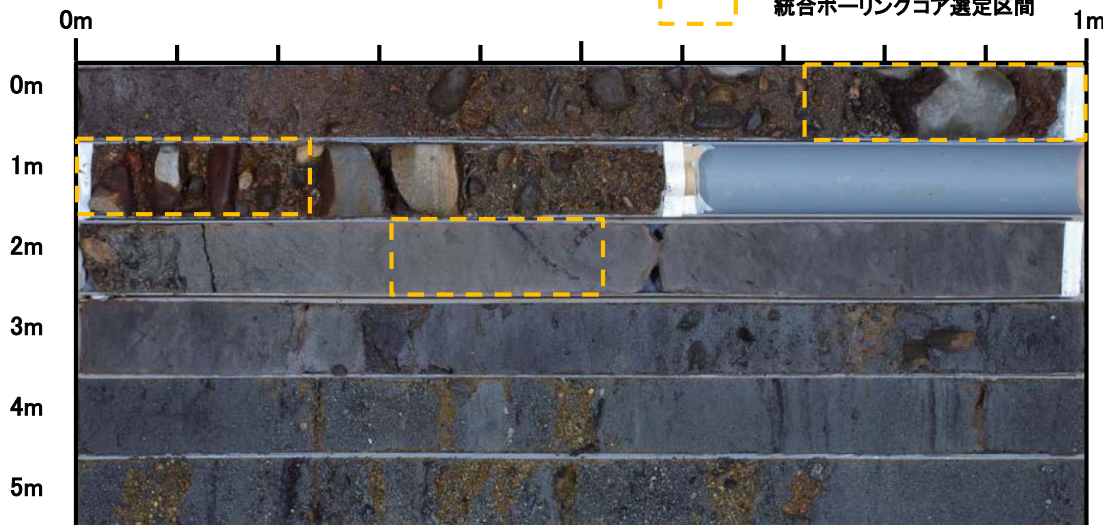


柱状図 凡例

- 盛土 (Fill)
- 礫層 (Gravel layer)
- 砂層 (Sand layer)
- 有機質砂層 (Organic sand layer)
- 堆積構造 (Depositional structure)
- 斜交葉理 (Cross-bedding)

3-1. OK4地点(9／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OK4-3孔)

ボーリングコア写真

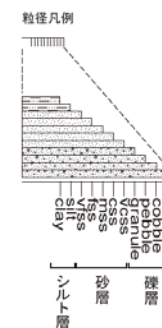
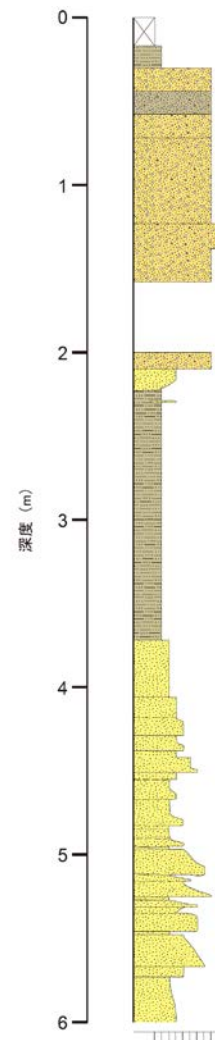


- OK4-3孔※1では、深度2.23m～3.72mに細粒層(有機質シルト層)を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OK4-3孔は、OK4-1孔及びOK4-2孔のコア欠損区間(深度1.81m～2.00m)のコアを採取するため掘削した。

柱状図

(孔口標高: EL. +1.91m)



柱状図 凡例





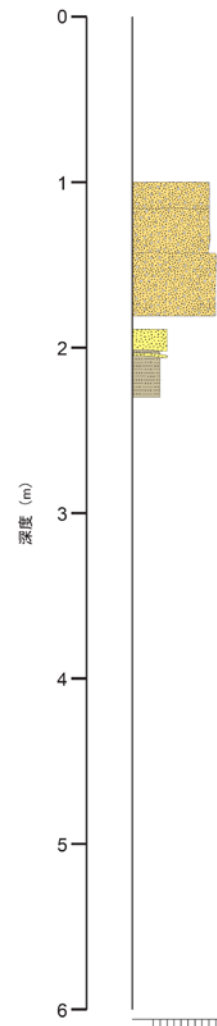
3-1. OK4地点(10／10): 柱状図及びボーリングコア写真(OK4-4孔)

ボーリングコア写真



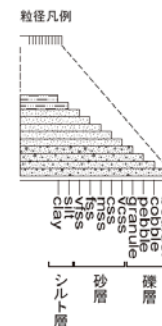
柱状図

(孔口標高: EL. +1.91m)

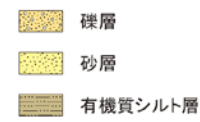


- OK4-4孔※1では、深度2.03m～2.31mに細粒層(有機質シルト層)の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

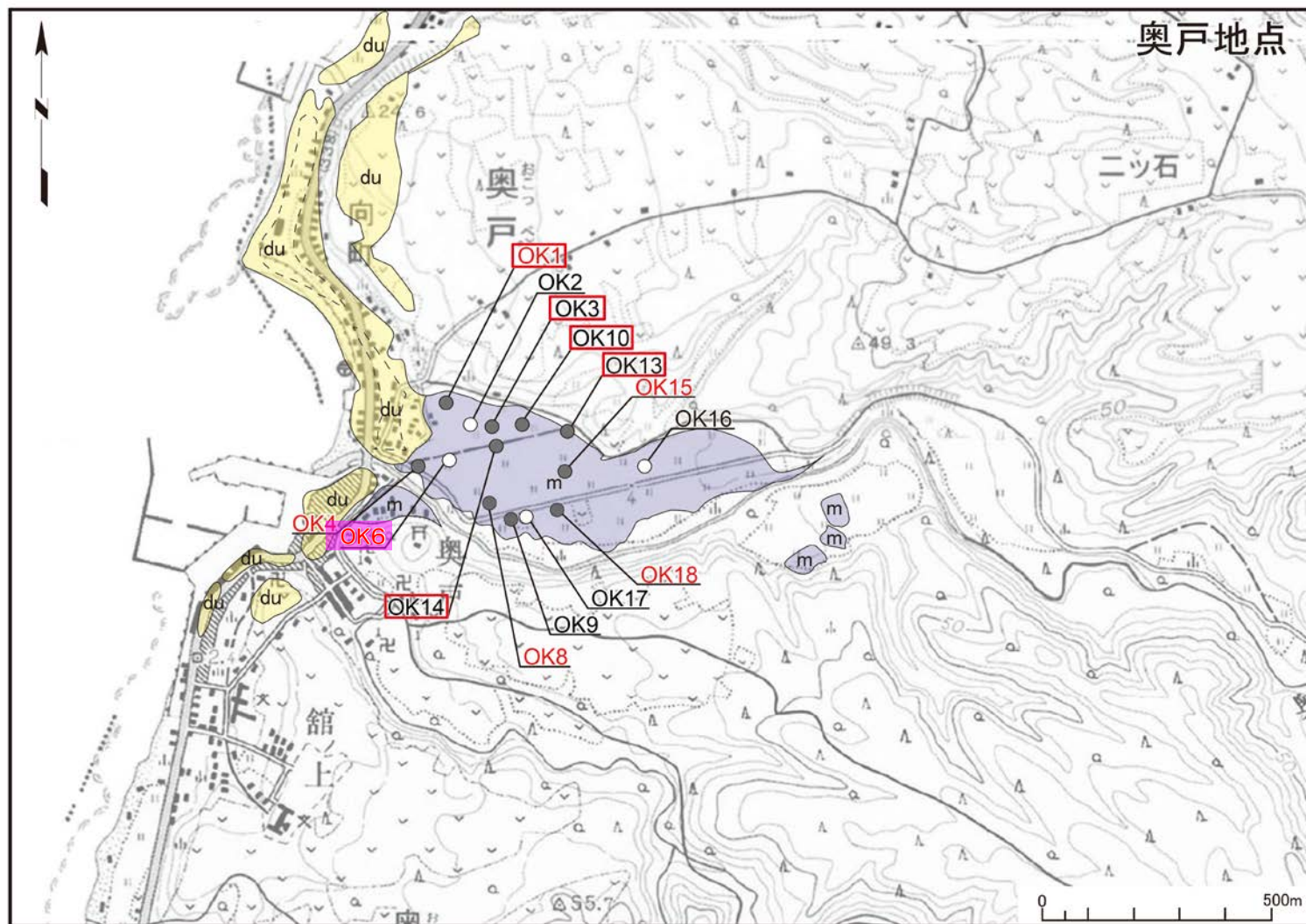
※1 OK4-4孔は、OK4-1孔～OK4-3孔のコア欠損区間(深度1.81m～2.00m)のコアを採取するため掘削した。



柱状図 凡例



3-2. OK6地点(1／8): ボーリング調査位置



奥戸地点の調査位置図

凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	谷底低地 後背湿地、氾濫原
ボーリング地点名及び位置	
● OK1	連続性のある イベント堆積物が 認められた地点
● OK1	イベント堆積物が 認められた地点
○ OK1	イベント堆積物が 認められなかった地点
OK1	リカバリー孔を掘削した ボーリング地点名

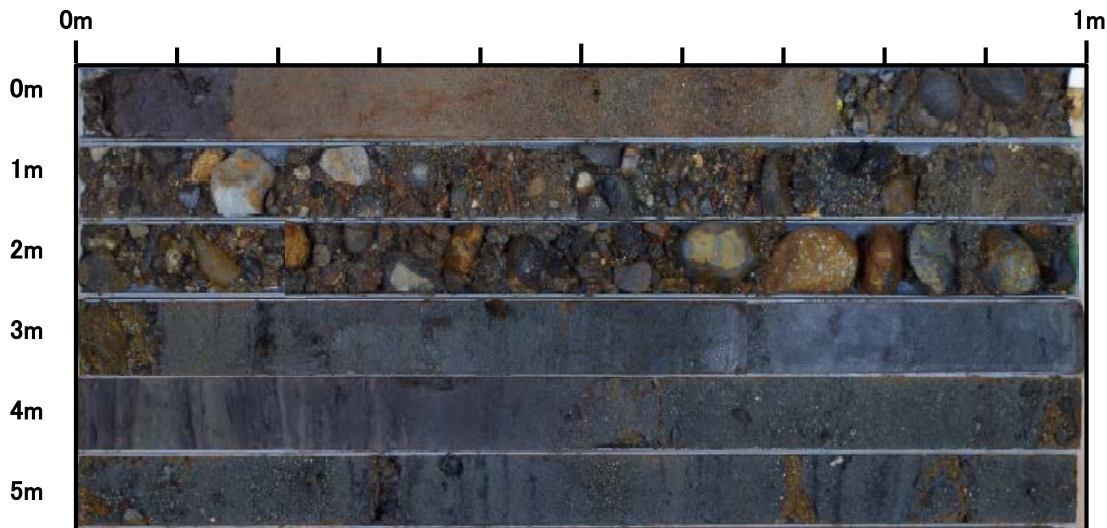
- OK6地点ではボーリング孔を2孔掘削した。
- OK6地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.42～P.48に示す。



コメントNo.S5-39

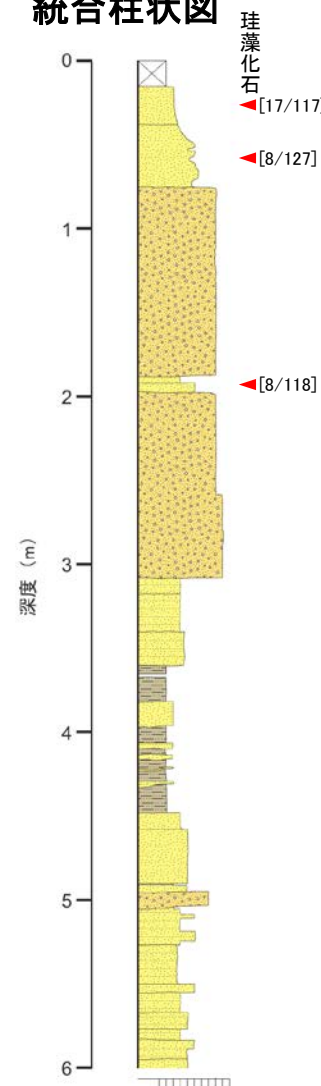
3-2. OK6地点(2／8): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

統合ボーリングコア写真

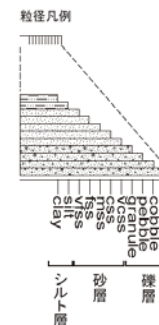


- 主に、礫層、砂層及び有機質シルト層からなり、イベント堆積物は認められない。
- ボーリング孔の掘止めは、おおむね現海水準と同じ海水準であった時代の堆積物が分布すると想定される深度6mとした。

統合柱状図



(孔口標高: EL. +2.27m)



柱状図 凡例

- | | | | |
|--|----|--|---------|
| | 盛土 | | 有機質砂層 |
| | 礫層 | | 有機質シルト層 |
| | 砂層 | | |
- 堆積構造
 平行葉理

凡 例

珪藻化石分析

- ◀ 微量の現世の海水～汽水生種を含むもの
 [1/200] 現世の海水～汽水生種の個数/総個体数

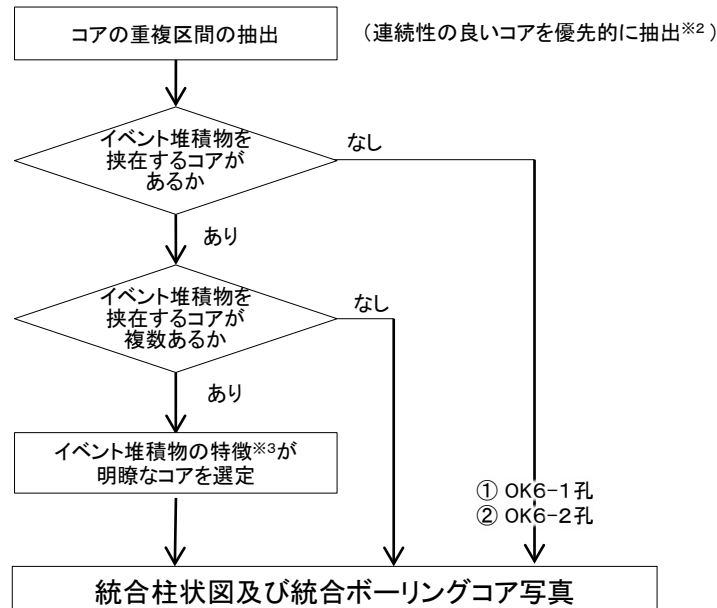


3-2. OK6地点(3／8): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名 ^{※1}	深度区間 (m)							
			0	1	2	3	4	5		6
OK6	0 ~ 6	OK6-1								P.47を参照。
		OK6-2								P.48を参照。

統合ボーリングコア選定区間
 重複区間

重複区間の選定フロー



- OK6地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度0.00m～2.21mについては、同じ堆積層(礫層)からなるが、連続性の良いOK6-1孔を選定した。
- 選定区間②の深度2.21m～3.65mについては、同じ堆積層(砂層)からなるが、その下位の細粒層(有機質シルト層)の上端境界を連続したコアで確認できるOK6-2孔を選定した。

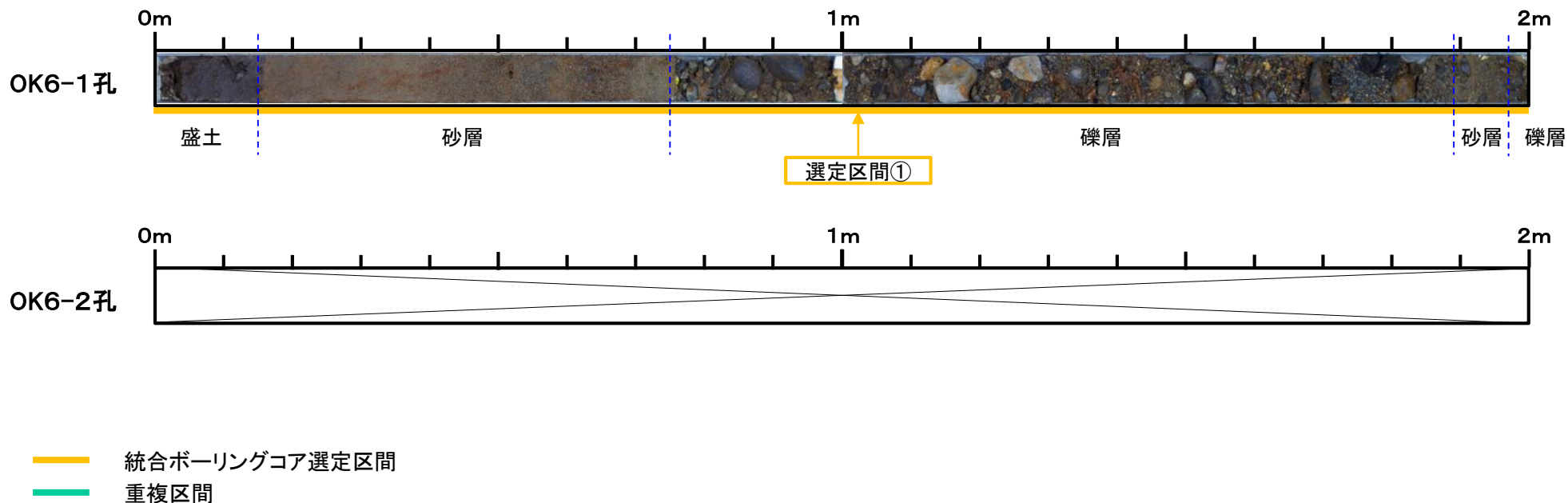
※1 OK6地点の2孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。



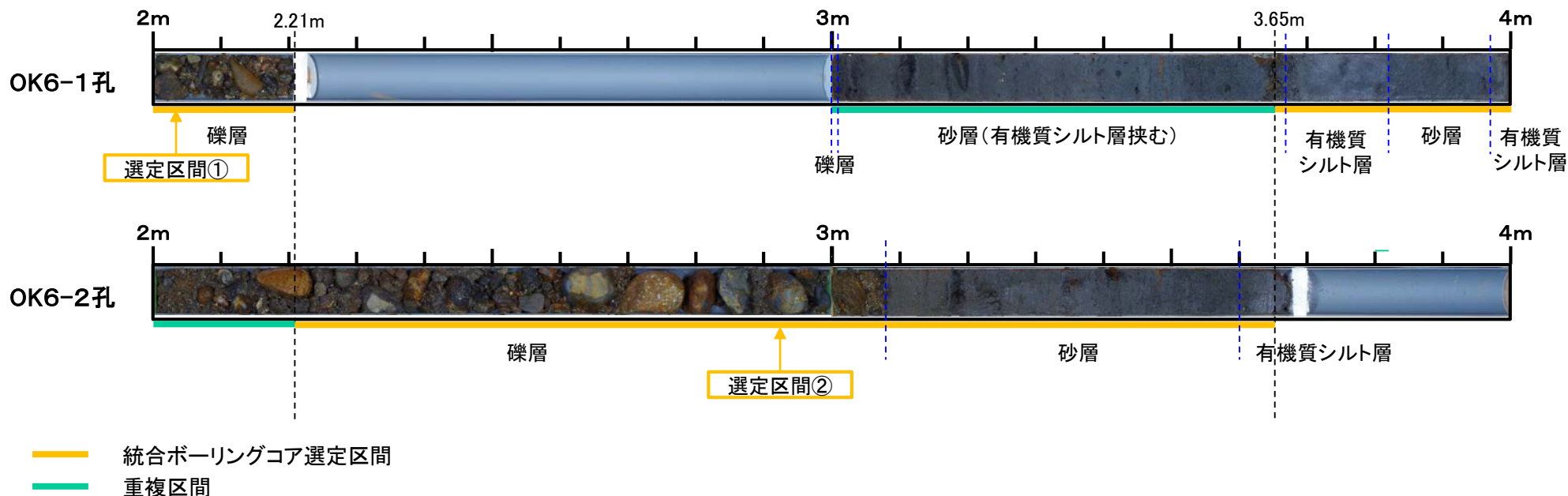
3-2. OK6地点(4／8): OK6-1～OK6-2孔のボーリングコア対比写真(1／3): 深度0m～2m



- 選定区間①の深度0.00m～2.00mについては、重複区間がないため、OK6-1孔を選定した。



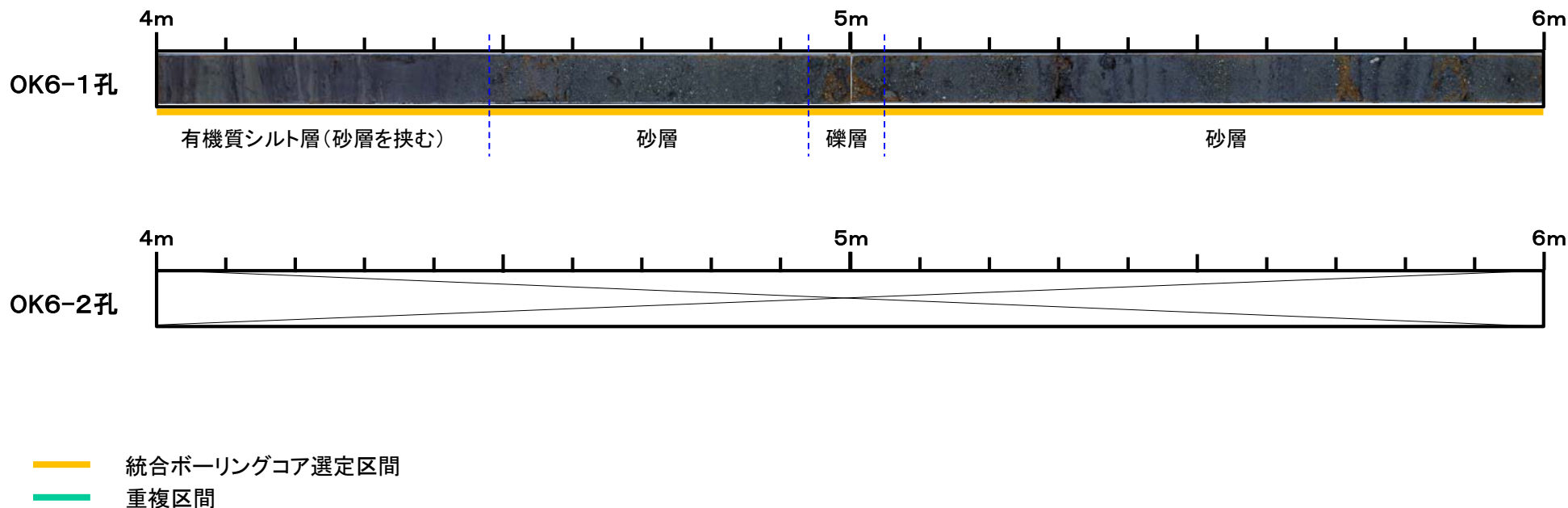
3-2. OK6地点(5/8): OK6-1～OK6-2孔のボーリングコア対比写真(2/3): 深度2m～4m



- 選定区間①の深度2.00m～2.21mについては、同じ堆積層(礫層)からなるが、連続性の良いOK6-1孔を選定した。
- 選定区間②の深度2.21m～3.65mについては、ほぼ同じ堆積層(砂層)からなるが、砂層の下位の細粒層(有機質シルト層)の上端境界を連続したコアで確認できるOK6-2孔を選定した。
- 深度3.65m～6.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK6-1孔を選定した。



3-2. OK6地点(6／8): OK6-1～OK6-2孔のボーリングコア対比写真(3／3): 深度4m～6m



• 深度4.00m～6.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK6-1孔を選定した。

3-2. OK6地点(7／8): 柱状図及びボーリングコア写真(OK6-1孔)

ボーリングコア写真

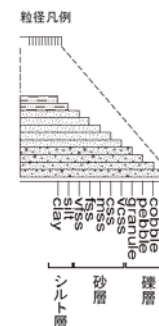
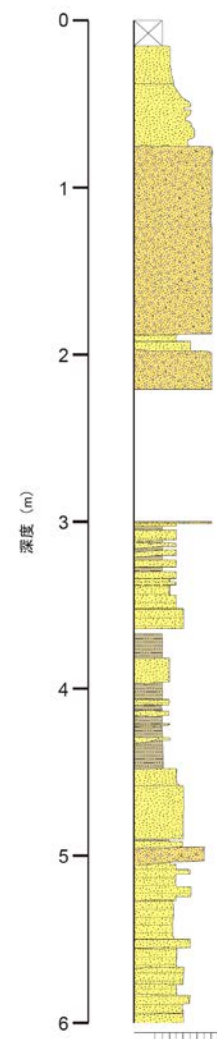
統合ボーリングコア選定区間



- OK6-1孔では、深度3.67m～4.48mに細粒層(有機質シルト層)を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

柱状図

(孔口標高: EL. +2.27m)

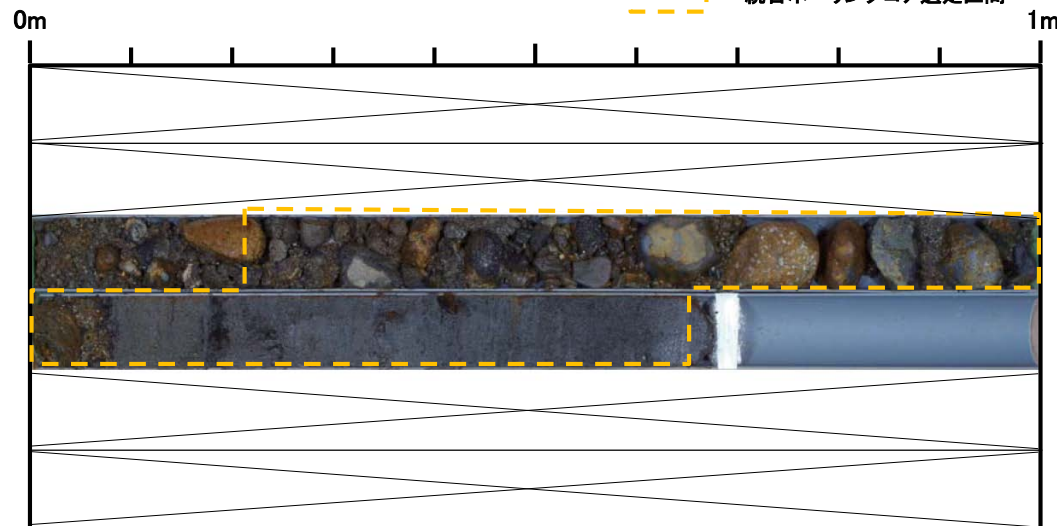


柱状図 凡例

- | | | | |
|------|------|--|---------|
| | 盛土 | | 有機質砂層 |
| | 礫層 | | 有機質シルト層 |
| | 砂層 | | |
| 堆積構造 | | | |
| | 平行葉理 | | |

3-2. OK6地点(8／8): 柱状図及びボーリングコア写真(OK6-2孔)

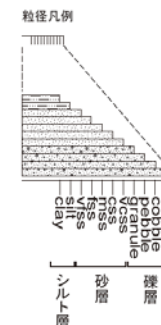
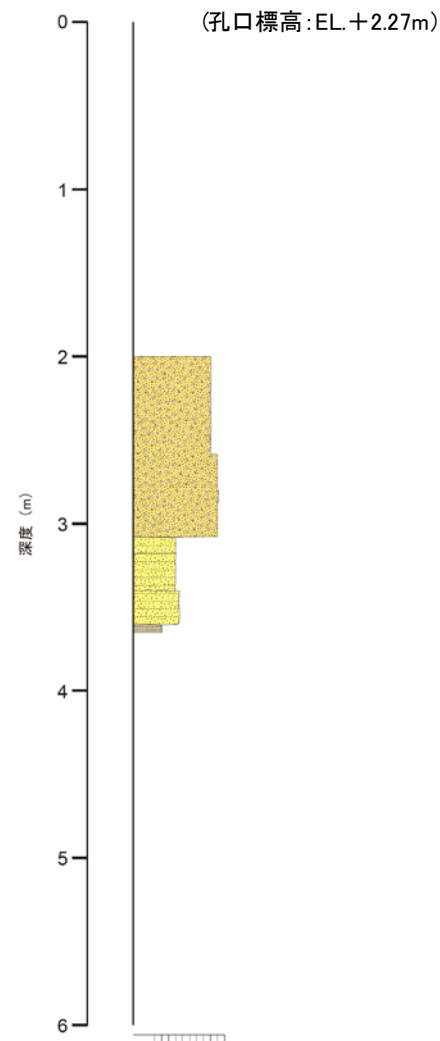
ボーリングコア写真



- OK6-2孔※1では、礫層、砂層及び有機質シルト層が確認され、細粒層(有機質シルト層)が欠損している。

※1 OK6-2孔は、OK6-1孔のコア欠損区間(深度2.21m～3.00m)のコアを採取するため掘削した。

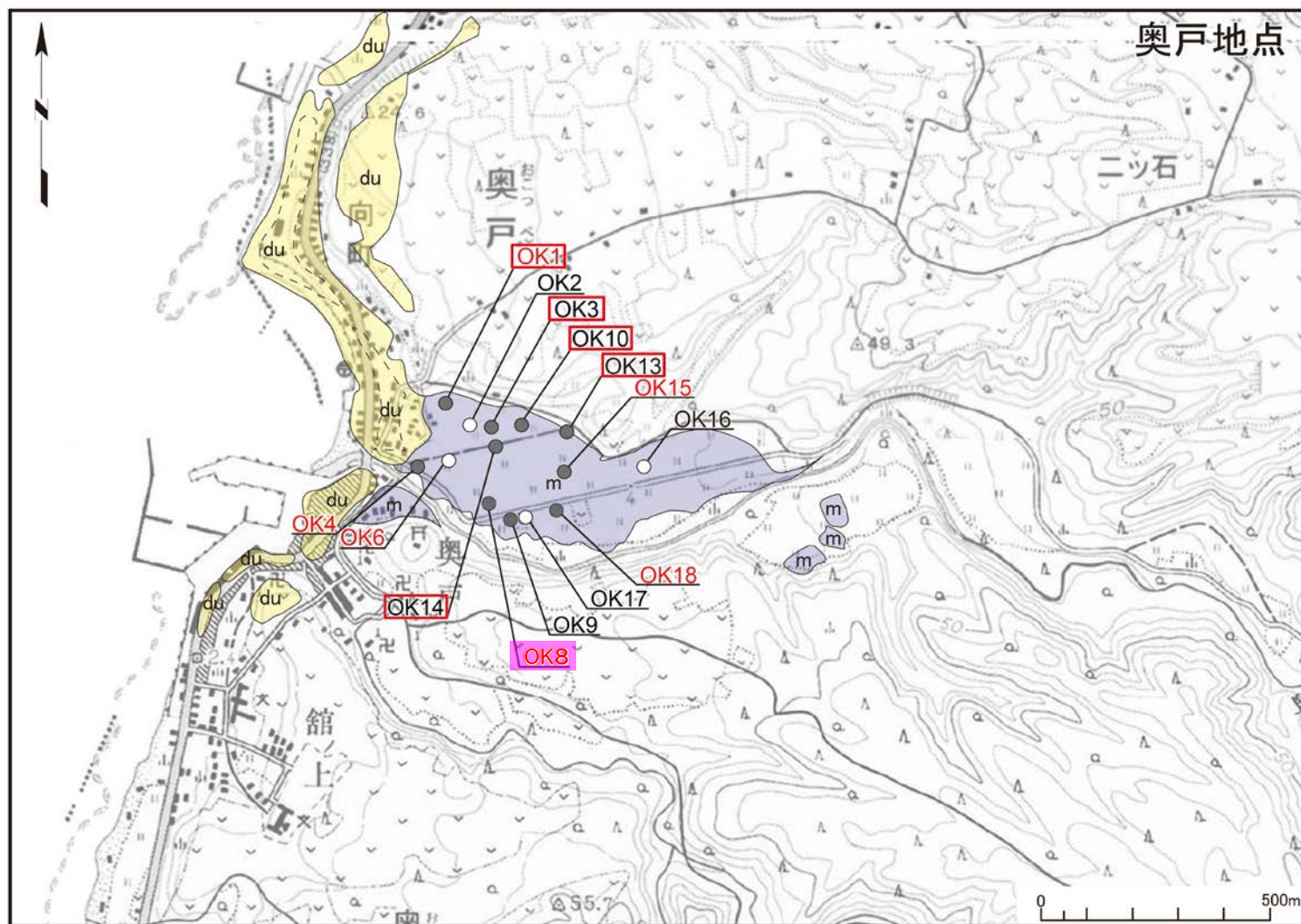
柱状図



柱状図 凡例



3-3. OK8地点(1／8): ボーリング調査位置



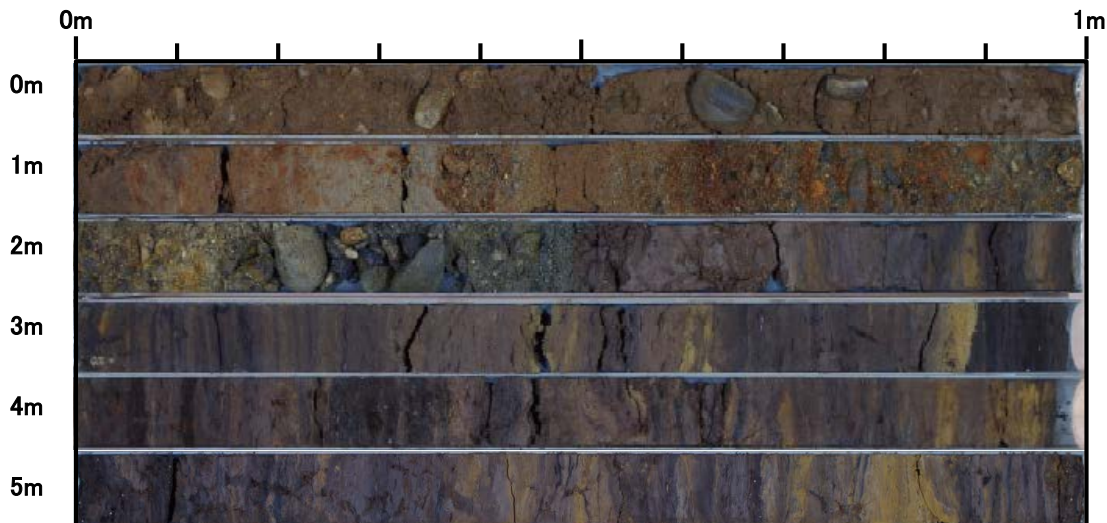
奥戸地点の調査位置図

凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	谷底低地 後背湿地、氾濫原
ボーリング地点名及び位置	
● OK1	連続性のある イベント堆積物が 認められた地点
● OK1	イベント堆積物が 認められた地点
○ OK1	イベント堆積物が 認められなかった地点
OK1	リカバリー孔を掘削した ボーリング地点名

- OK8地点ではボーリング孔を2孔掘削した。
- OK8地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, 元となったボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.50～P.56に示す。

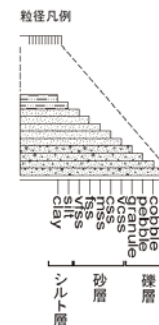
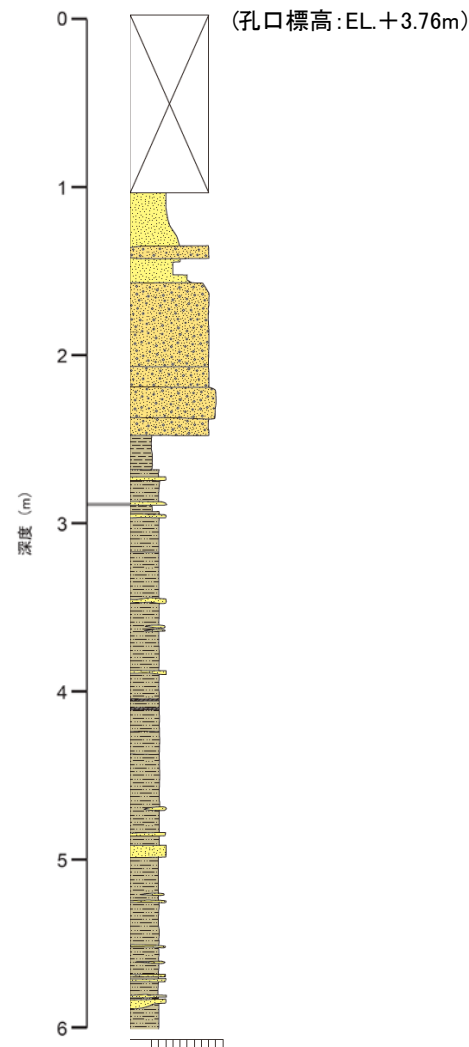
3-3. OK8地点(2/8): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

統合ボーリングコア写真



- 主に、礫層、砂層及び有機質シルト層からなり、深度2.9m付近の細粒層（有機質シルト層及び有機質粘土層）中に1層準のイベント堆積物が認められる。
- なお、本イベント堆積物は本孔のみで認められ、付近への連続性は認められない。
- ボーリング孔の掘止めは、おおむね現海水準と同じ海水準であった時代の堆積物が分布すると想定される深度6mとした。

統合柱状図



柱状図 凡例

- 盛土
- 腐植土層
- 礫層
- 砂層
- 有機質シルト層
- 有機質粘土層

凡例

- イベント堆積物

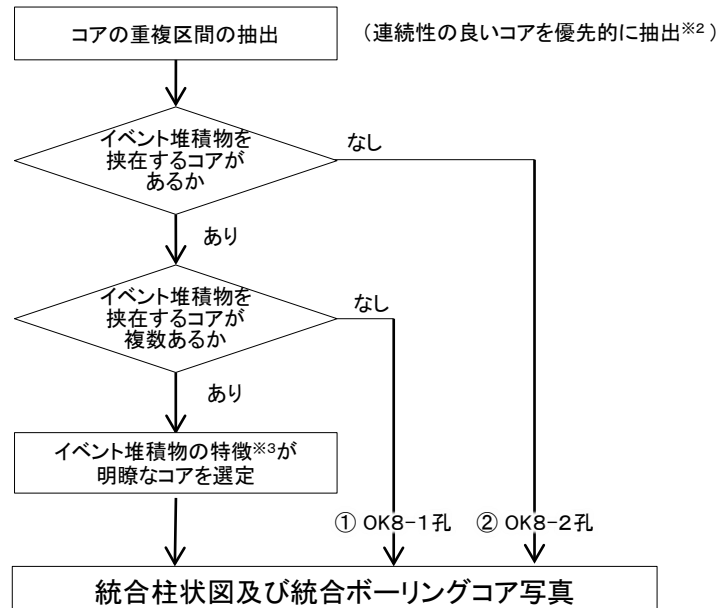


3-3. OK8地点(3／8): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名 ^{※1}	深度区間 (m)							
			0	1	2	3	4	5		6
OK8	0 ~ 6	OK8-1						①		P.55を参照。
		OK8-2							②	P.56を参照。

統合ボーリングコア選定区間
 重複区間
 イベント堆積物

重複区間の選定フロー



- OK8地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度0.00m～5.00mについては、イベント堆積物を挟むOK8-1孔を選定した。
- 選定区間②の深度5.00m～6.00mについては、細粒層（有機質シルト層）が連続して確認できるOK8-2孔を選定した。

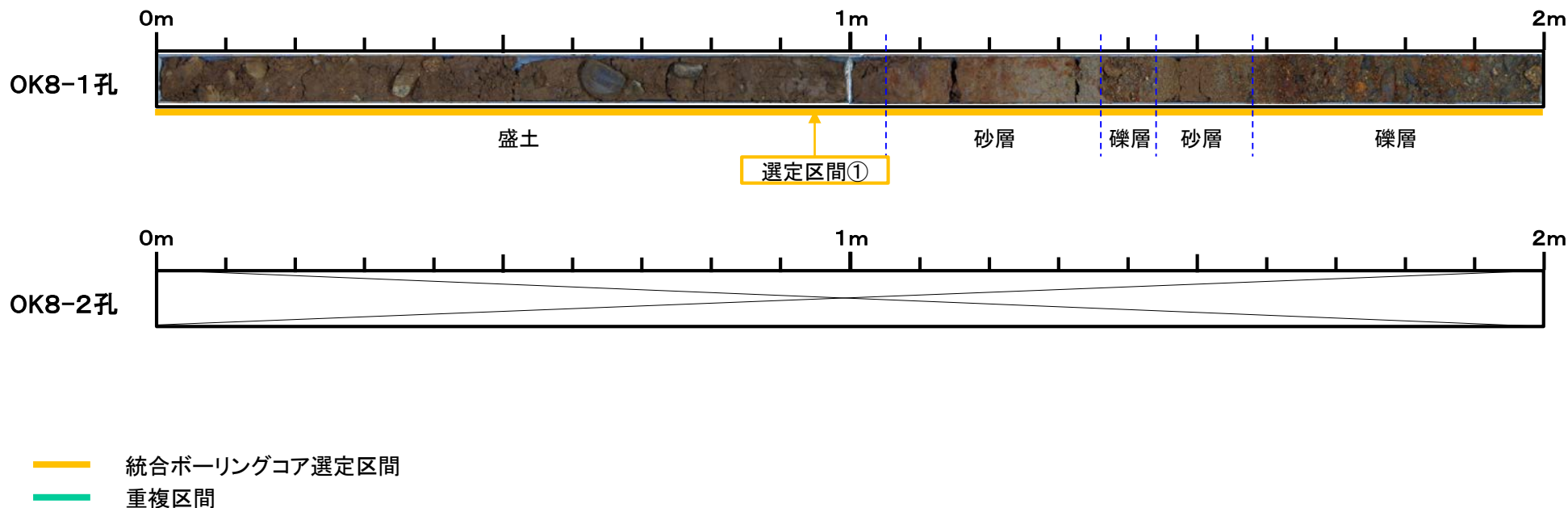
※1 OK8地点の2孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。



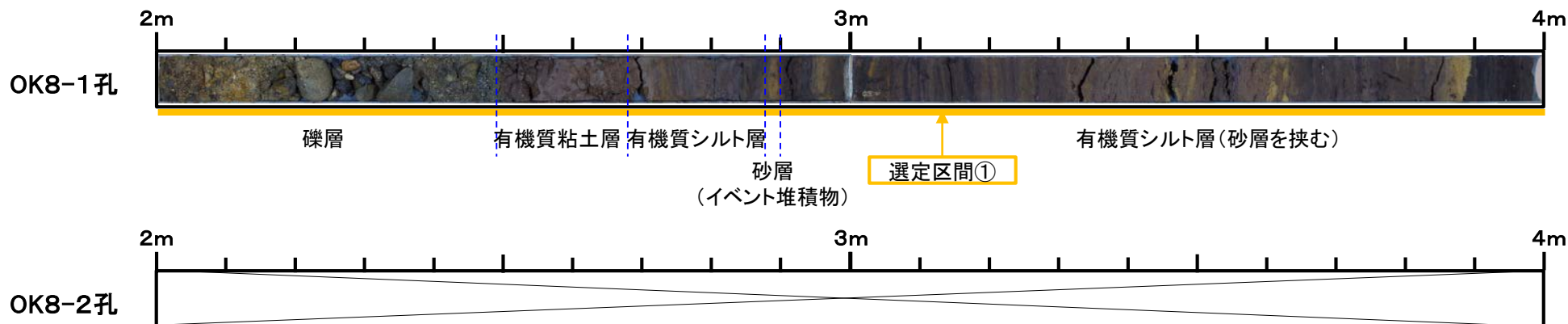
3-3. OK8地点(4／8): OK8-1～OK8-2孔のボーリングコア対比写真(1／3): 深度0m～2m



• 選定区間①の深度0.00m～2.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK8-1孔を選定した。



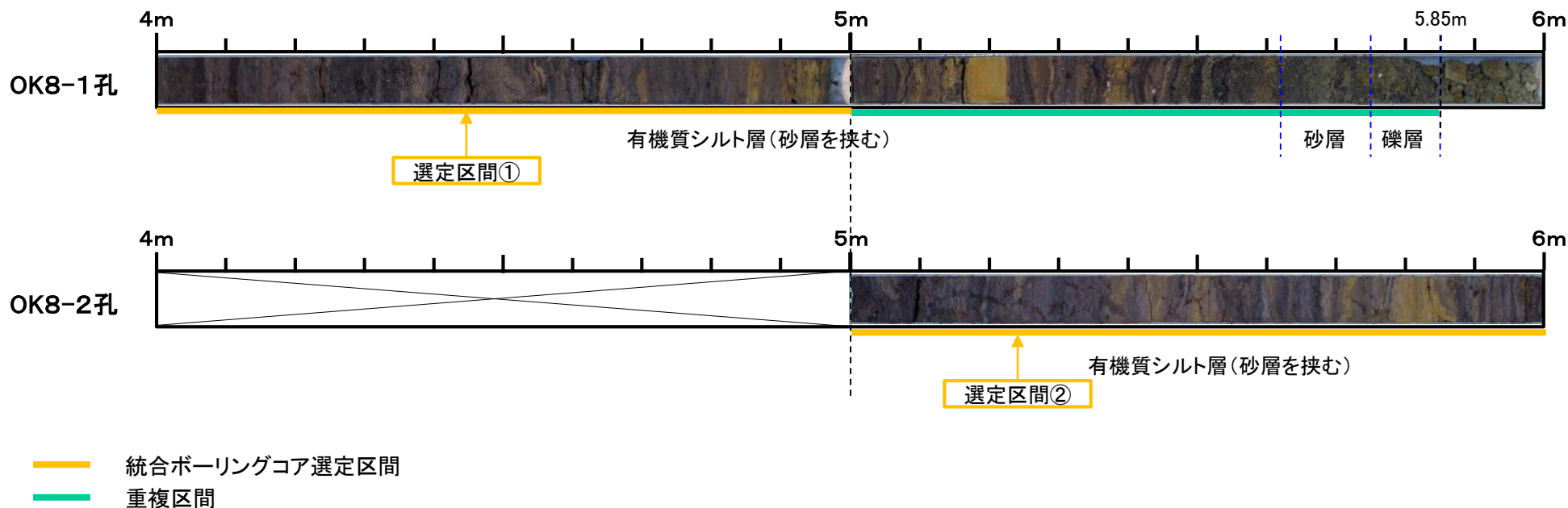
3-3. OK8地点(5／8): OK8-1～OK8-2孔のボーリングコア対比写真(2／3): 深度2m～4m



— 統合ボーリングコア選定区間
— 重複区間

- 選定区間①の深度2.00m～4.00mについては、細粒層(有機質シルト層)中にイベント堆積物の砂層を挟在するOK8-1孔を選定した。

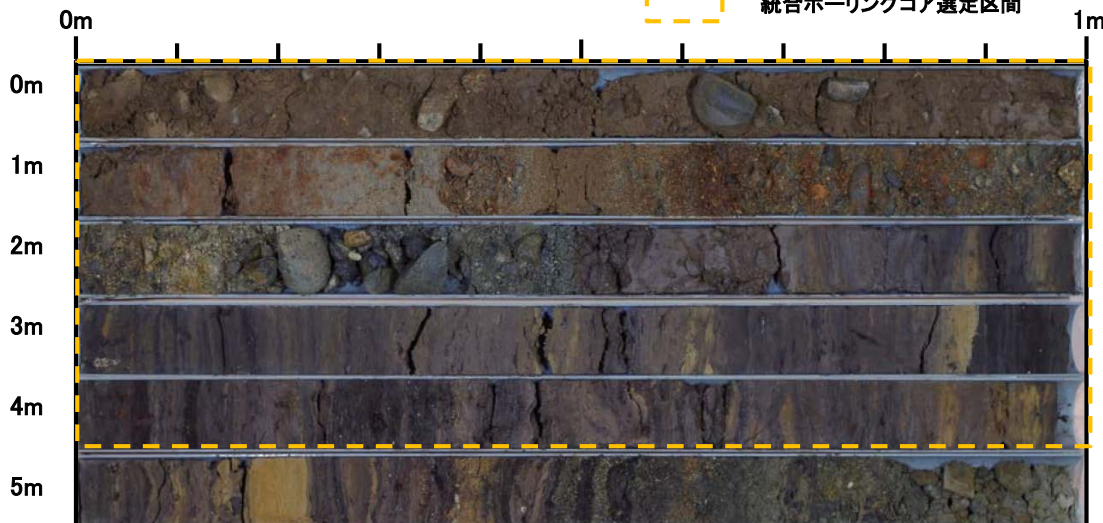
3-3. OK8地点(6/8): OK8-1～OK8-2孔のボーリングコア対比写真(3/3): 深度4m～6m



- 選定区間①の深度4.00m～5.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK8-1孔を選定した。
- 選定区間②の深度5.00m～6.00mについては、細粒層(有機質シルト層)が連続して確認できるOK8-2孔を選定した。

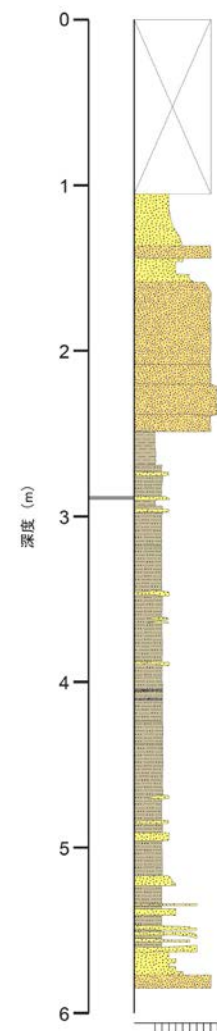
3-3. OK8地点(7/8): 柱状図及びボーリングコア写真(OK8-1孔)

ボーリングコア写真

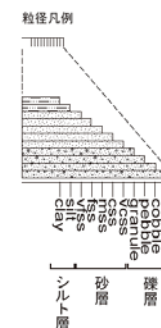


- OK8-1孔では、深度2.49m～5.62mに細粒層(有機質粘土層及び有機質シルト層)が確認され、イベント堆積物の砂層が認められる。

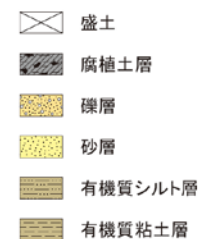
柱状図



(孔口標高: EL. +3.76m)



柱状図 凡例



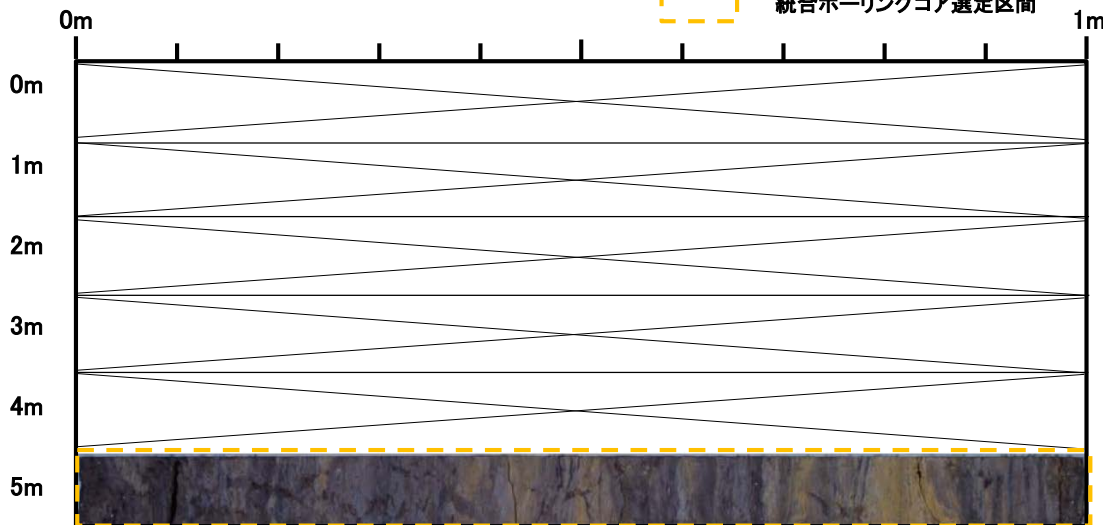
凡 例





3-3. OK8地点(8／8): 柱状図及びボーリングコア写真(OK8-2孔)

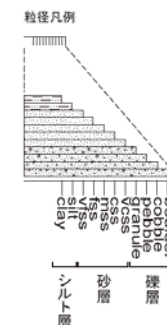
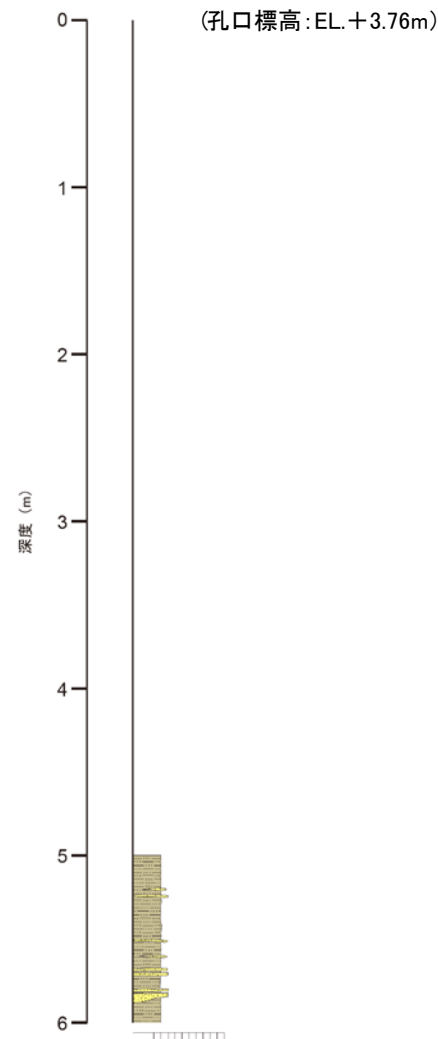
ボーリングコア写真



- OK8-2孔※1では、深度5.00m～6.00mに細粒層（有機質シルト層）の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OK8-2孔は、OK8-1孔のコア欠損区間（深度5.85m～6.00m）のコアを採取するため掘削した。

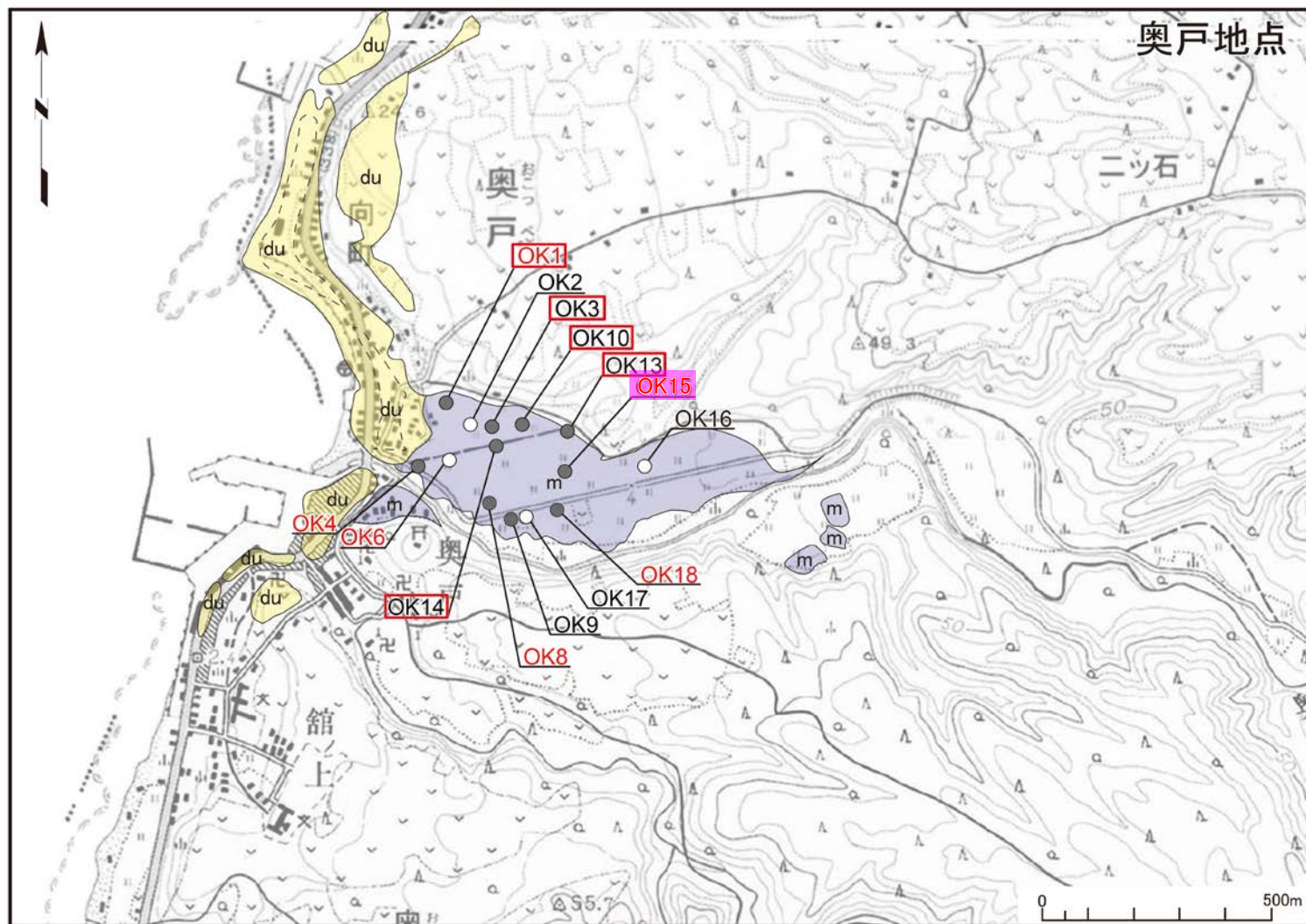
柱状図



柱状図 凡例

- 砂層
- 有機質シルト層

3-4. OK15地点(1／9): ボーリング調査位置



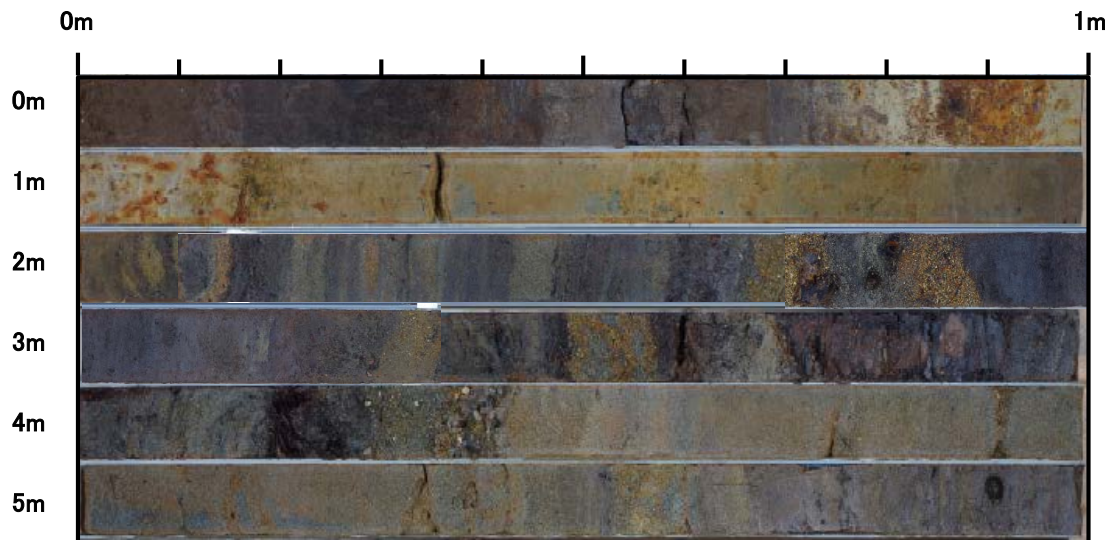
奥戸地点の調査位置図

凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	谷底低地 後背湿地、氾濫原
ボーリング地点名及び位置	
● OK1	連続性のある イベント堆積物が 認められた地点
● OK1	イベント堆積物が 認められた地点
○ OK1	イベント堆積物が 認められなかった地点
OK1	リカバリー孔を掘削した ボーリング地点名

- OK15地点ではボーリング孔を3孔掘削した。
- OK15地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.58～P.65に示す。

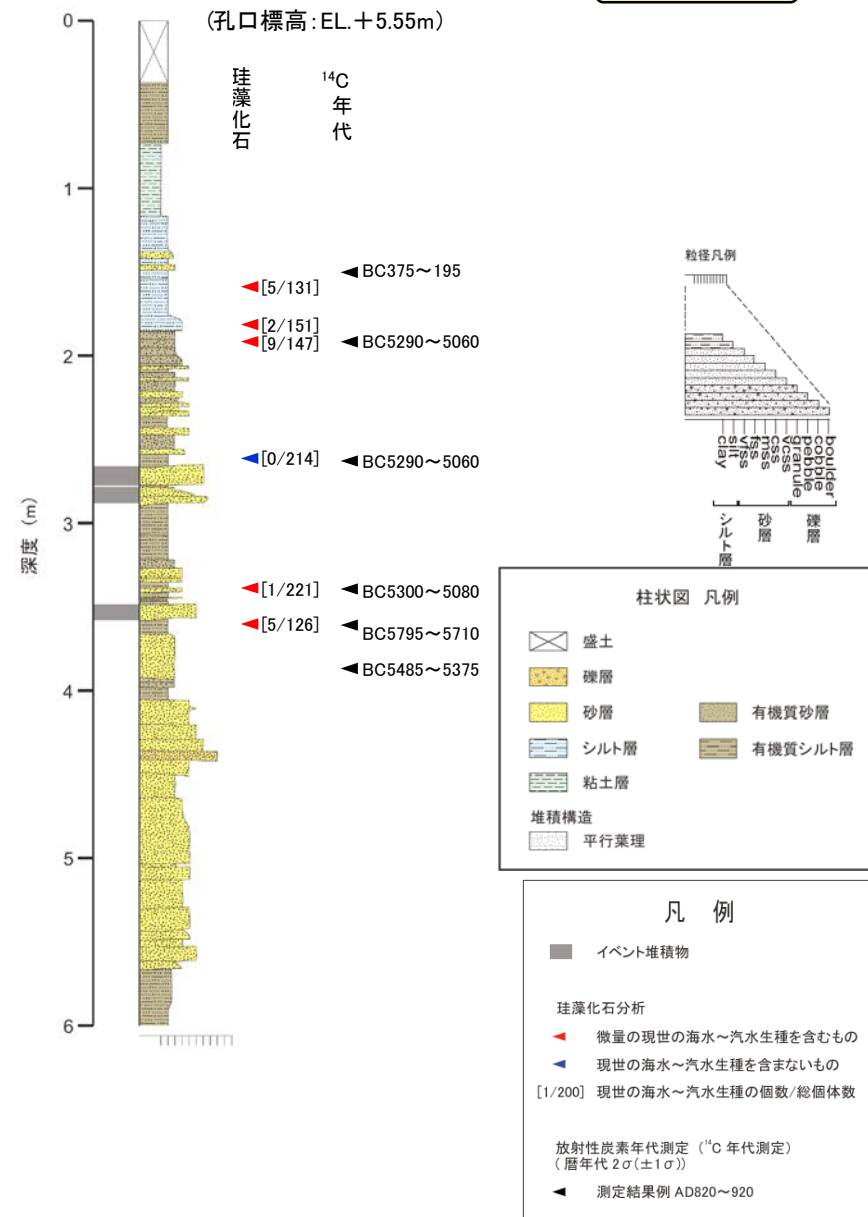
3-4. OK15地点(2/9): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

統合ボーリングコア写真



- 主に、シルト層、有機質シルト層及び砂層からなり、深度2.7m付近、深度2.8m付近及び深度3.5m付近の細粒層(有機質シルト層)中に3層準のイベント堆積物が認められる。
- なお、これらイベント堆積物は本孔のみで認められ、付近への連続性は認められない。
- ボーリング孔の掘止めは、おおむね現海水準と同じ海水準であった時代の堆積物が分布すると想定される深度6mとした。

統合柱状図



コメントNo.S5-39

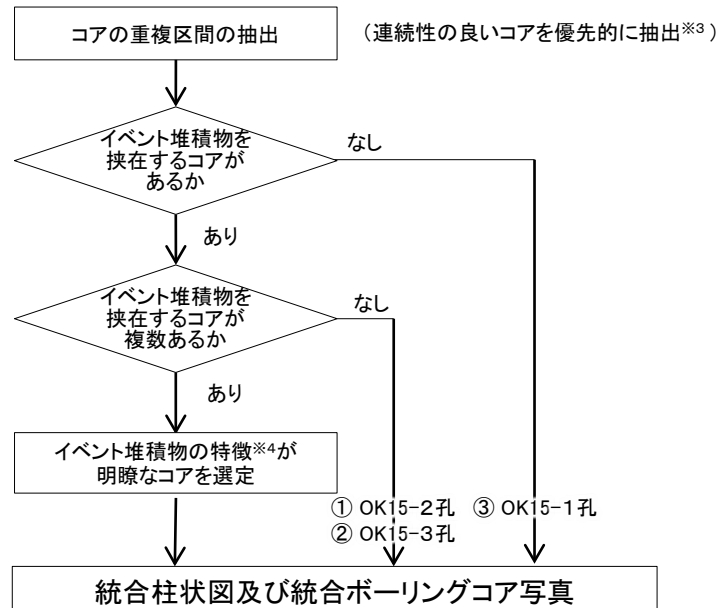


3-4. OK15地点(3／9): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名 ^{※1}	深度区間 (m)							
			0	1	2	3	4	5		6
OK15	0 ~ 6	OK15-1								P.63を参照。
		OK15-2 ^{※2}								P.64を参照。
		OK15-3 ^{※2}								P.65を参照。

統合ボーリングコア選定区間
 重複区間
 イベント堆積物

重複区間の選定フロー



- OK15地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度2.70m～3.35mについては、イベント堆積物の下位の細粒層(有機質シルト層)が連続して確認できるOK15-2孔を選定した。
- 選定区間②の深度2.10m～2.70mについては、イベント堆積物の上位の細粒層(有機質シルト層)が連続して確認できるOK15-3孔を選定した。
- 選定区間③の深度0.00m～2.10mについては、細粒層(シルト層)が連続して確認できるOK15-1孔を選定した。

※1 OK15地点の3孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

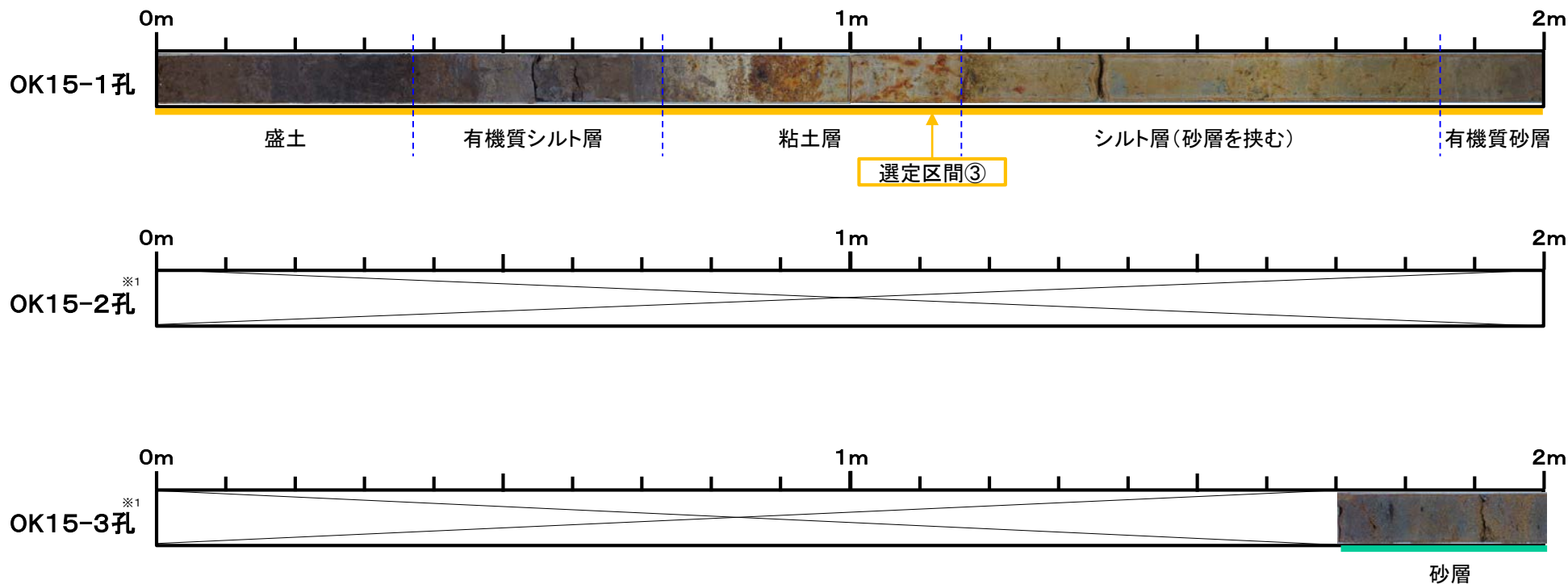
※2 OK15-2孔及びOK15-3孔は、層相からOK15-1孔に対比した深度区間。

※3 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※4 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。



3-4. OK15地点(4／9): OK15-1～OK15-3孔のボーリングコア対比写真(1／3): 深度0m～2m



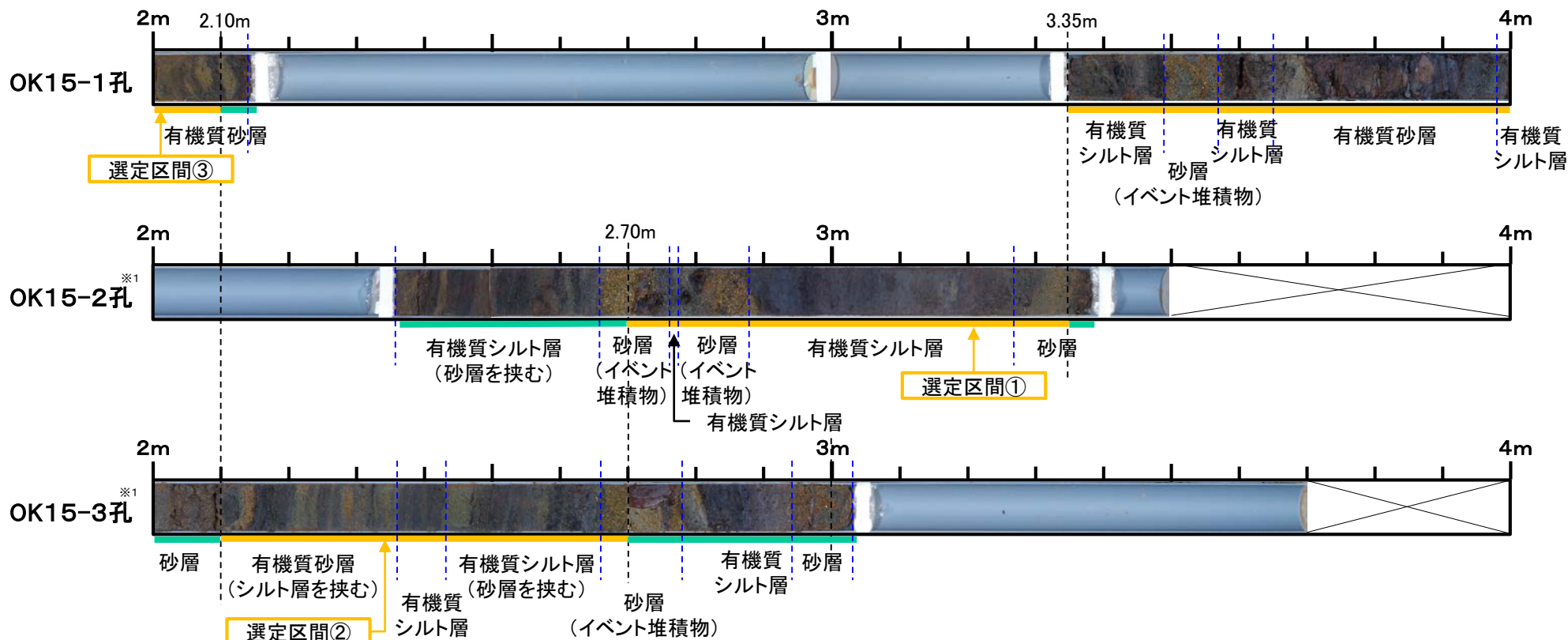
※1 OK15-2孔及びOK15-3孔は、層相からOK15-1孔に対比した深度で表示。

統合ボーリングコア選定区間
重複区間

・選定区間③の深度0.00m～2.00mについては、細粒層(シルト層)が連続して確認できるOK15-1孔を選定した。



3-4. OK15地点(5/9): OK15-1~OK15-3孔のボーリングコア対比写真(2/3): 深度2m~4m



※1 OK15-2孔及びOK15-3孔は、層相からOK15-1孔に対比した深度で表示。

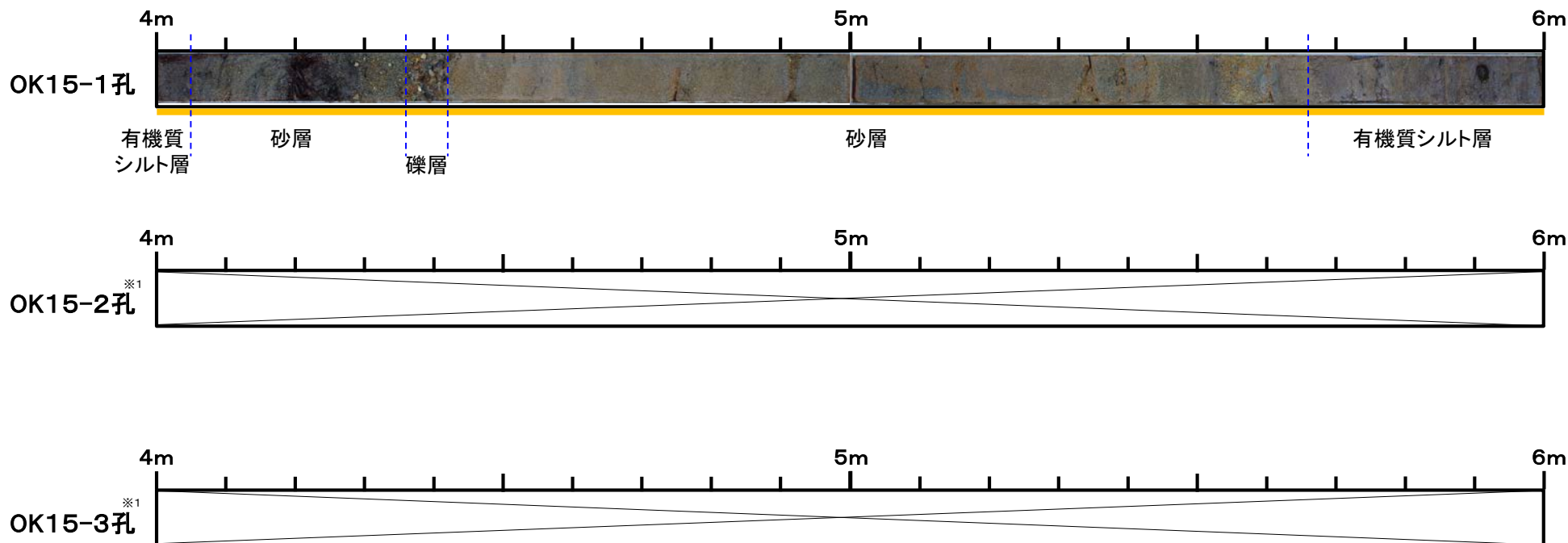
- 選定区間①の深度2.70m～3.35mについては、イベント堆積物の砂層の下位の細粒層(有機質シルト層)が連続して確認できるOK15-2孔を選定した。
- 選定区間②の深度2.10m～2.70mについては、イベント堆積物の砂層の上位の細粒層(有機質シルト層)が連続して確認できるOK15-3孔を選定した。
- 選定区間③の深度2.00m～2.10mについては、細粒層(シルト層)が連続して確認できるOK15-1孔を選定した。
- 深度3.35m～4.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がほとんどないため、OK15-1孔を選定した。

統合ボーリングコア選定区間

重複区間



3-4. OK15地点(6／9): OK15-1～OK15-3孔のボーリングコア対比写真(3／3): 深度4m～6m



※1 OK15-2孔及びOK15-3孔は、層相からOK15-1孔に対比した深度で表示。

統合ボーリングコア選定区間
重複区間

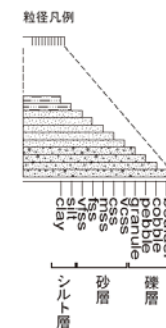
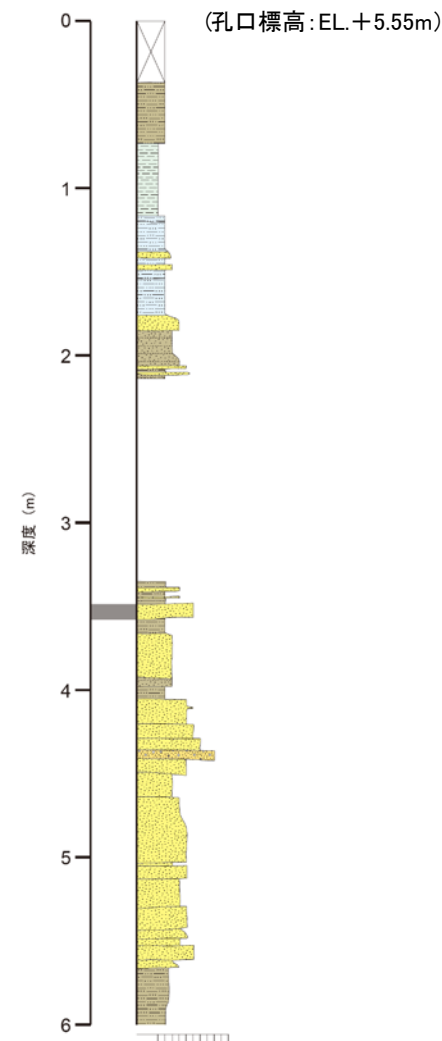
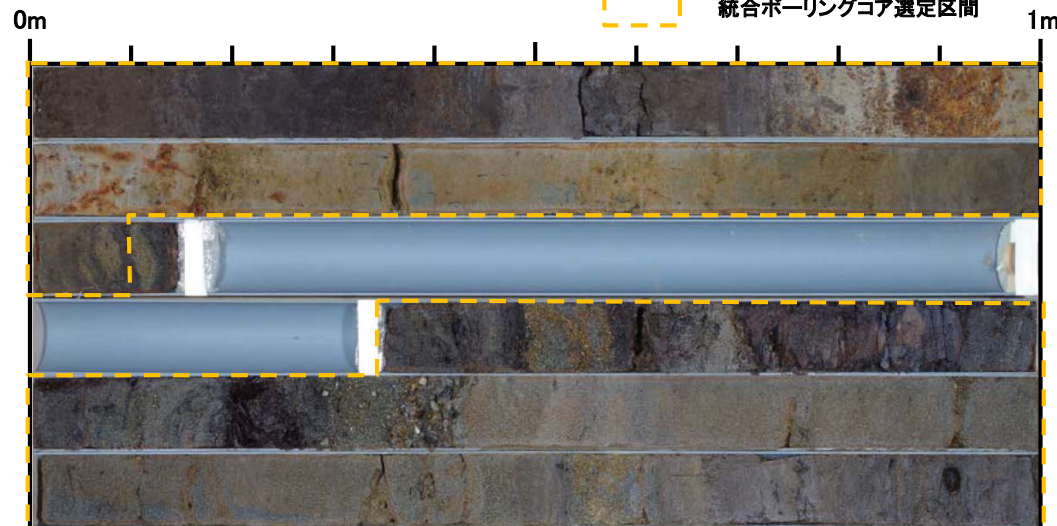
• 深度4.00m～6.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK15-1孔を選定した。



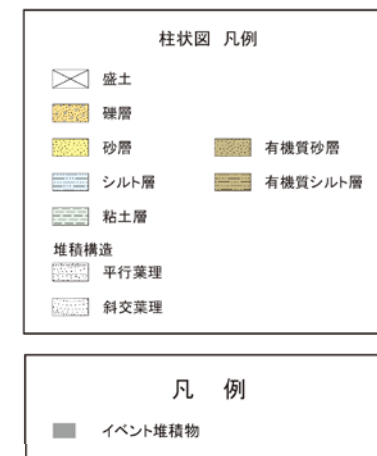
3-4. OK15地点(7/9): 柱状図及びボーリングコア写真(OK15-1孔)

柱状図

ボーリングコア写真



- OK15-1孔では、深度0.37m～2.14m, 3.35m～4.05m, 5.66m～6.00mに細粒層(粘土層, シルト層, 有機質シルト層等)が確認され、このうち中部の細粒層中にイベント堆積物の砂層が認められる。



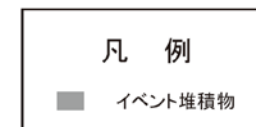
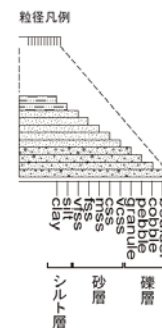
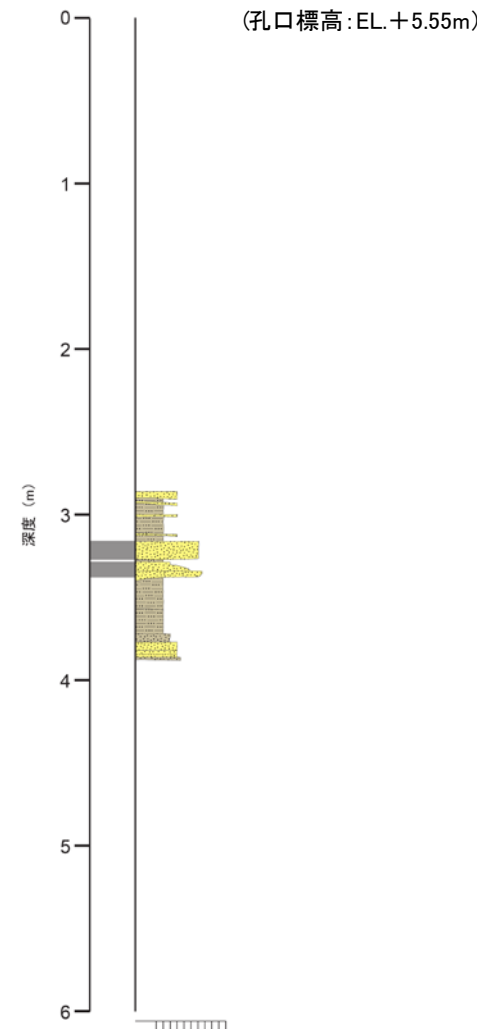
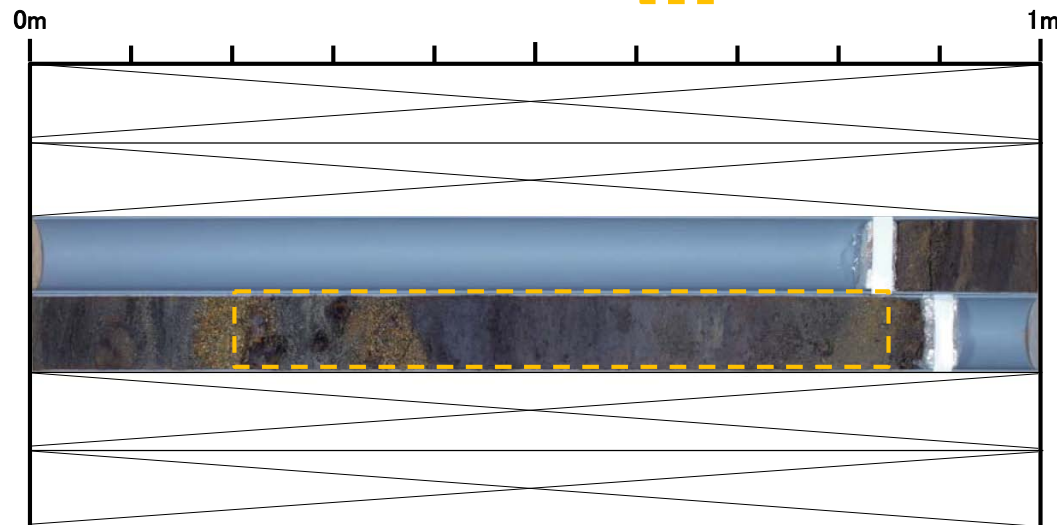


3-4. OK15地点(8/9): 柱状図及びボーリングコア写真(OK15-2孔)

柱状図

ボーリングコア写真

統合ボーリングコア選定区間



- OK15-2孔※1では、深度2.86m～3.77mに細粒層(有機質シルト層)が確認され、イベント堆積物の砂層が認められる。

※1 OK15-2孔は、OK15-1孔のコア欠損区間(深度2.14m～3.35m)のコアを採取するため掘削した。

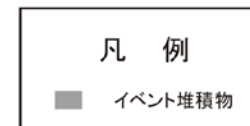
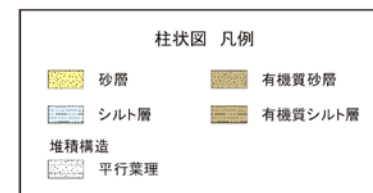
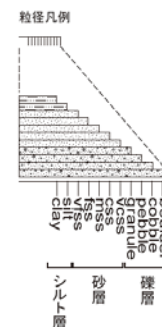
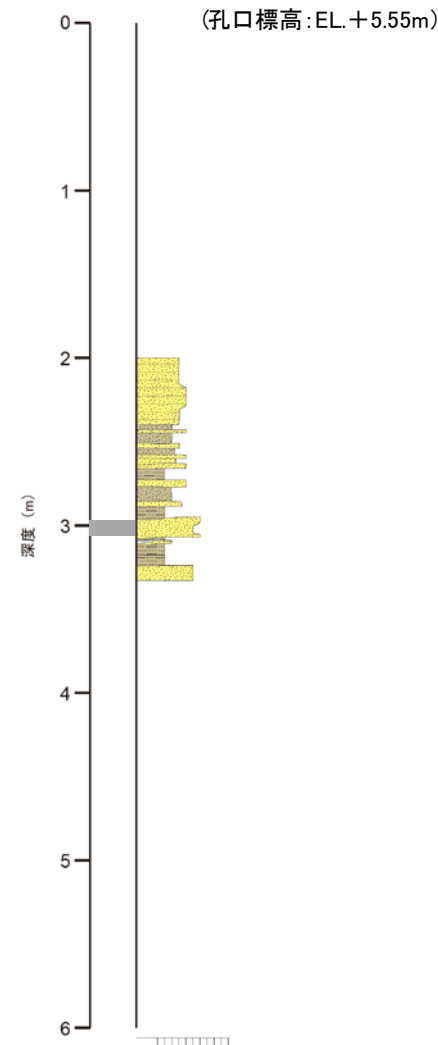
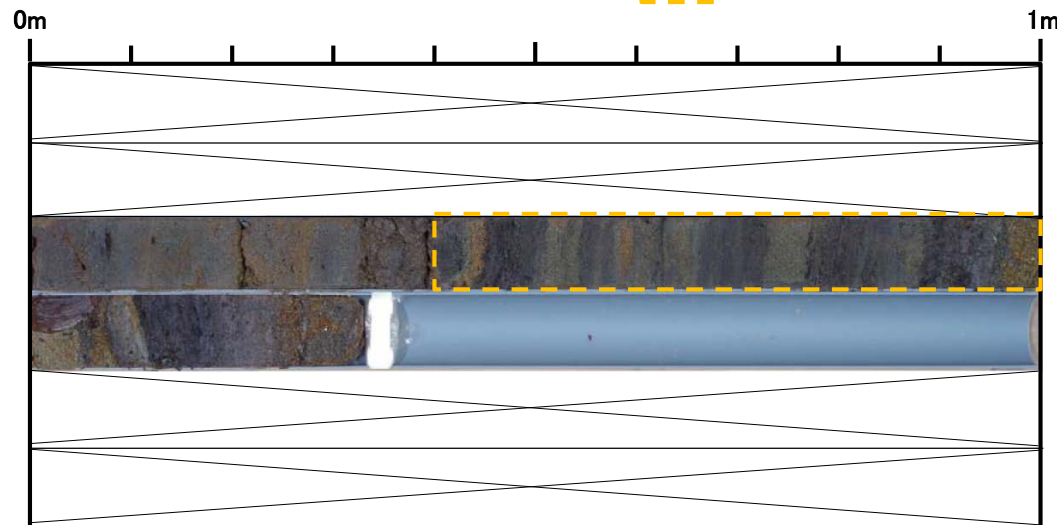


3-4. OK15地点(9/9): 柱状図及びボーリングコア写真(OK15-3孔)

柱状図

ボーリングコア写真

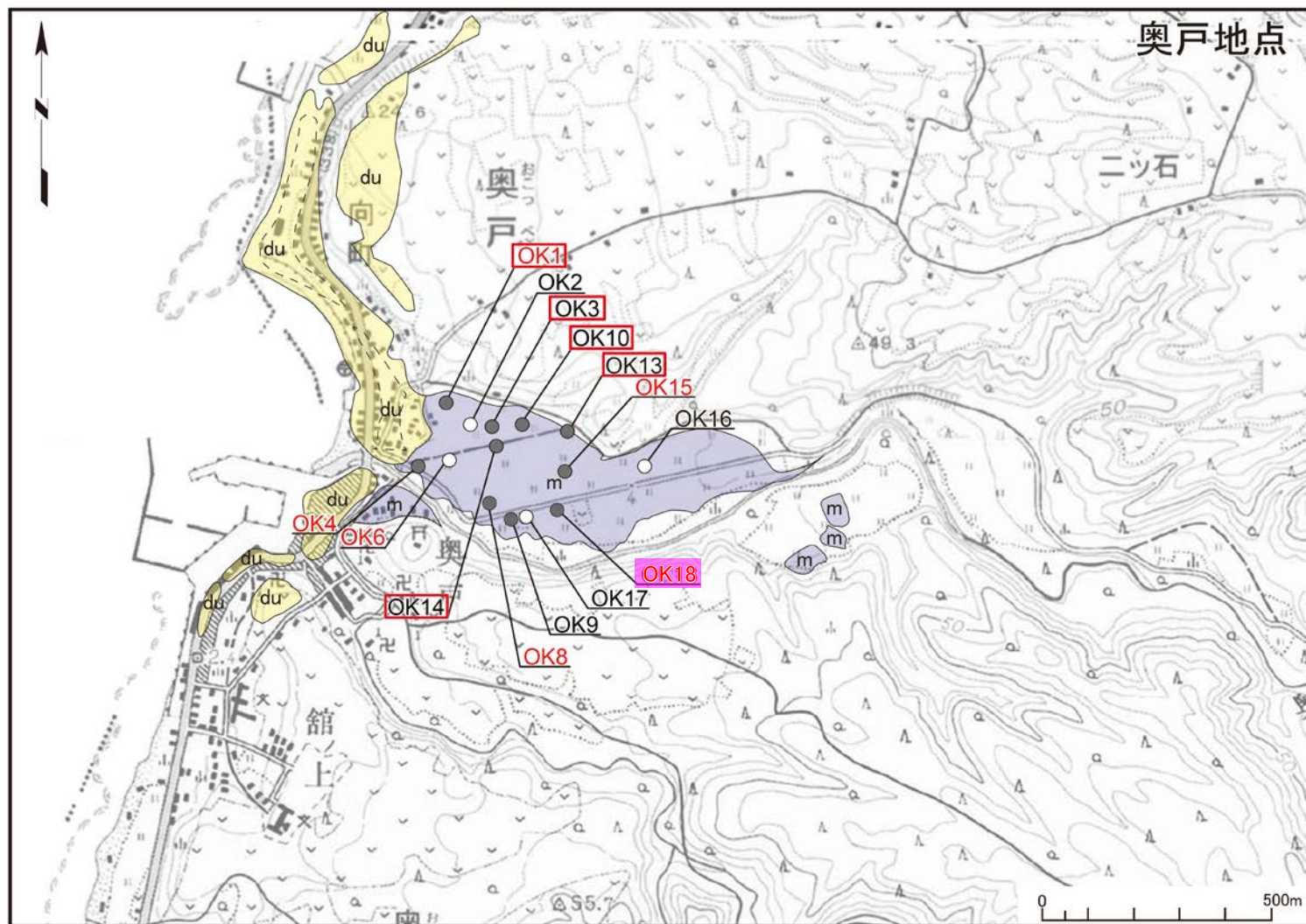
統合ボーリングコア選定区間



- OK15-3孔※1では、深度2.88m～3.24mに細粒層(有機質シルト層)が確認され、イベント堆積物の砂層が認められる。

※1 OK15-3孔は、OK15-1孔及びOK15-2孔のコア欠損区間(深度2.14m～2.36m)のコアを採取するため掘削した。

3-5. OK18地点(1／8): ボーリング調査位置



奥戸地点の調査位置図

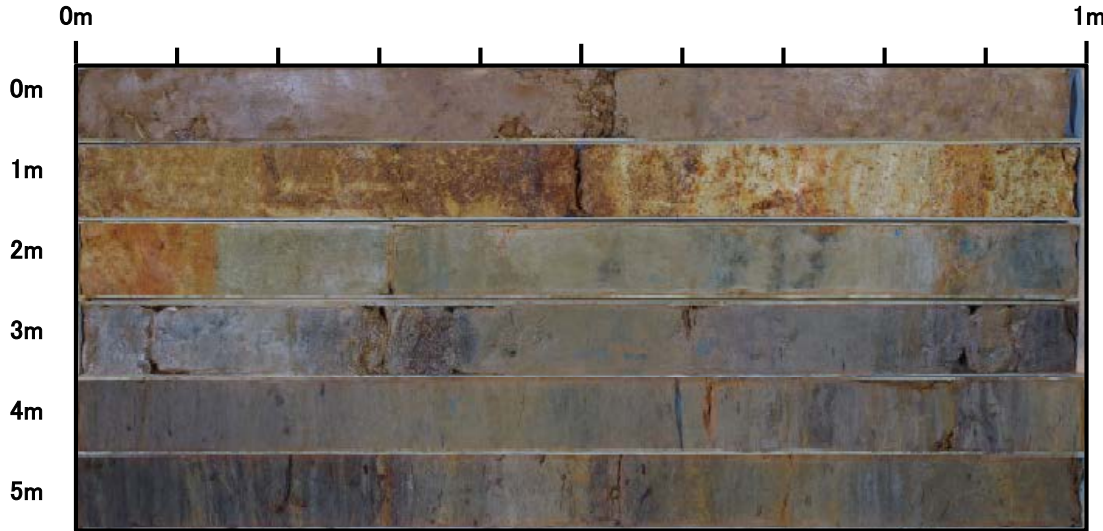
凡 例	
記号	面区分
du	砂丘
m	谷底低地 後背湿地、氾濫原
ボーリング地点名及び位置	
● OK1	連続性のある イベント堆積物が 認められた地点
● OK1	イベント堆積物が 認められた地点
○ OK1	イベント堆積物が 認められなかった地点
OK1	リカバリー孔を掘削した ボーリング地点名

- OK18地点ではボーリング孔を2孔掘削した。
- OK18地点の統合柱状図, 統合ボーリングコア写真, ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー, 並びに, 元となった各ボーリング孔の柱状図, ボーリングコア写真等のデータをP.67～P.73に示す。

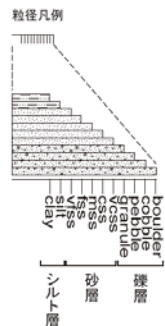
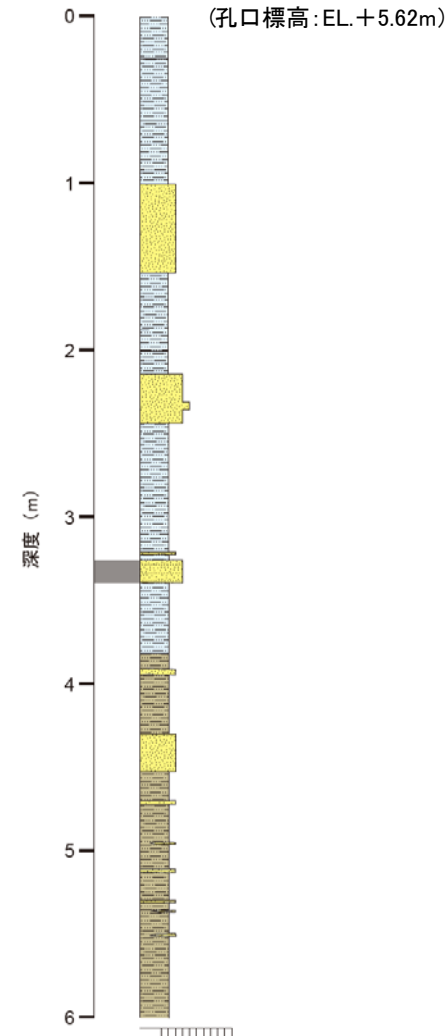
3-5. OK18地点(2/8): 統合柱状図及び統合ボーリングコア写真

コメントNo.S5-39

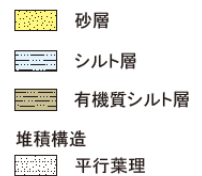
統合ボーリングコア写真



統合柱状図



柱状図 凡例



凡 例



- 主に、シルト層、有機質シルト層及び砂層からなり、深度3.3m付近の細粒層(シルト層)中に1層準のイベント堆積物が認められる。
- なお、本イベント堆積物は本孔のみで認められ、付近への連続性は認められない。
- ボーリング孔の掘止めは、おおむね現海水準と同じ海水準であった時代の堆積物が分布すると想定される深度6mとした。

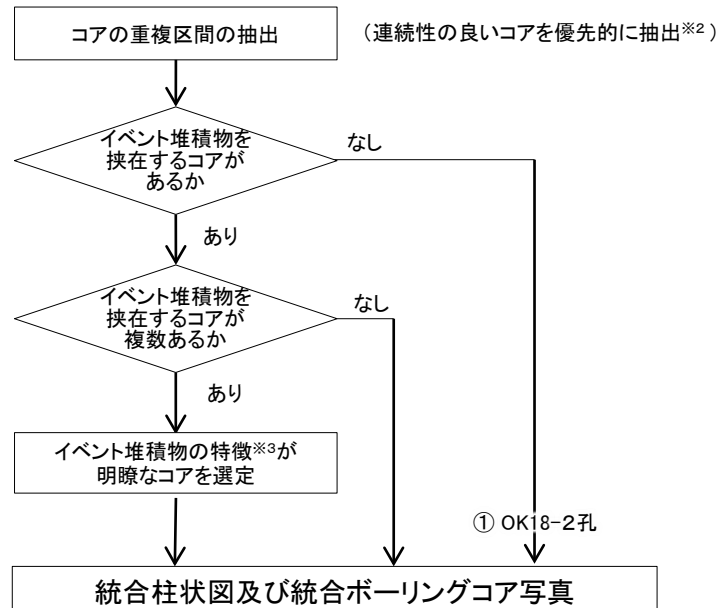


3-5. OK18地点(3／8): ボーリングコアリスト及び重複区間の選定フロー

統合した ボーリングコア		元となったボーリングコア							備考	
地点名	深度区間 (m)	枝番孔名 ^{※1}	深度区間 (m)							
			0	1	2	3	4	5		6
OK18	0 ~ 6	OK18-1								P.72を参照。
		OK18-2								P.73を参照。

統合ボーリングコア選定区間
 重複区間
 イベント堆積物

重複区間の選定フロー



- OK18地点の元となったボーリングコアの選定区間を示すとともに、コアの重複区間での選定方法を示す。
- 選定区間①の深度4.00m～6.00mについては、コアが採取されているOK18-2孔を選定した。

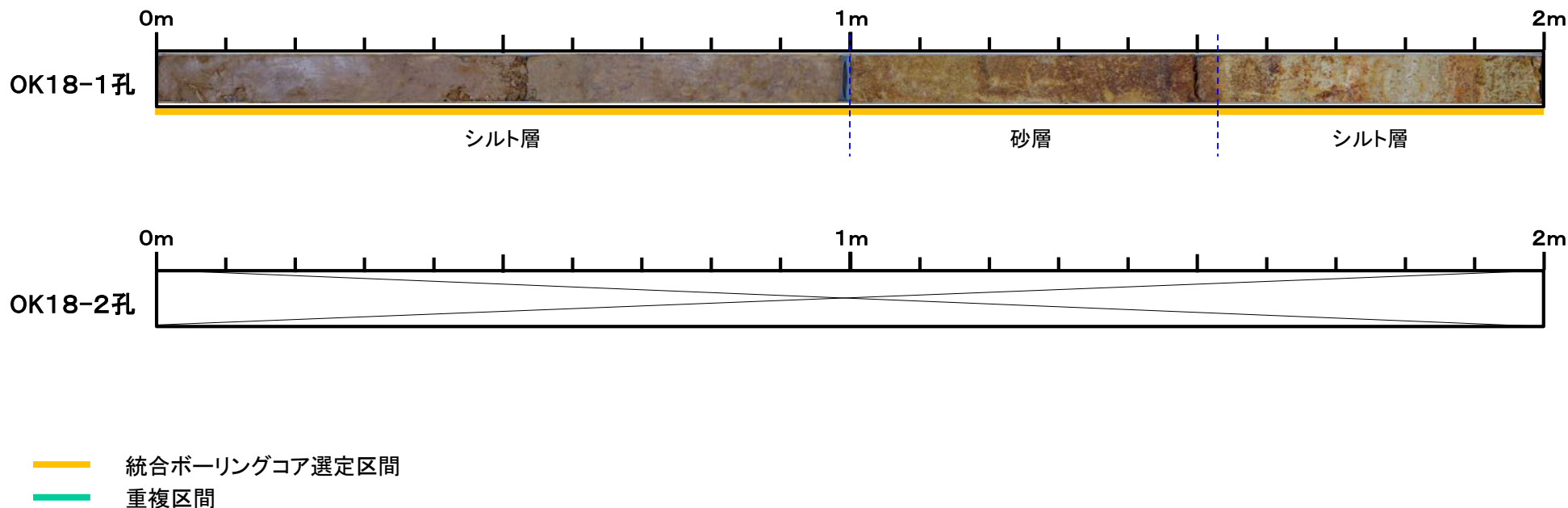
※1 OK18地点の2孔の掘削は、おおむね半径1m以内で実施した。

※2 イベント堆積物の有無を判断し得る細粒層が含まれることを考慮。

※3 静穏な環境で堆積した腐植土層やシルト層等の細粒層中の砂層や礫層等の境界が明瞭であること。



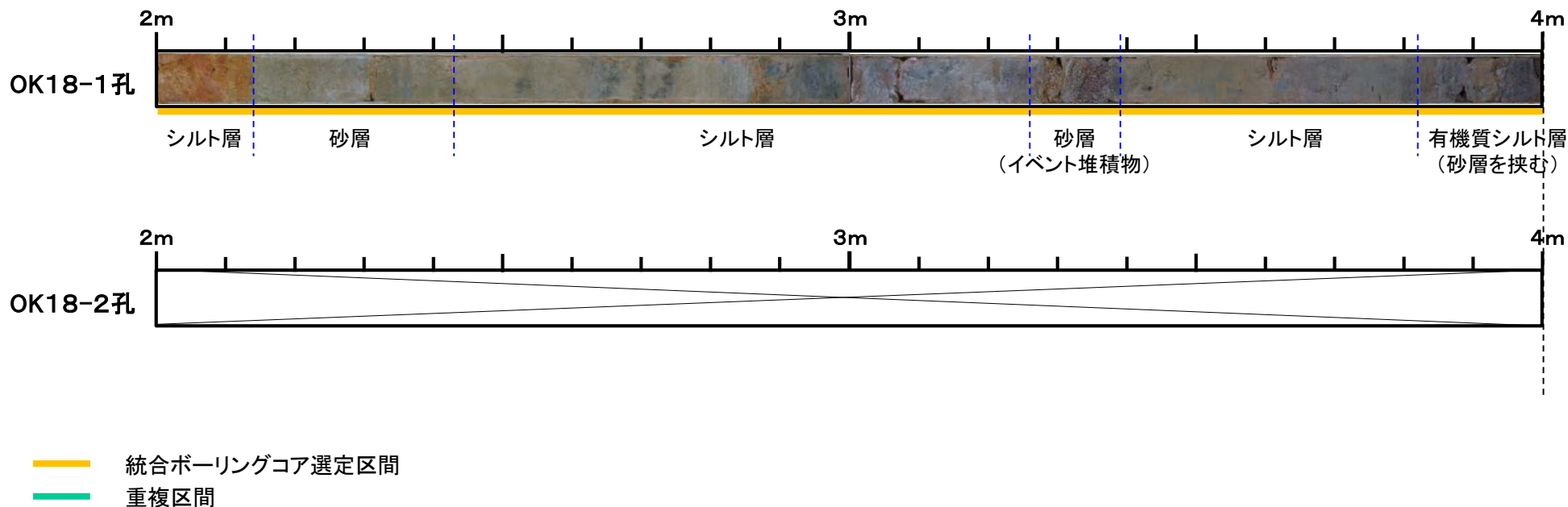
3-5. OK18地点(4／8): OK18-1～OK18-2孔のボーリングコア対比写真(1／3): 深度0m～2m



• 深度0.00m～2.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK18-1孔を選定した。



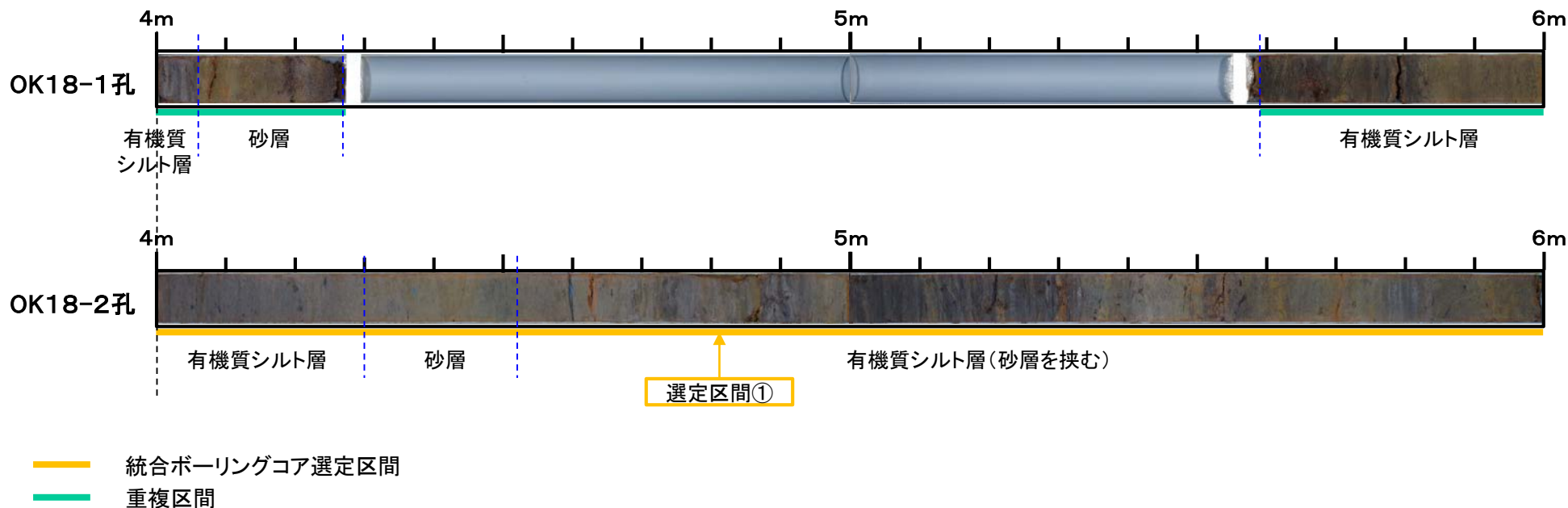
3-5. OK18地点(5／8): OK18-1～OK18-2孔のボーリングコア対比写真(2／3): 深度2m～4m



• 深度2.00m～4.00mについては、欠損区間がなく、重複区間がないため、OK18-1孔を選定した。



3-5. OK18地点(6／8): OK18-1～OK18-2孔のボーリングコア対比写真(3／3): 深度4m～6m



•選定区間①の深度4.00m～6.00mについては、欠損区間がなく、コアが採取されているOK18-2孔を選定した。

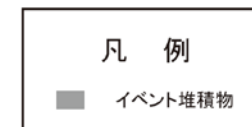
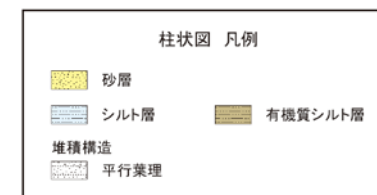
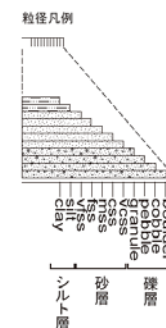
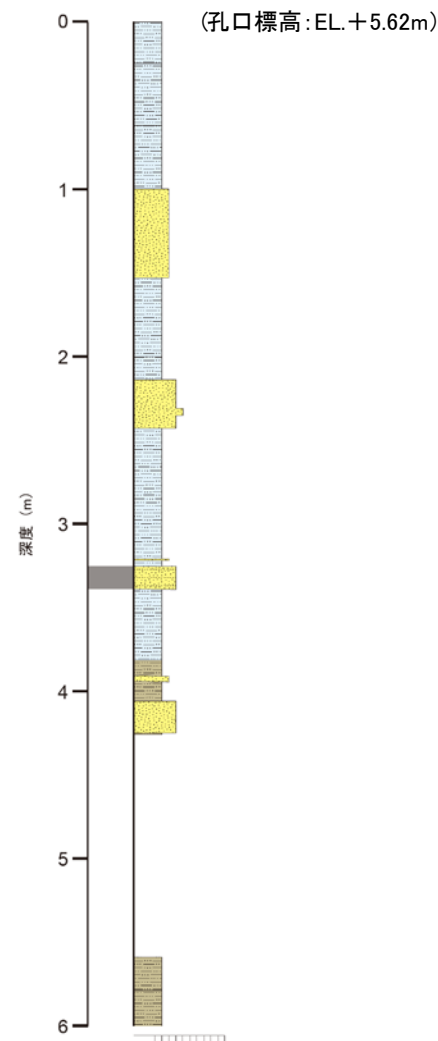
3-5. OK18地点(7／8): 柱状図及びボーリングコア写真(OK18-1孔)

柱状図

ボーリングコア写真



- OK18-1孔では、深度0.00m～4.26m、5.59m～6.00mに細粒層（シルト層及び有機質シルト層）の一部が確認され、このうち上部の細粒層中にイベント堆積物の砂層が認められる。

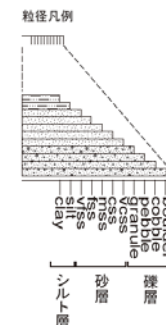
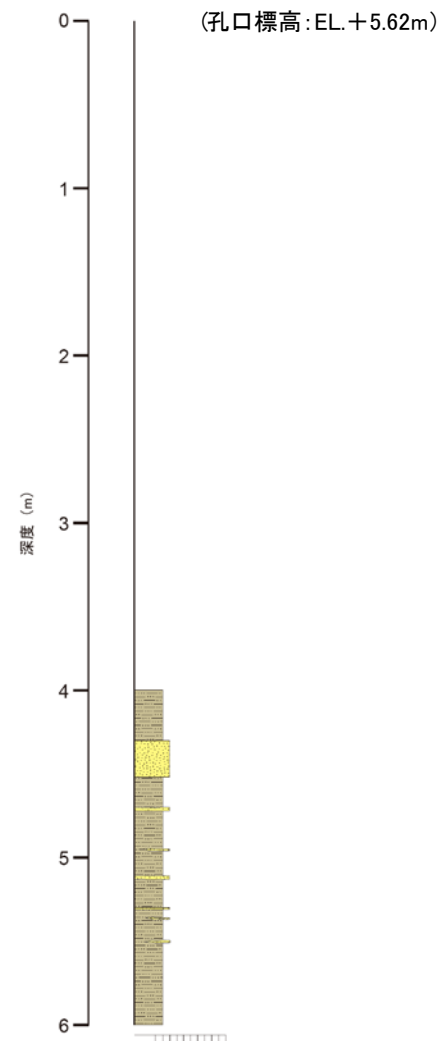
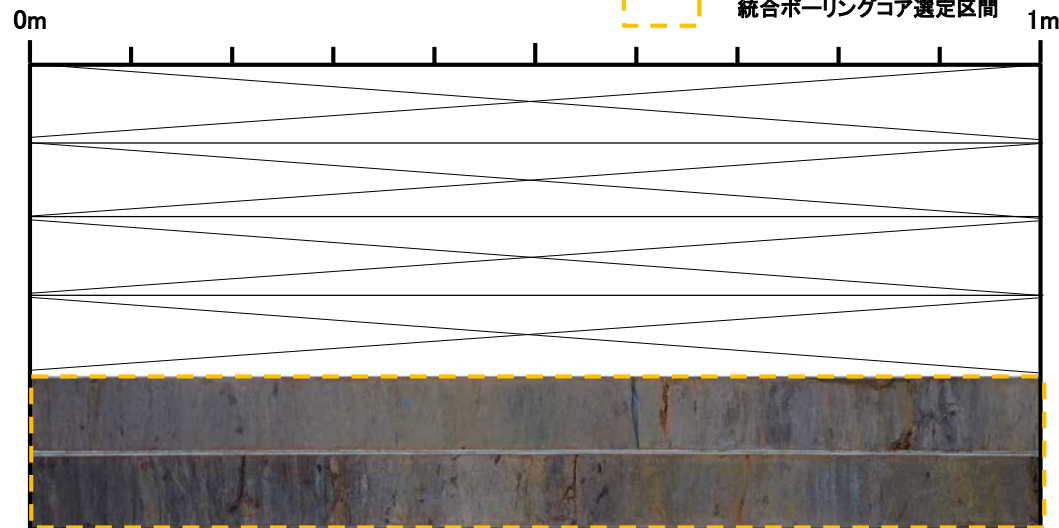




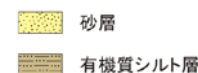
3-5. OK18地点(8／8): 柱状図及びボーリングコア写真(OK18-2孔)

柱状図

ボーリングコア写真



柱状図 凡例



- OK18-2孔※1では、深度4.00m～6.00mに細粒層（有機質シルト層）の一部を確認しているが、イベント堆積物は認められない。

※1 OK18-2孔は、OK18-1孔のコア欠損区間（深度4.26m～5.59m）のコアを採取するため掘削した。